

**第 1 6 回 国立市政世論調査
及び
第 1 1 回 国立市市民意識調査
報告書**

2 0 1 9 年 3 月

目次

・調査概要	4
・第16回国立市政世論調査結果	7
1．市政全般の満足度、優先度について	7
2．国立市の住みやすさ	9
3．コミュニティ	12
4．社会貢献的な市民活動	17
5．子どもや若者のために	21
6．文化・芸術	24
7．健康と福祉	25
8．消費者と農業・商業振興	28
9．環境（水・緑）	32
10．環境（ごみとリサイクル）	35
11．平和・男女平等・プライバシー	38
12．防災対策について	43
13．市政への関心	44
・第2回国立市市民意識調査結果	49
1．国立市全体や市民の皆様が住んでいる地域について	49
（1）みどり	49
（2）子育て	49
（3）医療機関の有無	50
（4）国立市のにぎわい	51
2．日常生活における活動や意識について	53
（1）福祉活動への取り組み	53
（2）共生社会	55
（3）公共交通機関の利用	55
（4）福祉的な交通の利用	57
（5）環境に配慮した取り組み	58
（6）防犯	59
（7）消費生活	60
（8）スポーツ・レクリエーション	61
（9）健康	61
（10）災害	62
（11）生涯学習活動	64
（12）文化・芸術活動	67
（13）歴史・文化遺産	70
（14）南部地域の魅力	71

(15) 男女平等	72
3 . 市政について	74
(1) オンブズマン制度	74
(2) 人権	74
(3) 平和	75
(4) 市政情報の入手	76
(5) 市のPR効果	79
(6) 個人情報保護	80
(6) 市のICTサービス	81
(7) 市の組織運営や職員の仕事ぶり	82

・ 調査概要

1 調査の目的

(1) 世論調査

この調査は、国立市民の市政に対する意見・要望などを把握し、今後の基本計画策定及びまちづくりの参考とするものである。

(2) 市民意識調査

この調査は、国立市民の意識や日ごろの行動などを把握し、市の基本計画で定められた施策（市・行政の各分野）の達成度を把握するものである。

2 調査の内容

(1) 世論調査

市政全般の満足度、優先度について	国立市の住みやすさについて
コミュニティ・消費者について	社会貢献的な市民活動について
子どもや若者のために	文化・芸術
健康と福祉	地域振興と観光、消費者
環境（水と緑）	ごみとリサイクル
男女平等・人権・平和、個人情報保護	防災対策について
市政について	

(2) 第2回市民意識調査

国立市全体や市民の皆様が住んでいる住む地域について
日常生活における活動や意識について
市政について

3 調査の設計

(1) 調査地域 国立市全域

(2) 調査対象 国立市在住の満18歳以上の男女

(3) 標本数 3,000人

(4) 調査方法 郵送による配票、回収

(5) 調査期間 2019年（平成31年）2月8日～2月22日

4 回収結果

(1) 発送数 3,000人（100.0%）

(2) 有効回収数 933（有効回収率31.1%）

(3) この報告書の留意点

図表中の「N」は、各質問の回答者数を示す。

回答の比率(%)は、nを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで示した。したがって、選択肢の中から1つの回答を選ぶ質問であっても、すべての選択肢の比率の合計が100.0%にならない場合がある。また、選択肢の中から一つを選ぶ設問に対し複数回答してある場合には、双方の回答を有効回答としている。

前年度までの調査から追加、変更となった項目や選択肢がある場合、過年度調査との比較表へは該当の箇所へ「-」が出力されている。

(4) 回答者の属性

図 1 性別(N=933)

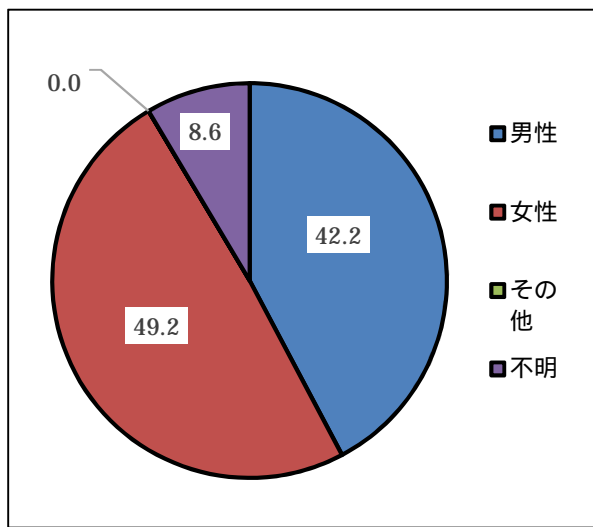


図 2 年齢(N=933)

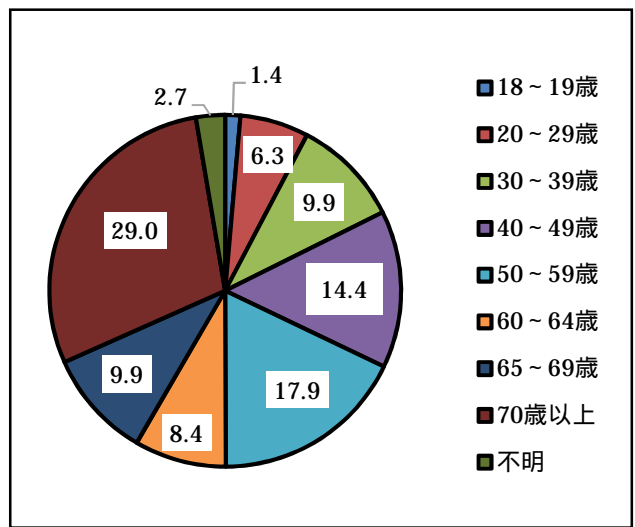


図 3 職業(N=933)

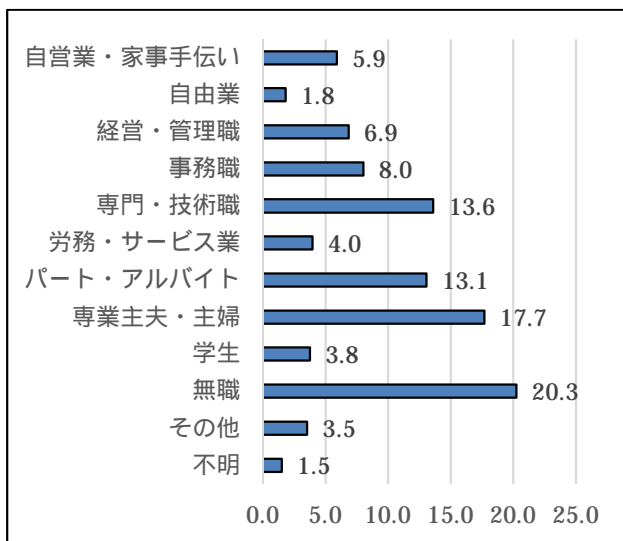


図 4 勤務者の職場地域(N=497)

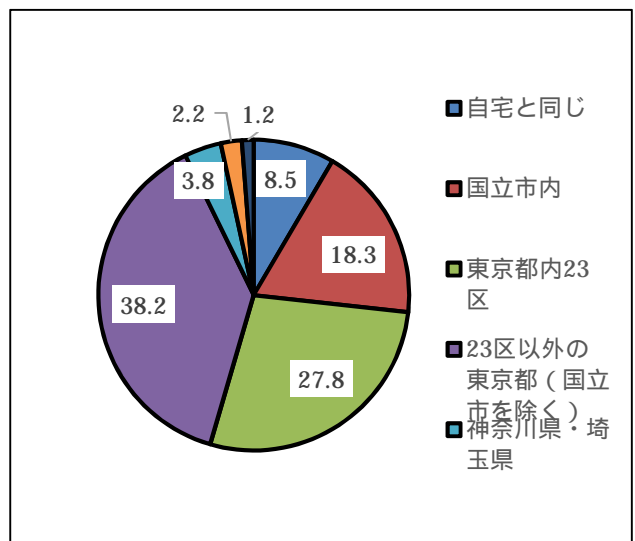


図 5 住居形態(N=933)

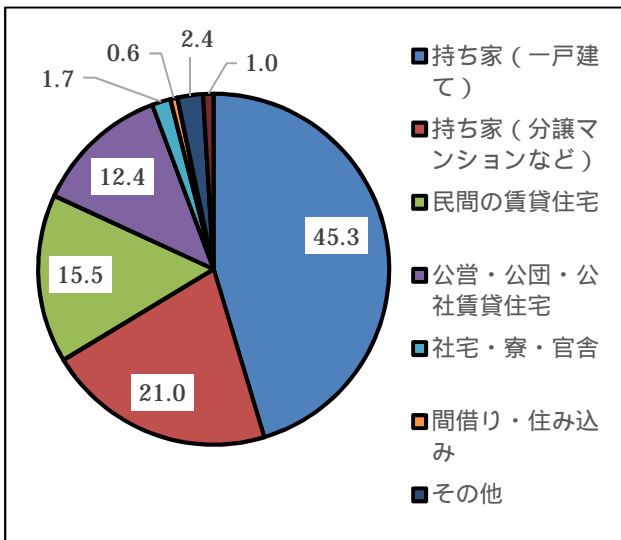


図 6 家族構成(N=933)

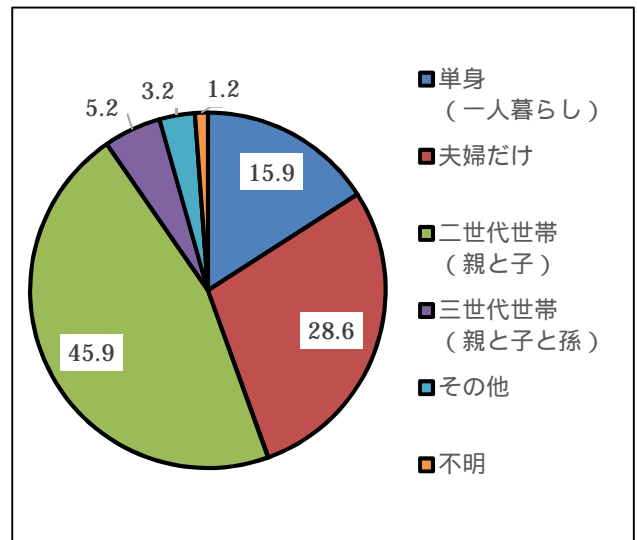


図 7 家族形態(N=935)

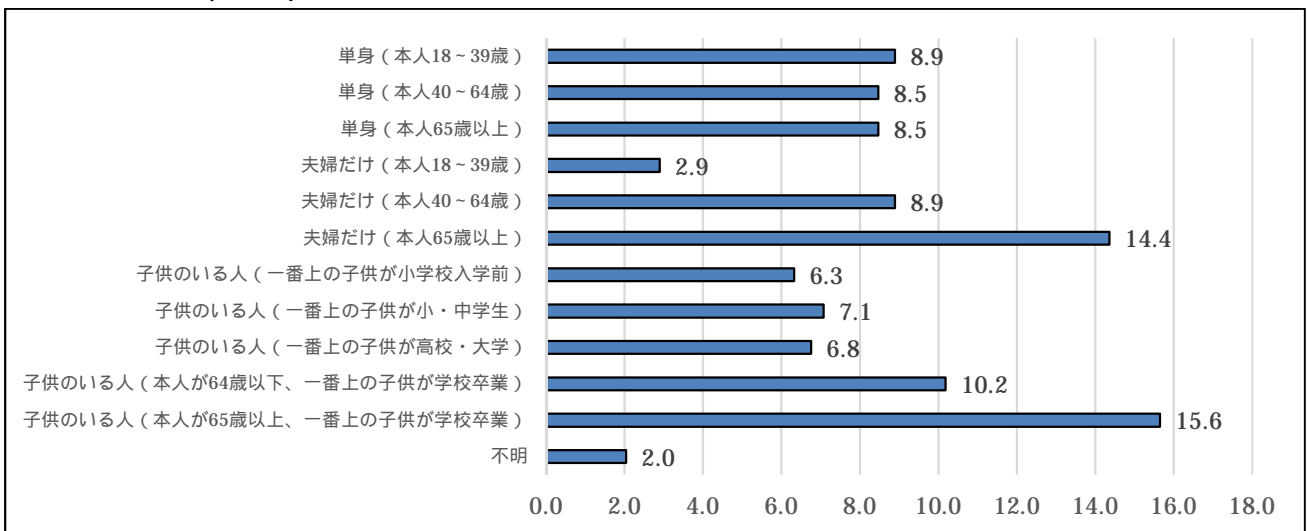


図 8 居住地域(N=935)

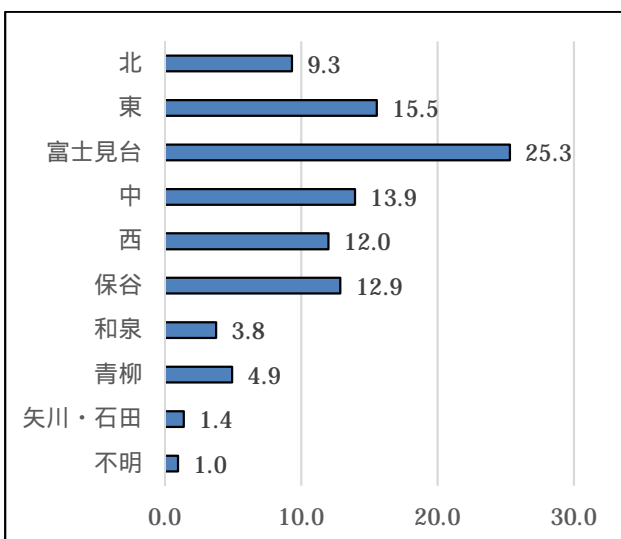
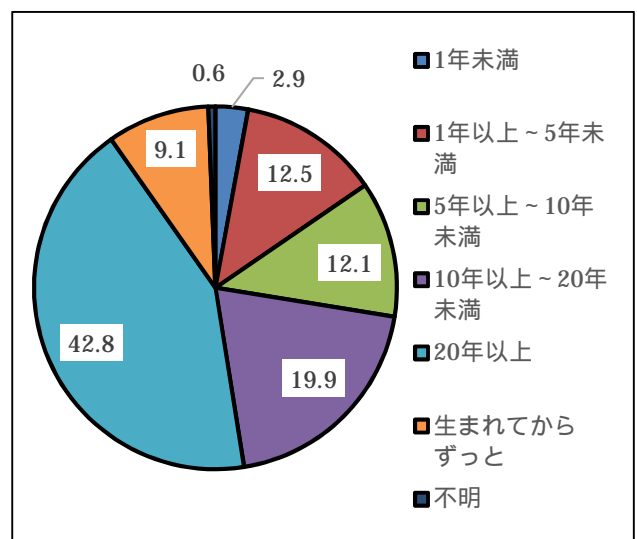


図 9 居住年数(N=935)



第16回国立市政世論調査結果

1. 市政全般の満足度、優先度について

問1 国立市では、基本計画にて施策を定め、計画的に行政運営やまちづくりを行っています。あなたは、以下の基本計画上の施策の取り組みについて、どの程度評価していますか。また、今後それらに対して、どのくらい力を入れてほしいと思いますか。各項目の当てはまる番号に をつけてください。

(1) 現在の評価度

国立市の基本計画上 32 の施策の取り組みについての評価をみたのが次ページのグラフである。「わからない」との回答が 30%を超える施策が多数みられるが、「評価できる」と「どちらかといえば評価できる」の合計値が 50%を超える施策は、以下の 16 施策となっており、「評価できる」と「どちらかといえば評価できる」の合計値が最も高い施策は「17 花と緑と水のある環境づくり」となった。

ただし、この 16 施策のうち「評価できない」と「どちらかといえば評価できない」の合計値が 20%を超える施策が 4 施策あることに留意しておく必要がある。

【「評価できる」と「どちらかといえば評価できる」の合計値が 50%を超える施策】

	評価できる計	評価できない計
1 人権・平和の推進	54.0	9.7
2 男女共同参画社会の実現と女性への総合的な支援	51.0	12.4
3 子育て環境の充実	51.7	17.6
4 地域ぐるみでの子育て支援	51.4	16.2
6 文化・芸術活動の推進と歴史・文化遺産の適切な保護	59.8	16.6
7 生涯学習の環境づくり	53.9	17.9
9 健康づくりの推進及び保健と医療の連携強化	61.9	14.4
10 高齢者福祉の充実	52.6	17.2
11 しょうがいしゃの支援	54.9	11.1
17 花と緑と水のある環境づくり	68.3	13.5
18 環境の保全	54.1	16.0
19 ごみの減量と適正処理	65.7	21.3
20 道路の整備と適正管理	51.3	31.4
21 交通環境の整備	54.0	28.8
22 市街地整備の推進(国立駅周辺地域・富士見台地域整備)	51.4	24.7
25 下水道の整備・維持・更新	50.2	15.7

「評価できる」と「どちらかといえば評価できる」の合計値が 50%を下回り、「評価できない」と「どちらかといえば評価できない」の合計値が 20%を超える施策は、以下の 9 施策となっており、「評価できない」と「どちらかといえば評価できない」の合計値が最も高い施策は「28 変化に対応できる柔軟で効率的な行政運営」となった。

【「評価できない」と「どちらかといえば評価できない」の合計値が20%を超える施策】

	評価できる計	評価できない計
8 スポーツの振興	47.2	20.1
14 防犯対策の強化	47.2	21.1
16 消費生活環境の整備	30.9	23.3
23 南部地域の整備	35.9	20.7
26 商工業振興と観光施策の強化	33.4	31.2
28 変化に対応できる柔軟で効率的な行政運営	28.8	25.2
29 情報の積極的な発信と共有・保護	35.0	23.7
31 将来にわたって持続可能な財政運営	32.1	22.4
32 公共施設マネジメントの推進	27.0	21.3

(2) 今後の優先度

国立市の基本計画上の32の施策の取り組みについて、今後の優先度をみたのが次のグラフである。

施策名称	力を入れてほしい計	力を入れる必要はない計
1 人権・平和の推進	62.5	16.1
2 男女共同参画社会の実現と女性への総合的な支援	65.8	13.4
3 子育て環境の充実	82.2	3.4
4 地域ぐるみでの子育て支援	80.5	5.3
5 学校教育の充実	81.1	4.0
6 文化・芸術活動の推進と歴史・文化遺産の適切な保護	62.5	21.2
7 生涯学習の環境づくり	71.4	12.7
8 スポーツの振興	64.5	19.1
9 健康づくりの推進及び保健と医療の連携強化	83.1	6.0
10 高齢者福祉の充実	81.9	6.4
11 しょうがいしゃの支援	79.3	6.2
12 支え合いの地域づくりと自立支援	66.1	12.9
13 防災体制の充実	85.4	3.4
14 防犯対策の強化	85.2	4.1
15 コミュニティ活動の促進	60.7	19.1
16 消費生活環境の整備	55.0	21.2
17 花と緑と水のある環境づくり	76.1	12.4
18 環境の保全	74.9	10.8
19 ごみの減量と適正処理	79.4	9.9
20 道路の整備と適正管理	72.2	16.0
21 交通環境の整備	76.9	12.9
22 市街地整備の推進(国立駅周辺地域・富士見台地域整備)	62.8	21.1
23 南部地域の整備	52.4	19.1

施策名称	力を入れてほしい計	力を入れる必要はない計
24 地域特性を活かしたまちづくりの推進	60.0	15.1
25 下水道の整備・維持・更新	80.7	5.8
26 商工業振興と観光施策の強化	61.5	19.9
27 農業振興と農地保全の推進	58.7	18.1
28 変化に対応できる柔軟で効率的な行政運営	63.1	10.9
29 情報の積極的な発信と共有・保護	61.0	15.2
30 市民連携・市民協働・市民参画の推進	47.7	18.0
31 将来にわたって持続可能な財政運営	69.4	6.9
32 公共施設マネジメントの推進	56.8	11.2

「力を入れてほしい計」は「特に力を入れてほしい」と「力をいれてほしい」の合計値。

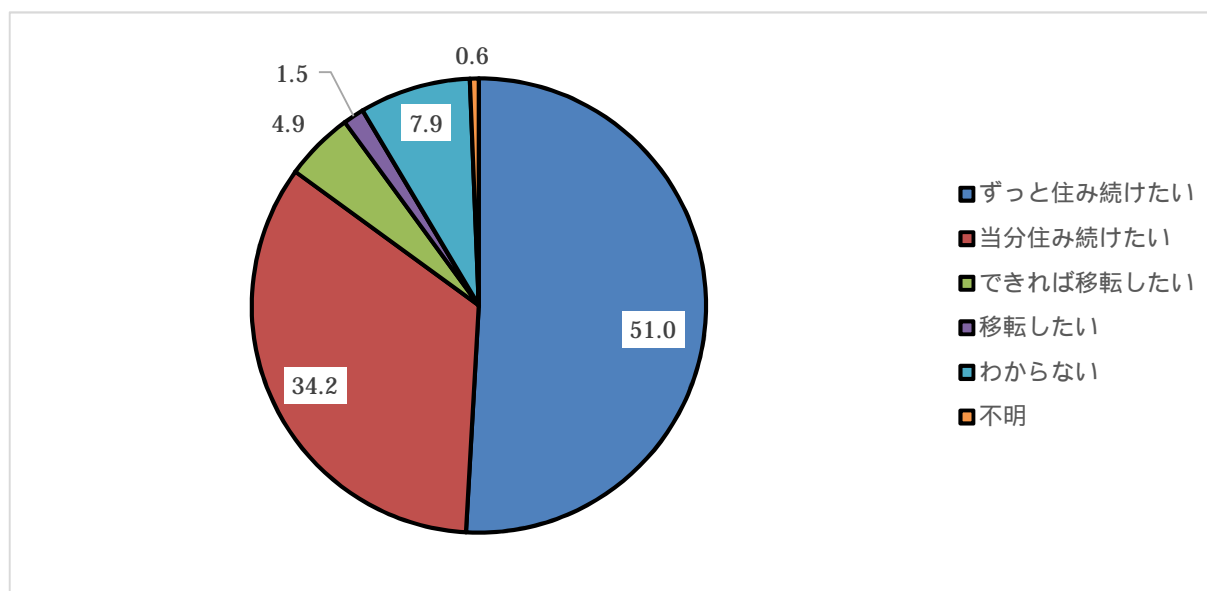
「力を入れる必要はない計」は「あまり力を入れる必要はない」と「力を入れる必要はない」の合計値。

2. 国立市の住みやすさ

(1) 今後の居留意向

国立市への今後の居留意向をみると、「ずっと住み続けたい」は51.0%、「当分住み続けたい」は34.0%であり、この両者を合わせると84.8%と多数が「住み続けたい」と回答している。

問2 今後の居留意向(N=933)



第15回調査結果と比較すると、「当分住み続けたい」では第16回調査が51.0%であるが、第15回調査では28.8%となっており、5.4%増加し、「住み続けたい」としている人が多数を占めている。

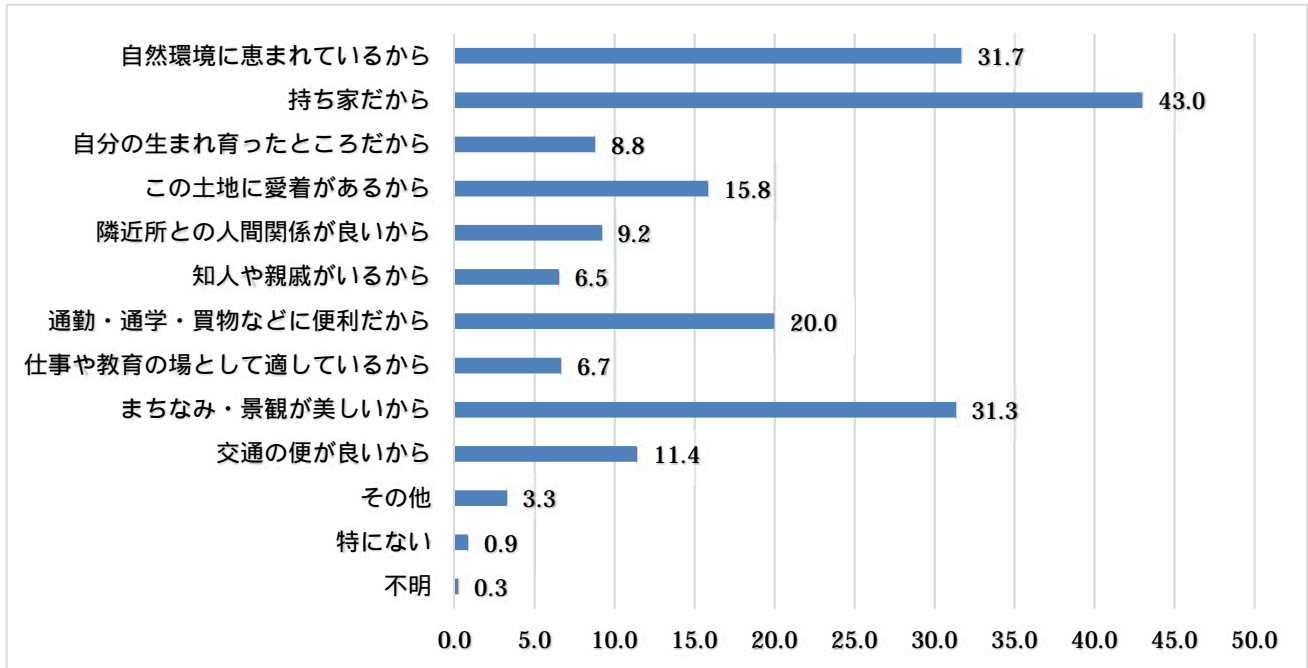
(%)

	ずっと 住み続けたい	当分 住み続けたい	できれば 移転したい	移転したい	わからない	無回答
第16回(H30)	51.0	34.2	4.9	1.5	7.9	0.6
第15回(H26)	52.4	28.8	5.1	1.1	8.6	4.0
第14回(H22)	52.6	27.5	6.2	1.3	12.2	0.2

(2) 住み続けたい理由

住み続けたい市民(ずっと住み続けたい、当分住み続けたいと回答した市民)の住み続けたい理由としては、「持ち家だから」(43.0%)、「自然環境に恵まれているから」(31.7%)、「まちなみ・景観が美しいから」(31.3%)が挙げられる。

問3 住み続けたい理由(N=795)



第15回調査結果と比較すると、「通勤・通学・買物などに便利だから」が第16回調査では20.0%であるが、第15回調査では15.5%となっており4.5%増加している。逆に「知人や親戚がいるから」が第16回調査では6.5%であるが、第15回調査では10.4%となっており3.9%減少している。

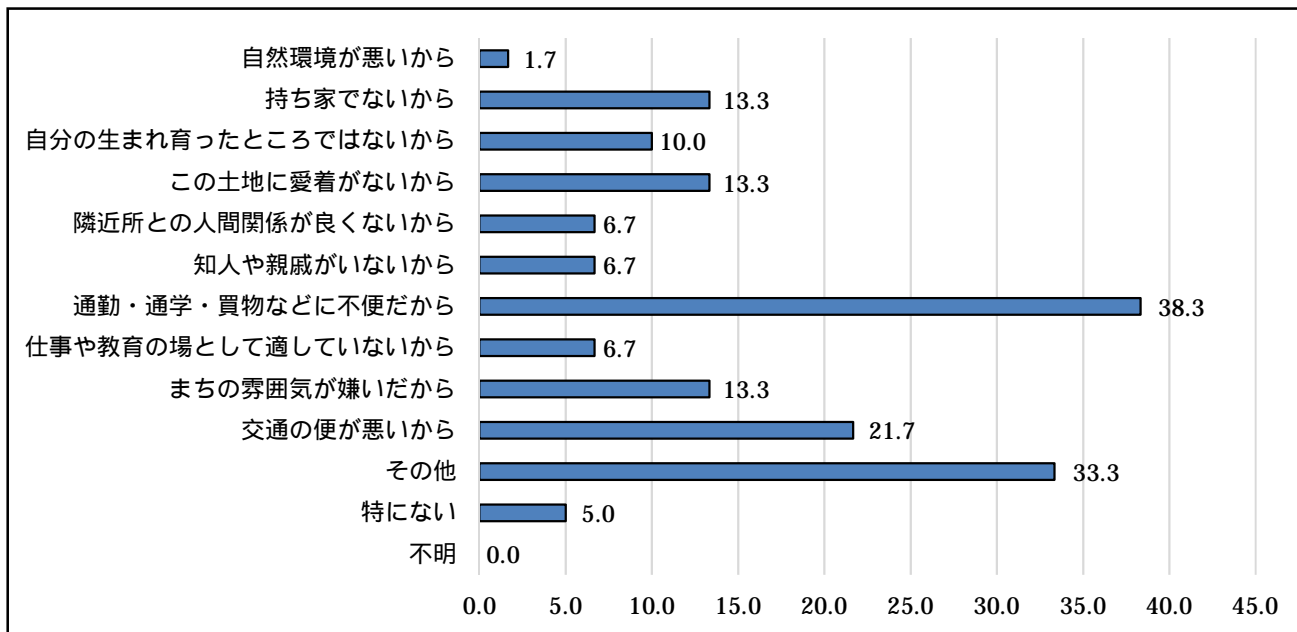
(%)

	自然環境に恵まれているから	持ち家だから	自分の生まれ育ったところだから	この土地に愛着があるから	隣近所との人間関係が良いから	知人や親戚がいるから	通勤・通学・買物などに便利だから	仕事や教育の場として適しているから	まちなみ・景観が美しいから	交通の便が良いから	その他	特にない	不明
第16回(H30)	31.7	43.0	8.8	15.8	9.2	6.5	20.0	6.7	31.3	11.4	3.3	0.9	0.3
第15回(H26)	33.5	40.4	7.5	19.2	6.1	10.4	15.5	6.9	35.6	9.9	3.0	1.0	0.5
第14回(H22)	29.1	42.6	8.9	17.2	5.5	9.5	16.4	7.2	31.0	9.1	2.8	1.0	0.1

(3) 移転したい理由

移転したい市民(できれば移転したい、移転したいと回答した市民)の移転したい理由としては、主に「通勤・通学・買物などに不便だから」(38.3%)、「その他」(33.3%)、「交通の便が悪いから」(21.7%)、「持ち家でないから」(13.3%)、「この土地に愛着がないから」(11.6%)、「まちの雰囲気が嫌いだから」(11.6%)となっている。

問4 移転したい理由(N=60)



第15回調査結果と比較すると、「交通の便が悪いから」が第16回調査では38.3%であるが、第15回調査では12.7%となっており25.6%と顕著に上昇している。

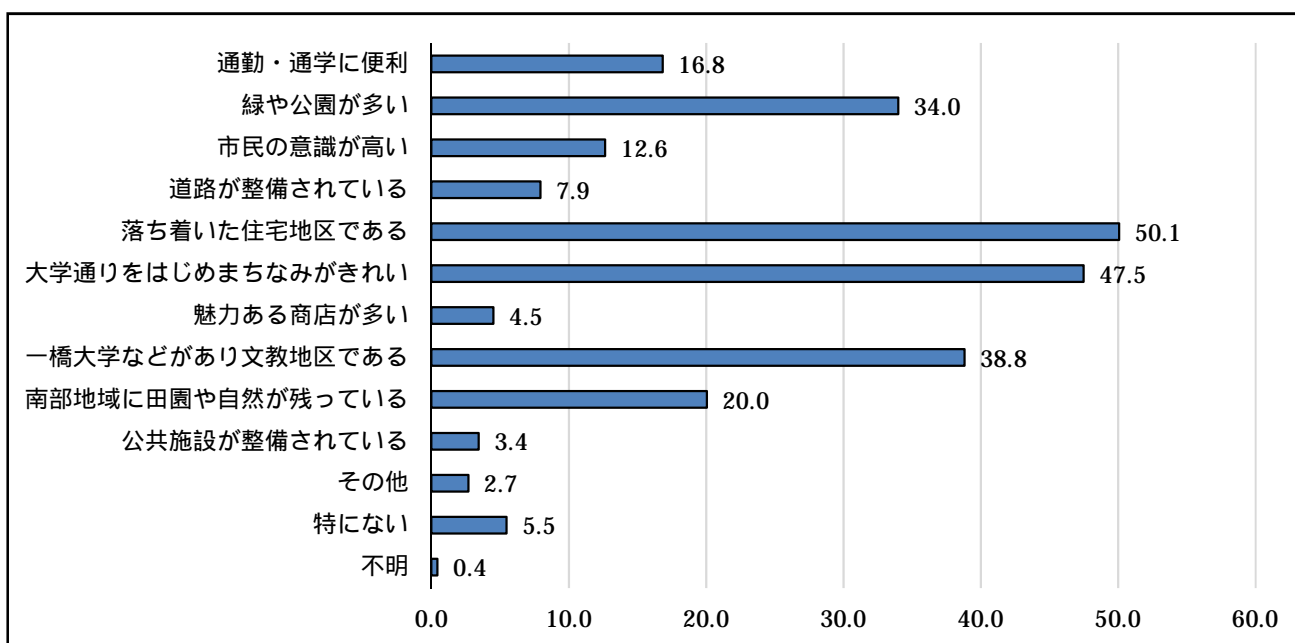
	(%)												
	通勤・通学・買物などに不便だから	持ち家でないから	交通の便が悪いから	この土地に愛着がないから	まちの雰囲気が嫌いだから	自分の生まれ育ったところではないから	隣近所との人間関係が良くないから	仕事や教育の場として適していないから	知人や親戚がいないから	自然環境が悪いから	その他	特にない	不明
第16回(H30)	38.3	13.3	38.3	13.3	13.3	10.0	6.7	6.7	6.7	1.7	33.3	5.0	0.0
第15回(H26)	34.9	14.3	12.7	20.6	7.9	11.1	12.7	6.3	6.3	4.8	25.4	3.0	1.6
第14回(H22)	34.7	18.9	13.7	11.6	11.6	4.2	4.2	4.2	3.2	0.0	29.5	3.2	4.2

3. コミュニティ

(1) 国立市の魅力

国立市の魅力について伺ったところ、主に「落ち着いた住宅地区である」(50.1%)、「大学通りをはじめまちなみがきれい」(47.5%)、「一橋大学などがあり文教地区である」(38.8%)、「緑や公園が多い」(34.0%)が挙げられた。

問5 国立市の魅力(N=933)



第15回調査結果と比較すると、割合が増えているものとしては「大学通りをはじめまちなみがきれい」が6.1%、「一橋大学などがあり文教地区である」が0.4%増加し、逆に「落ち着いた住宅地区である」が3.7%、「緑や公園が多い」が4.6%減少している。

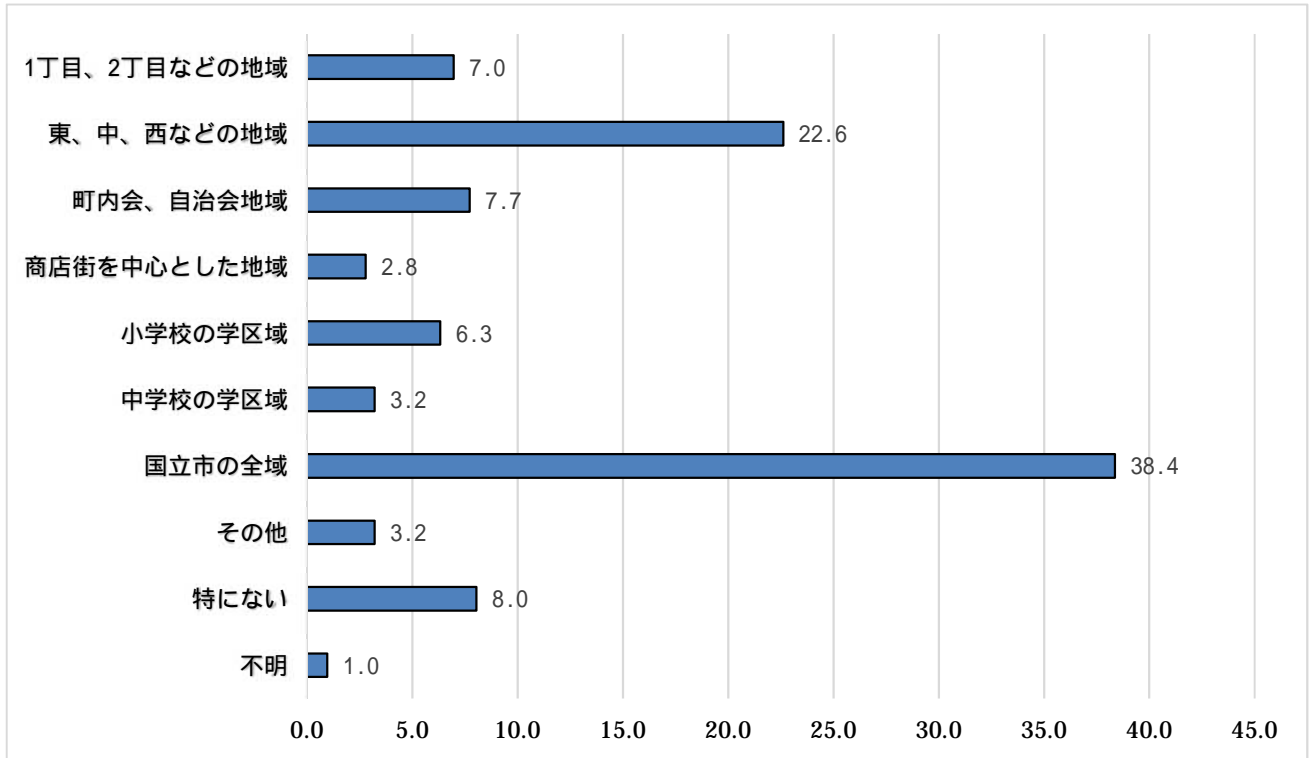
(%)

	大学通りをはじめまちなみがきれい	落ち着いた住宅地区である	一橋大学などがあり文教地区である	緑や公園が多い	南部地域に田園や自然が残っている	通勤・通学に便利	市民の意識が高い	道路が整備されている	魅力ある商店が多い	公共施設が整備されている	その他	特にない	不明
第16回(H30)	47.5	50.1	38.8	34.0	20.0	16.8	12.6	7.9	4.5	3.4	2.7	5.5	0.4
第15回(H26)	51.2	44.0	38.4	38.6	22.1	15.3	12.8	8.1	4.8	2.7	2.1	3.1	3.8
第14回(H22)	49.0	48.0	36.4	31.3	20.4	14.2	13.0	6.3	5.8	2.6	2.9	6.0	0.5

(2) 「私たちの地域」の範囲

国立市民が「私たちの地域」という言葉で思い浮かぶ範囲については、「国立市の全域」と答えた市民が38.4%、「東、中、西などの地域」が22.6%となった。

問6 「私たちの地域」の範囲(N=933)



第15回調査結果と比較すると、「商店街を中心とした地域」が第16回調査では2.8%であるが、第15回調査では8.2%となっており5.4%減少している。

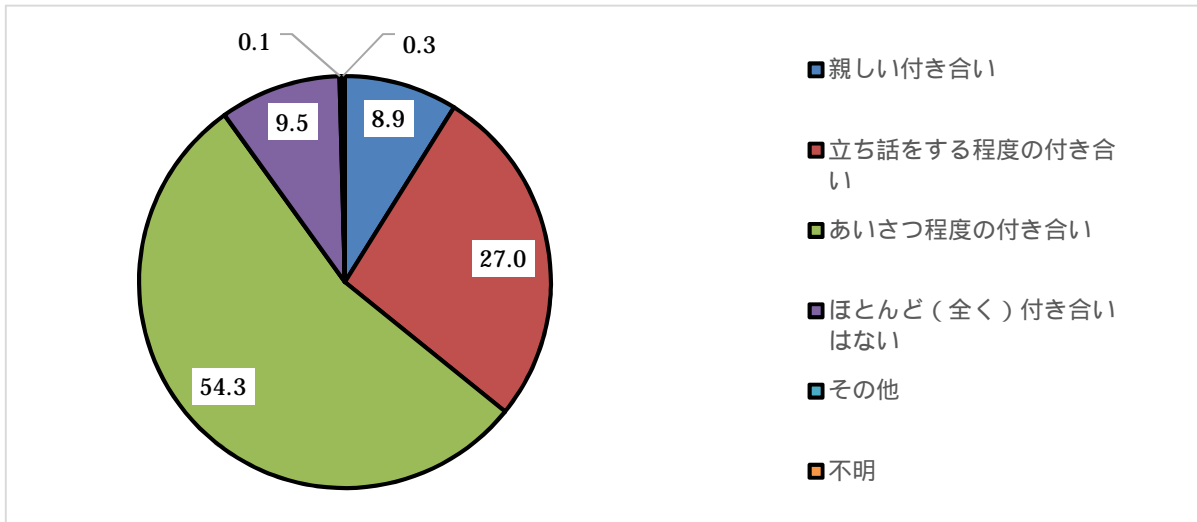
(%)

	1丁目、2丁目などの地域	東、中、西などの地域	町内会、自治会地域	商店街を中心とした地域	小学校の学区	中学校の学区	国立市の全域	その他	特にない	不明
第16回(H30)	7.0	22.6	7.7	2.8	6.3	3.2	38.4	3.2	8.0	1.0
第15回(H26)	7.9	21.7	8.2	8.2	5.6	2.9	36.9	2.2	6.4	4.5
第14回(H22)	6.7	21.8	9.4	4.3	5.4	2.2	39.3	2.8	7.0	1.1

(3) 近所付き合いの範囲

市民が日頃隣近所とどの程度お付き合いをしているか伺ったところ、「会えばあいさつする程度の付き合いをしている」と答えた市民が54.3%となった。

問7 近所付き合いの範囲(N=935)



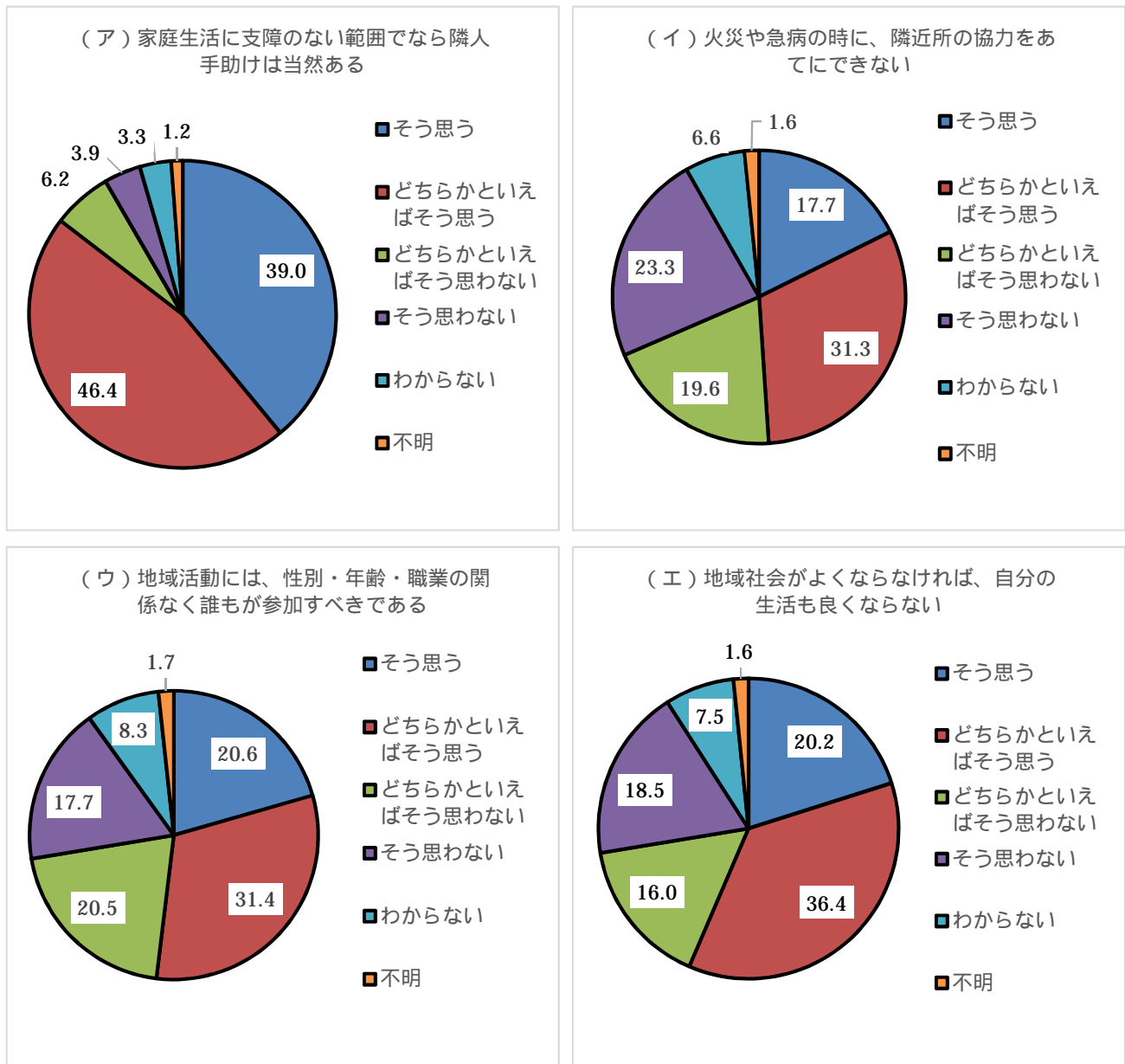
第15回調査結果と比較すると、「会えばあいさつする程度の付き合いをしている」が第16回調査では54.3%であるが、第15回調査では48.2%となっており6.1%増加している。

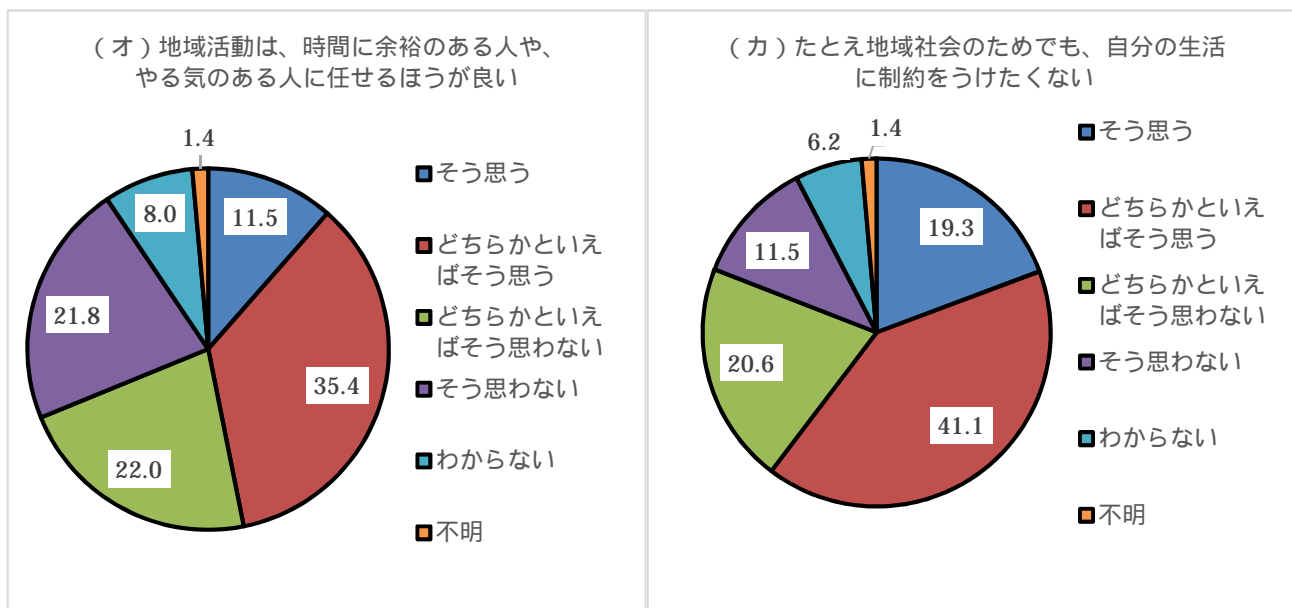
	(%)					
	訪問しあったり、留守の時頼み合う等親しい付き合いをしている	道で会えば立ち話をする程度の付き合いをしている	会えばあいさつする程度の付き合いをしている	顔を知らずほとんど(全く)付き合いはない	その他	不明
第16回(H30)	8.9	27.0	54.3	9.5	0.1	0.3
第15回(H26)	10.3	27.4	48.2	9.8	1.0	3.2
第14回(H22)	11.6	27.7	51.8	7.8	0.8	0.3

(4) 地域における人との付き合い、地域との関わりの考え方

地域における人との付き合い、地域との関わりの考え方について伺ったところ、「家庭生活に支障のない範囲でなら隣人の手助けは当然である」と思う人の割合(そう思う、どちらかといえばそう思うの合計)が82.3%と大半を占める。

問8 地域における人との付き合い、地域との関わりの考え方(N=933)





第15回の調査結果と比較すると、全体的な回答傾向は変わらないが、「(カ)たとえ地域社会のためでも、自分の生活に制約をうけたくない」の肯定回答（そう思う、どちらかといえばそう思うの合計）が第16回調査では60.3%であるが、第15回調査では55.5%となっており4.8%上昇している。

(%)

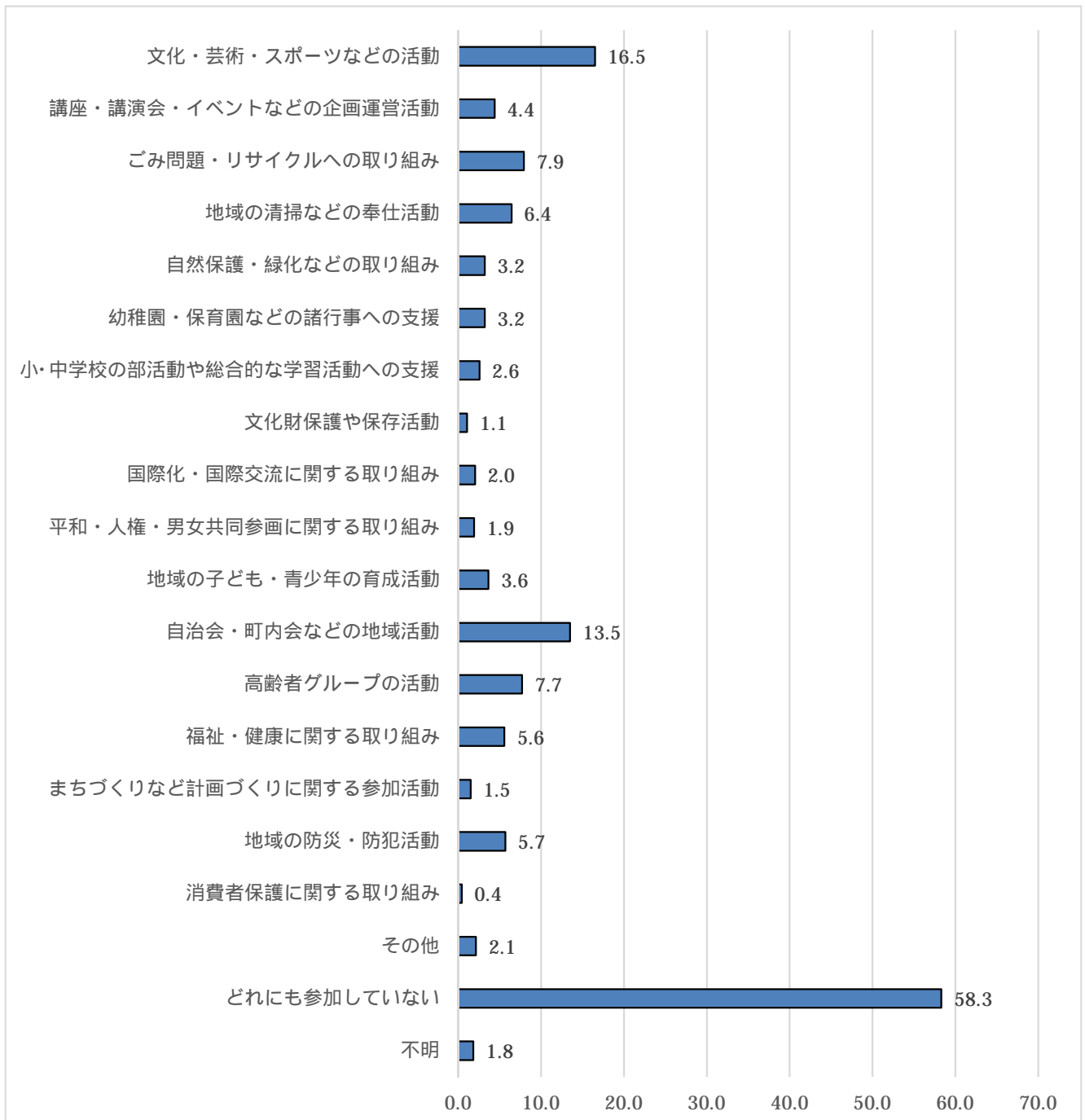
	第16回	第15回	第14回
(ア) 家庭生活に支障のない範囲でなら隣人の手助けは当然である	85.4	81.0	82.3
(イ) 火災や急病の時に、隣近所の協力をあてにできない	49.0	44.6	41.0
(ウ) 地域活動には、性別・年齢・職業の関係なく誰もが参加すべきである	52.0	53.8	58.5
(エ) 地域社会がよくならなければ、自分の生活も良くならない	56.6	55.9	64.4
(オ) 地域活動は、時間に余裕のある人や、やる気のある人に任せる方が良い	46.8	45.5	48.4
(カ) たとえ地域社会のためでも、自分の生活に制約をうけたくない	60.3	55.5	57.2

4. 社会貢献的な市民活動

(1) グループ活動や地域活動の参加状況

グループ活動や地域活動の参加状況について伺ったところ、58.3%の市民が参加していないと回答した。参加している活動で高い項目としては、「文化・芸術・スポーツなどの活動」(16.5%)、「自治会・町内会などの地域活動」(13.5%)が挙げられる。

問9 グループ活動や地域活動の参加状況(N=933)



第 15 回調査結果と比較すると、あまり変化はみられなかった。

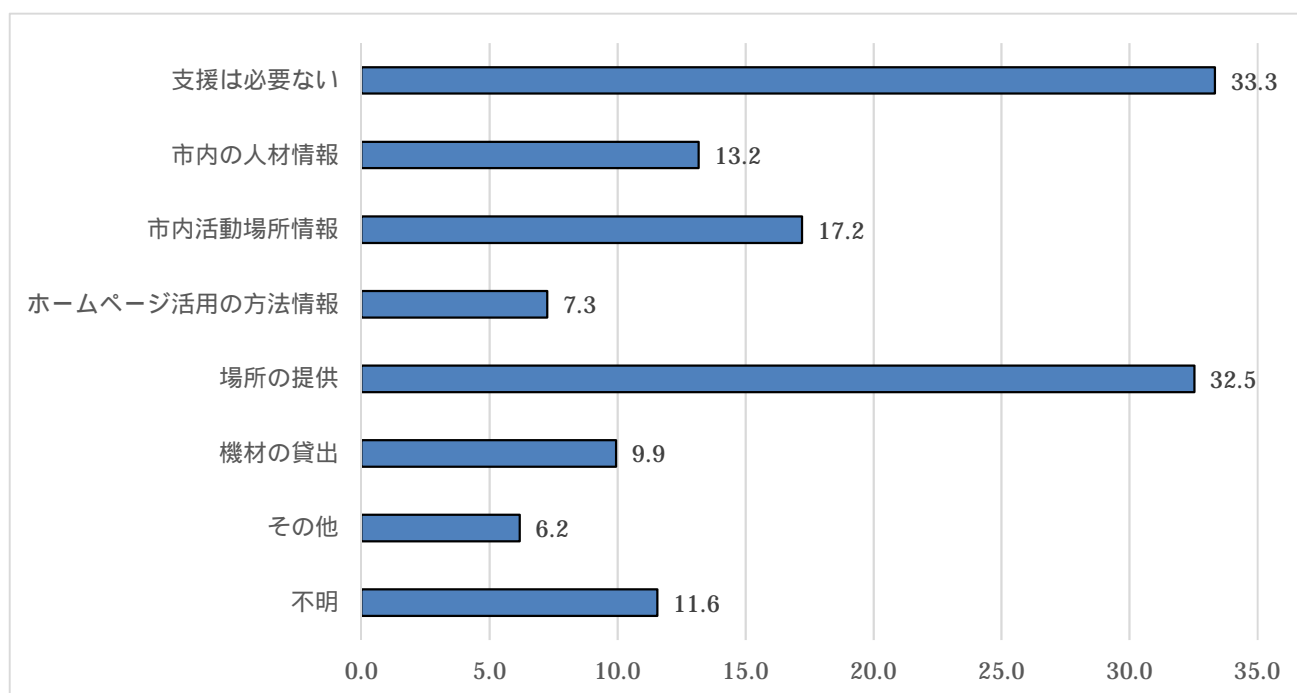
(%)

	文化・芸術・スポーツなどの活動	自治会・町内会などの地域活動	ごみ問題・リサイクルへの取り組み	地域の清掃などの奉仕活動	高齢者グループの活動	地域の防災・防犯活動	福祉・健康に関する取り組み	地域の子ども・青少年の育成活動	小・中学校の部活動や総合的な学習活動	講座・講演会・イベントなどの企画運営活動
第 16 回(H30)	16.5	13.5	7.9	6.4	7.7	5.7	5.6	3.6	2.6	4.4
第 15 回(H26)	15.8	14.1	9.6	9.0	5.2	6.3	4.7	4.3	2.7	4.4
第 14 回(H22)	15.3	14.3	8.6	8.6	5.4	5.0	4.3	3.6	3.1	3.0
	幼稚園・保育園などの諸行事への支援	自然保護・緑化などの取り組み	国際化・国際交流に関する取り組み	平和・人権・男女共同参画に関する取り組み	まちづくりなど計画づくりに関する参加活動	文化財保護や保存活動	消費者保護に関する取り組み	その他	どれにも参加していない	無回答
第 16 回(H30)	3.2	3.2	2.0	1.9	1.5	1.1	0.4	2.1	58.3	1.8
第 15 回(H26)	3.4	3.9	1.8	1.0	1.5	1.0	0.4	2.0	54.5	6.0
第 14 回(H22)	2.4	2.2	1.1	1.1	0.9	0.6	0.4	2.0	59.3	0.6

(2) 現在参加しているグループ活動や地域活動に必要な支援

グループ活動や地域活動に参加している市民に対して、現在の活動に必要な支援について伺ったところ、「支援は必要ない」と答えた市民が 33.3%と最も高く、必要な支援としては「場所の提供」が 32.5%と最も高い。

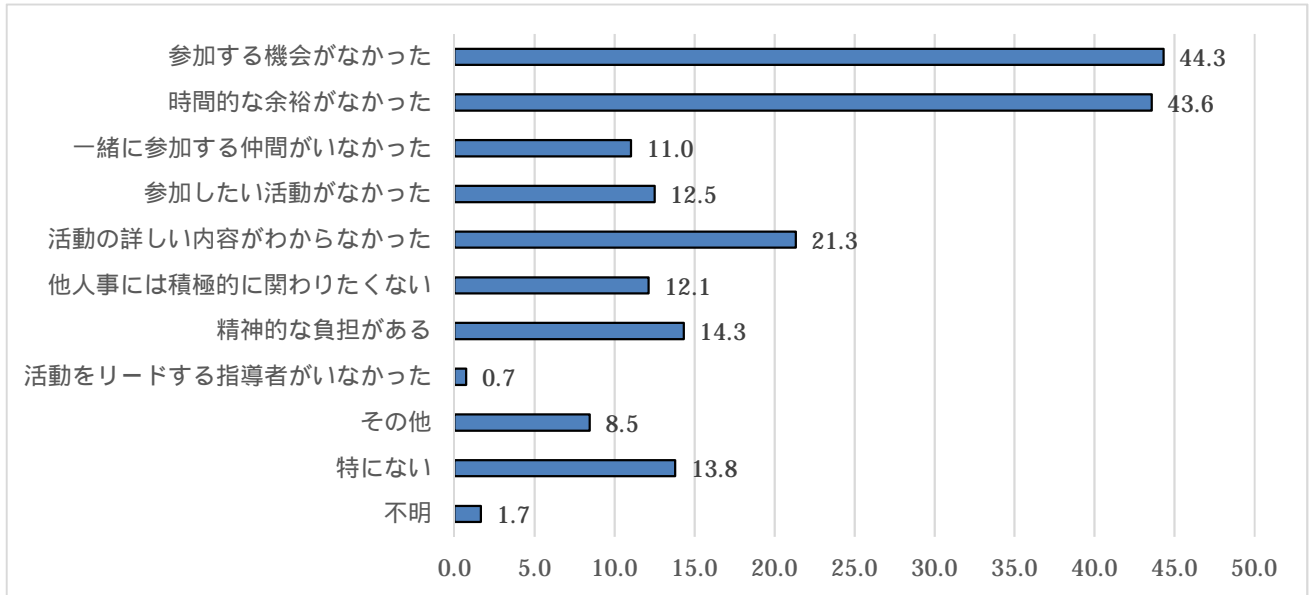
問 10 現在参加しているグループ活動や地域活動に必要な支援(N=372)



(3) グループ活動や地域活動に参加していない理由

グループ活動や地域活動に参加していない市民に対してその理由を伺ったところ、「時間的な余裕がなかった」(44.3%)と「参加する機会がなかった」(43.6%)の回答が多い結果となった。

問 11 グループ活動や地域活動に参加していない理由(N=544)



第 15 回調査結果と比較すると、「他人事には積極的に関わりたくない」の回答が 6.0%増加しており、逆に「活動の詳しい内容がわからなかった」が 3.4%減少している。

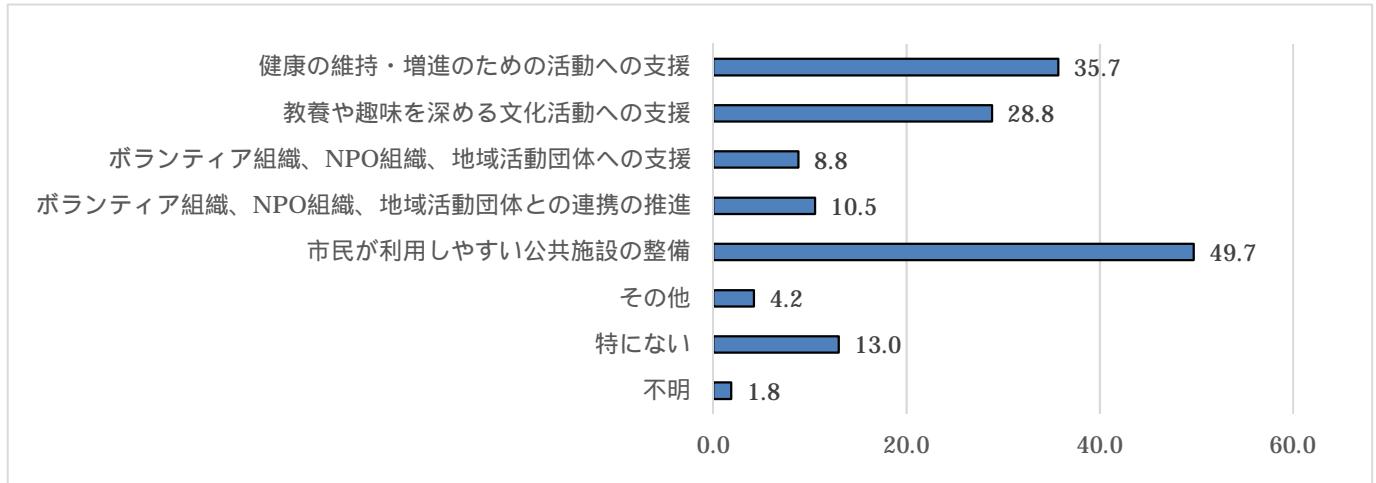
(%)

	時間的な余裕がなかった	参加する機会がなかった	活動の詳しい内容がわからなかった	一緒に参加する仲間がいなかった	精神的な負担がある	参加したい活動がなかった	他人事には積極的に関わりたくない	活動をリードする指導者がいなかった	その他	特になし	無回答
第 16 回(H30)	43.6	44.3	21.3	11.0	14.3	12.5	12.1	0.7	8.5	13.8	1.7
第 15 回(H26)	46.6	44.9	24.7	14.4	12.1	13.9	6.1	1.1	11.2	10.3	0.2
第 14 回(H22)	46.0	45.2	21.5	15.4	11.1	9.5	7.2	1.5	9.7	10.6	1.9

(5) 多くの市民がグループ活動・市民活動に参加するために市が行うべき策

多くの市民がグループ活動・市民活動に参加するために市が行うべき策を伺ったところ、「市民が利用しやすい公共施設の整備」が49.7%と最も高い結果となった。

問 12 多くの市民がグループ活動・市民活動に参加するために市が行うべき策(N=933)



第 15 回調査と比較するとあまり変化はみられなかった。

(%)

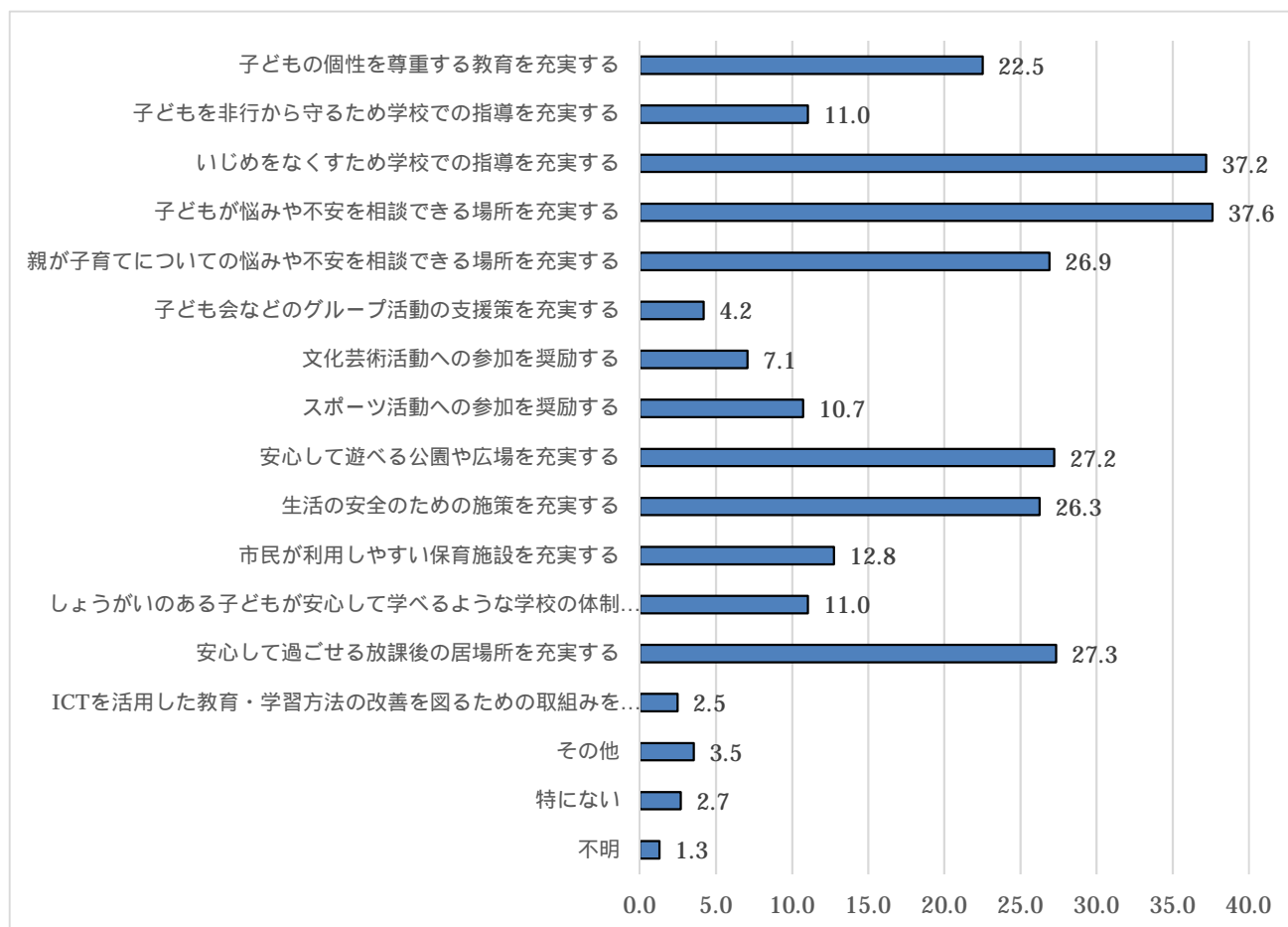
	市民が利用しやすい公共施設の整備	健康の維持・増進のための活動への支援	教養や趣味を深める文化活動への支援	ボランティア組織、NPO組織、地域活動団体との連携推進	ボランティア組織、NPO組織、地域活動団体への支援	その他	特にない	無回答
第 16 回 (H30)	49.7	35.7	28.8	10.5	8.8	4.2	13.0	1.8
第 15 回 (H26)	49.9	35.4	25.8	11.7	9.1	4.8	10.4	5.5
第 14 回 (H22)	50.0	32.1	26.8	15.0	11.2	4.7	9.8	3.5

5. 子どもや若者のために

(1) 子供たちのために市が取り組むべき施策

子供たちのために市が取り組むべき施策を伺ったところ、高い項目としては「若者が悩みや不安を相談できる場所を充実する」(37.6%)、「いじめをなくすため学校での指導を充実する」(37.2%)が挙げられる。

問 13 子供たちのために市が取り組むべき施策(N=933)



第 15 回調査と比較すると、「子どもが悩みや不安を相談できる場所を充実する」が第 15 回調査では 22.4%であったのに対して第 16 回調査では 37.6%と 17.2%増加している。また、「いじめをなくすための学校での指導を充実する」についても第 15 回調査では 30.2%であったのに対して第 16 回調査では 37.2%と 7.0%増加している。

(%)

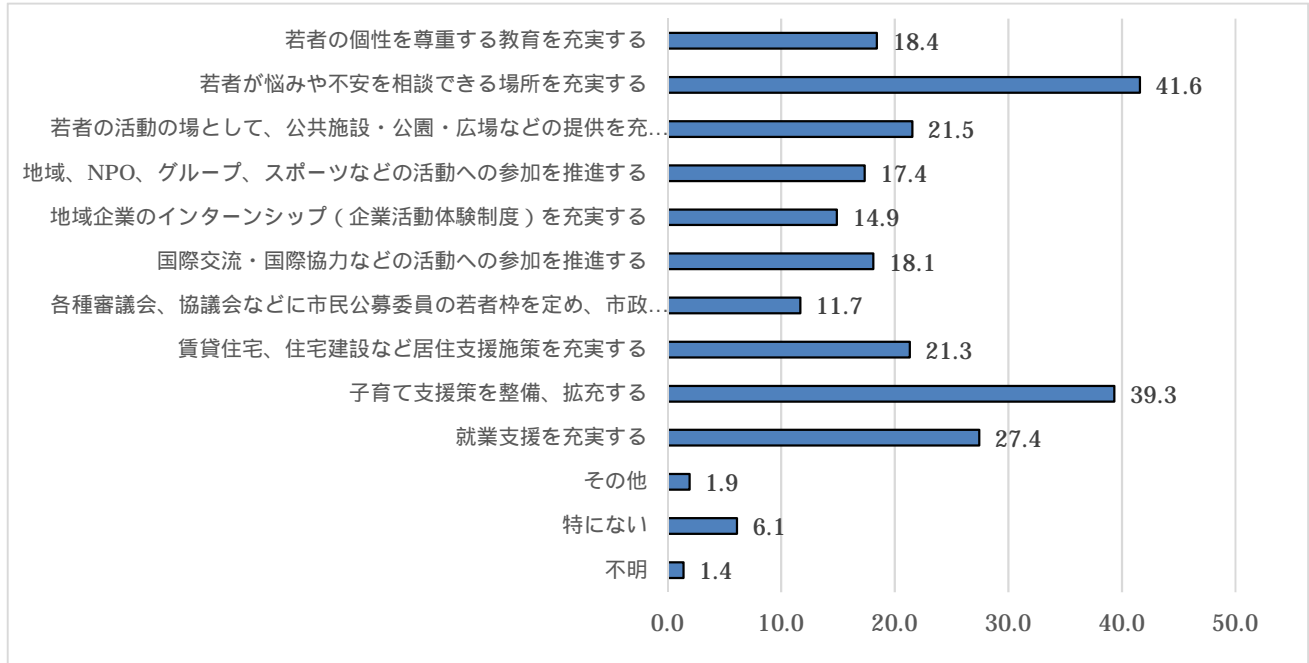
	安心して遊べる公園や広場を充実する	いじめをなくすため学校での指導を充実する	生活の安全(交通事故・犯罪等から子どもを守る)のための施策を充実する	親が子育てについての悩みや不安を相談できる場所を充実する	子どもが悩みや不安を相談できる場所を充実する	子どもの個性を尊重する教育を充実する	市民が利用しやすい保育施設を充実する	子どもを非行から守るため学校での指導を充実する	スポーツ活動への参加を奨励する	しよがいのある子どもが安心して学べるような学校の体制を整える	子ども会などのグループ活動の支援策を充実する
第 16 回(H30)	25.4	37.2	26.3	26.9	37.6	22.5	12.8	11.0	10.7	11.0	4.2
第 15 回(H26)	32.9	30.2	26.5	25.7	22.4	20.1	16.5	13.9	13.0	10.4	6.5
第 14 回(H22)	33.4	27.9	31.5	28.7	26.7	19.7	22.9	17.1	16.2	15.4	8.7

	安心して過ごせる放課後の居場所を充実する	ICTを活用した教育・学習方法の改善を図るための取組みを進める	文化芸術活動への参加を奨励する	その他	特になし	不明
第 16 回(H30)	27.3	2.5	7.1	3.5	2.7	1.3
第 15 回(H26)	23.9	4.8	-	3.5	3.1	5.2
第 14 回(H22)	-	-	-	4.9	3.2	2.1

(2) 若者のために市が取り組むべき施策

若者のために市が取り組むべき施策について伺ったところ、主に「若者が悩みや不安を相談できる場所を充実する」(41.6%)、「子育て支援策を整備、拡充する」(39.3%)といった項目が挙げられた。

問 14 若者のために市が取り組むべき施策(N=933)



第15回調査と比較すると、「若者が悩みや不安を相談できる場所を充実する」が第15回調査では31.8%であったのに対して第16回調査では41.6%と9.8%増加している。逆に、「就業支援を充実する」が第15回調査では32.8%であったのに対して第16回調査では27.4%と5.4%減少している。

(%)

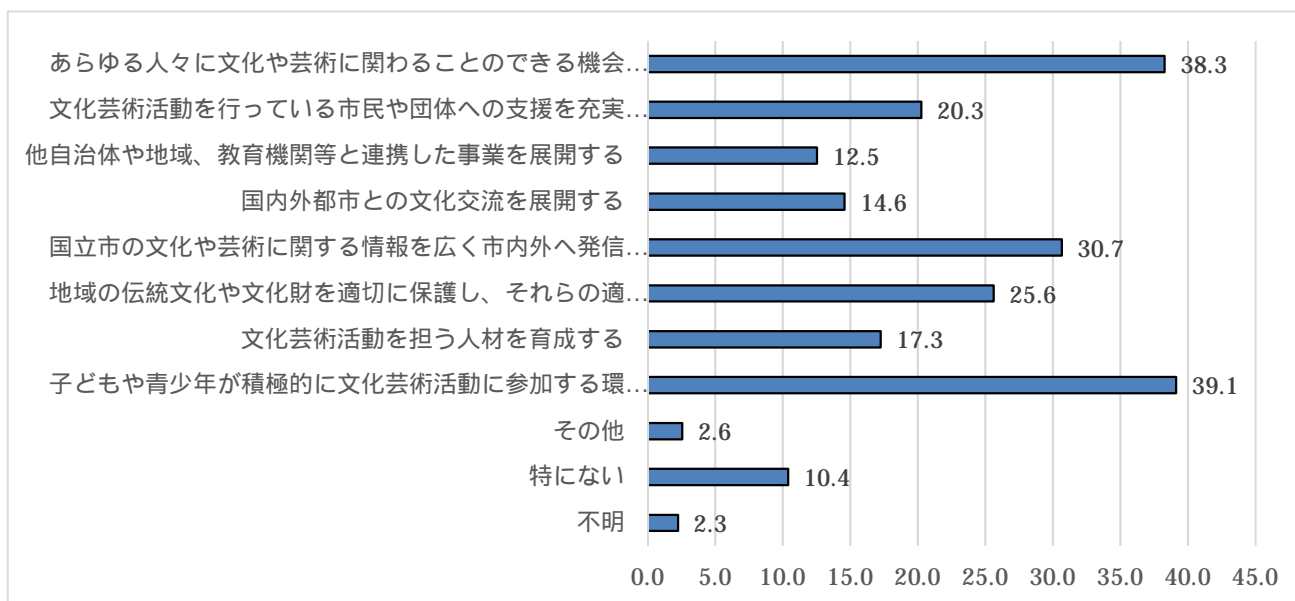
	子育て支援策を整備、拡充する	就業支援を充実する	若者が悩みや不安を相談できる場所を充実する	若者の活動の場として公共施設・公園・広場などの提供を充実する	国際交流・国際協力などの活動への参加を推進する	賃貸住宅、住宅建設など居住支援施策を充実する	地域、NPO、グループ、スポーツなどの活動への参加を推進する	若者の個性を尊重する教育を充実する	地域企業のインターンシップ(企業活動体験制度)を充実する	各種審議会、協議会等に市民公募委員の若者枠を定め、市政への参加機会を拡充する	その他	特にない	無回答
第16回(H30)	39.3	27.4	41.6	21.5	18.1	21.3	17.4	18.4	14.9	11.7	1.9	6.1	1.4
第15回(H26)	32.8	32.8	31.8	22.6	19.8	18.7	18.3	17.3	15.5	8.7	2.1	5.6	6.2
第14回(H22)	28.4	40.7	33.1	22.7	17.0	19.4	21.4	13.7	15.1	11.5	2.1	5.1	3.2

6 . 文化・芸術

(1) 文化と芸術が香るまちとなるために取組むべき施策

文化と芸術が香るまちとなるために取組むべき施策について伺ったところ、主に「子どもや青少年が積極的に文化芸術活動に参加する環境や機会を確保する」(39.1%)、「あらゆる人々に文化や芸術に関わることのできる機会を充実させる」(38.3%)といった項目が挙げられた。

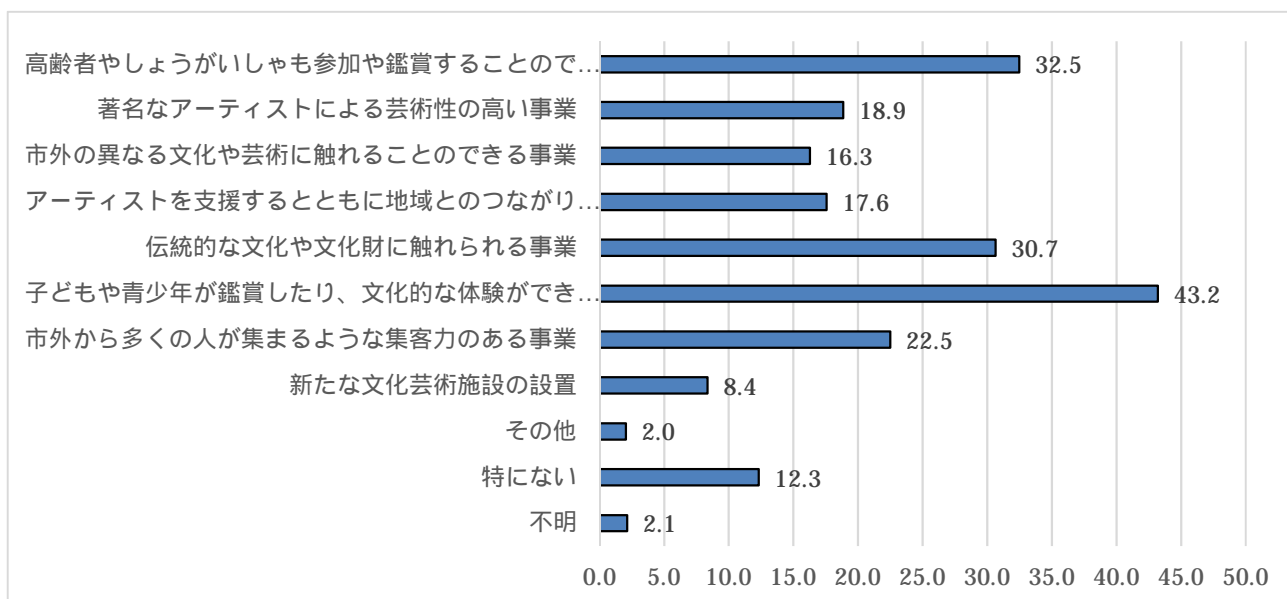
問 15 文化と芸術が香るまちとなるために取組むべき施策(N=933)



(2) 行って欲しい文化芸術事業

行って欲しい文化芸術事業について伺ったところ、主に「子どもや青少年が鑑賞したり、文化的な体験ができる事業」(43.2%)、「高齢者やしょうがいしゃも参加や鑑賞することのできる事業」(32.5%)といった項目が挙げられた。

問 16 行って欲しい文化芸術事業(N=933)

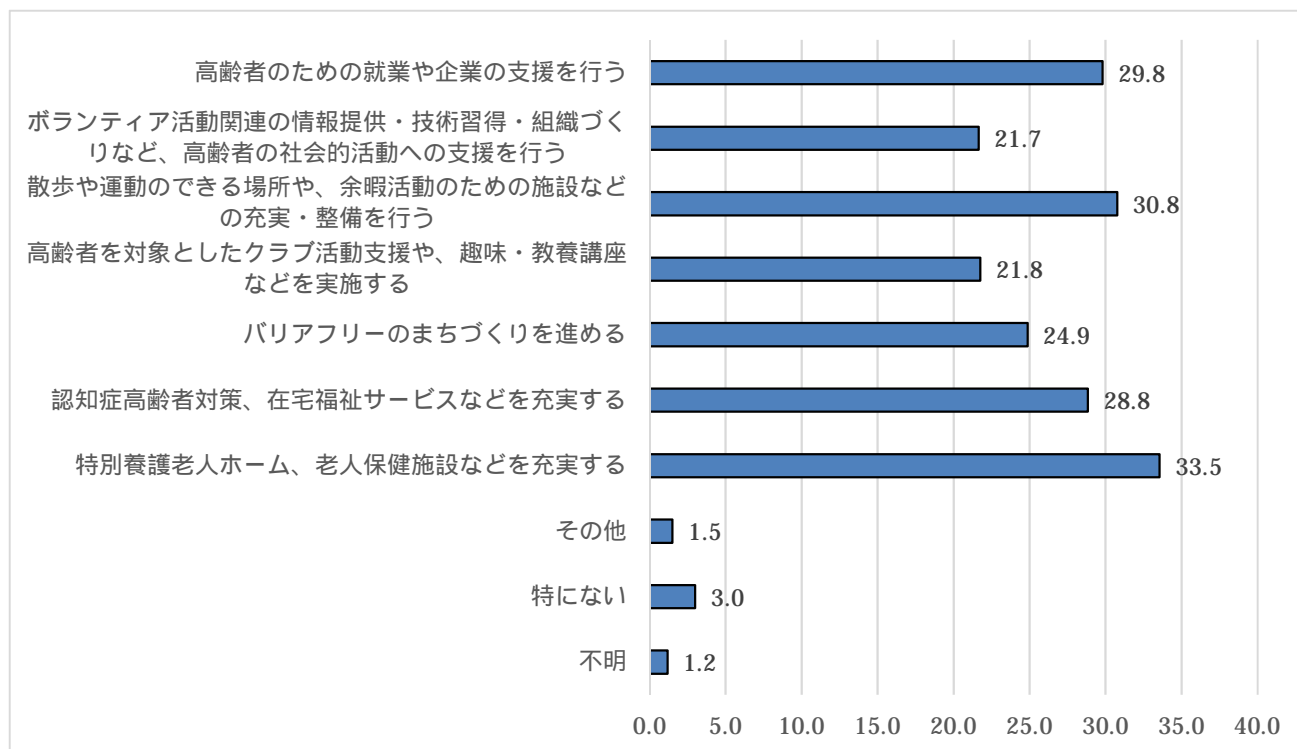


7. 健康と福祉

(1) 高齢者のために効果的な施策

高齢者が豊かな生活を送るために効果的だと思われる施策を伺ったところ、主に「特別養護老人ホーム、老人保健施設などを充実する」(33.5%)、「散歩や運動のできる場所や、余暇活動のための施設などの充実・整備を行う」(30.8%)が挙げられた。

問 17 高齢者のために効果的な施策(N=933)



第 15 回調査と比較すると、「認知症高齢者対策、在宅福祉サービスなどを充実する」が第 15 回調査では 33.2%であったのに対して第 16 回調査では 28.8%と 4.4%減少している。

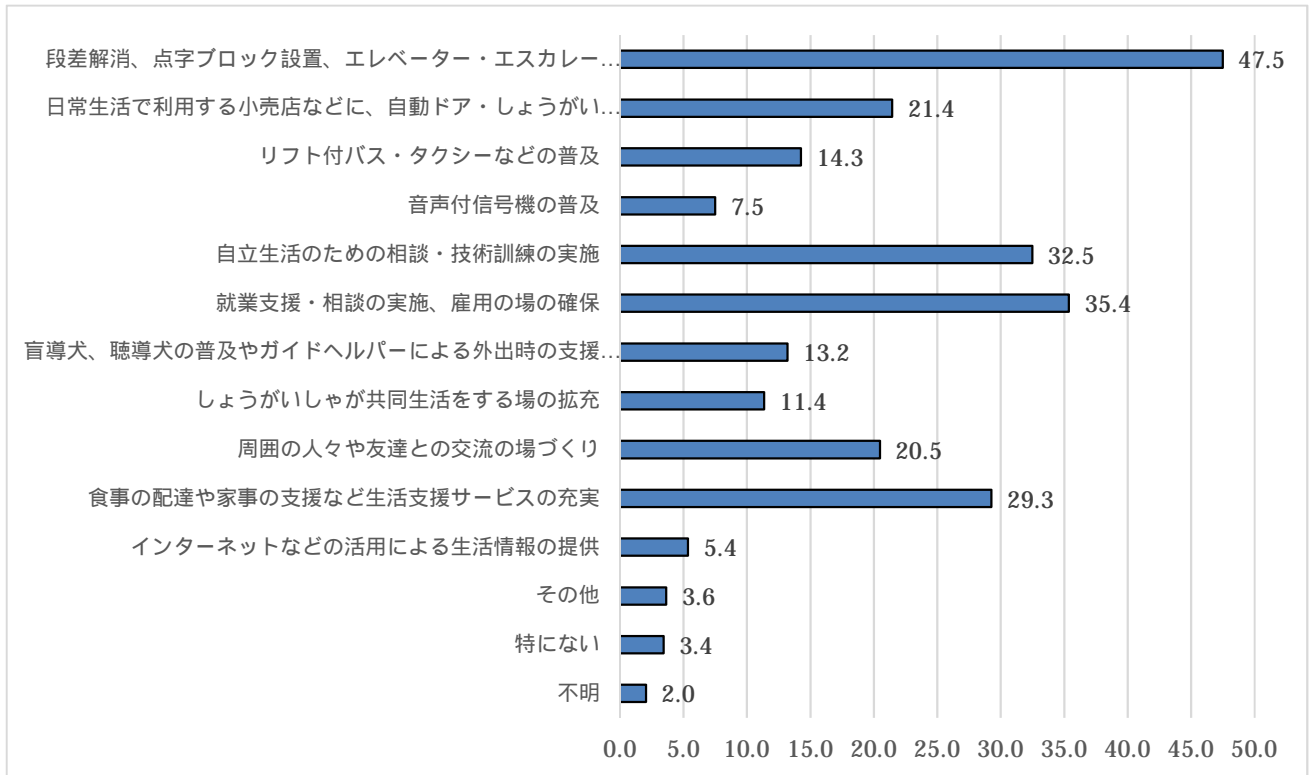
(%)

	特別養護老人ホーム、老人保健施設などを充実する	認知症高齢者対策、在宅福祉サービスなどを充実する	高齢者のための就業や企業の支援を行う	散歩や運動のできる場所や、余暇活動のための施設などの充実・整備を行う	バリアフリーのまちづくりを進める	ボランティア活動関連の情報提供・技術習得・組織づくりなど、高齢者の社会的活動への支援を行う	高齢者を対象としたクラブ活動支援や、趣味・教養講座等を実施する	その他	特にない	無回答
第 16 回 (H30)	33.5	28.8	29.8	30.8	24.9	21.7	21.8	1.5	3.0	1.2
第 15 回 (H26)	38.2	33.2	28.0	26.2	23.2	20.1	18.4	2.4	1.8	3.3
第 14 回 (H22)	41.8	30.5	28.2	23.8	24.2	20.2	21.2	2.8	2.4	0.9

(2) しょうがいしゃのために重要な施策

しょうがいしゃが安心していきいきと暮らせるために重要な施策について伺ったところ、主に「段差解消、点字ブロック、エレベーター・エスカレーターの設置」(47.5%)、「就業支援・相談の実施、雇用の場の確保」(35.4%)、「自立生活のための相談・技術訓練の実施」(32.5%)が挙げられた。

問 18 しょうがいしゃのために重要な施策(N=933)



第 15 回調査と比較すると、「食事の配達や家事の支援など生活支援サービスの充実」が第 15 回調査では 23.7%であったのに対して第 16 回調査では 29.3%と 5.6%増加している。

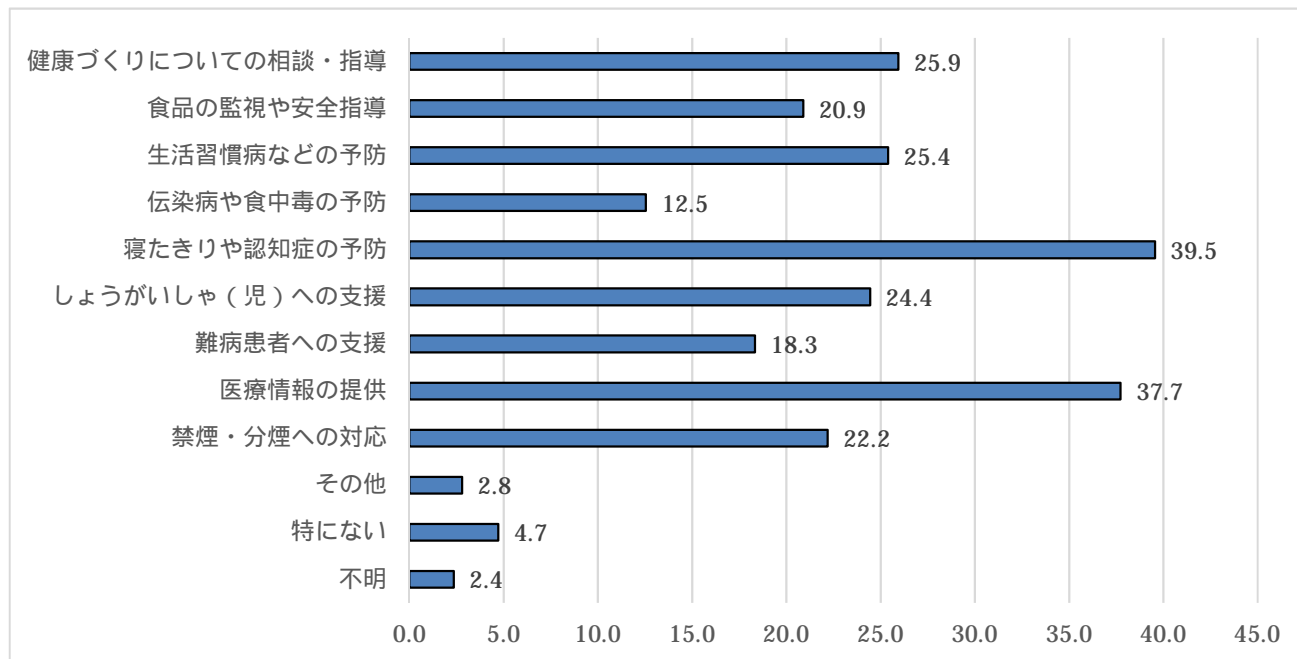
(%)

	「段差解消、点字ブロック、エレベーター等の設置」	自立生活のための相談・技術訓練の実施	就業支援・相談の実施、雇用の場の確保	食事の配達や家事の支援など生活支援サービスの充実	周囲の人々や友達との交流の場づくり	日常生活で利用する小売店などに、自動ドア・しょうがいしゃ対応トイレ等の設置の推進	しょうがいしゃが共同生活をする場の拡充	リフト付バス・タクシーなどの普及	盲導犬、聴導犬の普及やガイドヘルパーによる外出時の支援等の充実	音声付信号機の普及	インターネットなどの活用による生活情報の提供	その他	特になし	無回答
第 16 回(H30)	47.5	32.5	35.4	29.3	20.5	21.4	11.4	14.3	13.2	7.5	5.4	3.6	3.4	2.0
第 15 回(H26)	50.5	34.8	34.5	23.7	20.1	19.9	14.6	13.5	12.0	7.8	4.7	2.9	1.9	4.0
第 14 回(H22)	49.7	36.9	36.9	26.8	21.6	19.5	12.4	11.3	15.4	8.7	3.9	4.2	2.3	2.0

(3) 健康と福祉に関して力を入れるべき施策

健康と福祉に関して力を入れてほしい施策について何うと、主に「寝たきりや認知症の予防」(39.5%)、「医療情報の提供」(37.7%)が挙げられた。

問 19 健康と福祉に関して力を入れるべき施策(N=933)



第 15 回調査と比較すると、「禁煙・分煙への対応」が第 15 回調査では 16.3%であったのに対して第 16 回調査では 22.2%と 5.9%増加している。逆に、「食品の監視や安全指導」が第 15 回調査では 25.2%であったのに対して 16 回調査では 25.2%と 4.3%減少している。

(%)

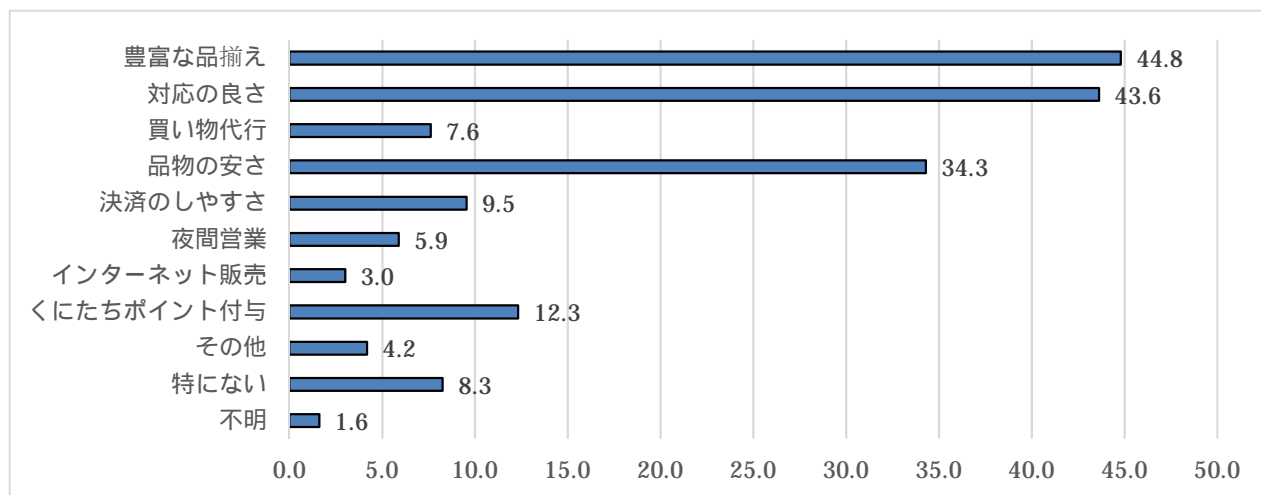
	寝たきりや認知症の予防	医療情報の提供	健康づくりについての相談・指導	食品の監視や安全指導	生活習慣病などの予防	しょうがいしゃ(児)への支援	難病患者への支援	禁煙・分煙への対応	伝染病や食中毒の予防	その他	特にない	無回答
第 16 回(H30)	39.5	37.7	25.9	20.9	25.4	24.4	18.3	22.2	12.5	2.8	4.7	2.4
第 15 回(H26)	42.6	39.1	27.7	25.2	24.5	23.5	18.8	16.3	13.2	3.4	4.2	3.1
第 14 回(H22)	40.0	47.9	26.4	24.5	23.3	24.9	23.4	17.5	10.9	3.1	3.5	1.3

8 . 消費者と農業・商業振興

(1) 市内の商店に望むサービス

市内の商店に望むサービスとしては、「豊富な品揃え」(44.8%)、「対応の良さ」(43.6%)、「品物の安さ」(34.3%)の3つが上位にあげられている。

問 20 国立にふさわしい・望ましい商店街の姿(H30 N=933)



第 15 回調査と比較すると、「くにたちポイント付与」が第 15 回調査では 7.5%であったのに対して第 16 回調査では 12.3%と 4.8%増加している。

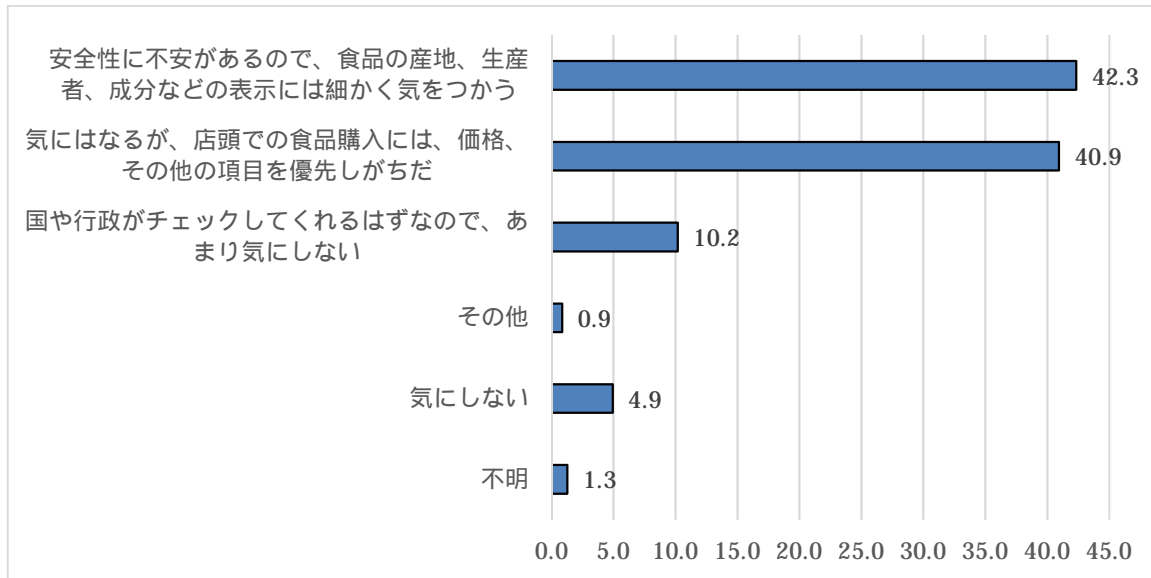
(%)

	豊富な品揃え	対応の良さ	買い物代行	品物の安さ	決済のしやすさ	夜間営業	インターネット販売	くにたちポイント付与	その他	特にない	不明
第 16 回(H30)	44.8	43.6	7.6	34.3	9.5	5.9	3.0	12.3	4.2	8.3	1.6
第 15 回(H26)	46.9	43.6	7.9	39.7	-	-	-	7.5	6.3	8.2	4.9

(2) 食の安全に関する意見

食の安全についての意見を伺ったところ、「安全性に不安があるので、店頭の商品の表示には細かく気をつかう」との意見が 42.3%で最も多く、次いで「気にはなるが店頭での食品購入には価格その他の項目を優先しがち」との意見が 40.9%であった。

問 21 食の安全に関する意見(N=933)



第 15 回調査と比較すると、「気にはなるが、店頭での食品購入には、価格、その他の項目を優先しがち」が第 15 回調査では 35.2%であったのに対して第 16 回調査では 40.9%と 5.7%増加している。

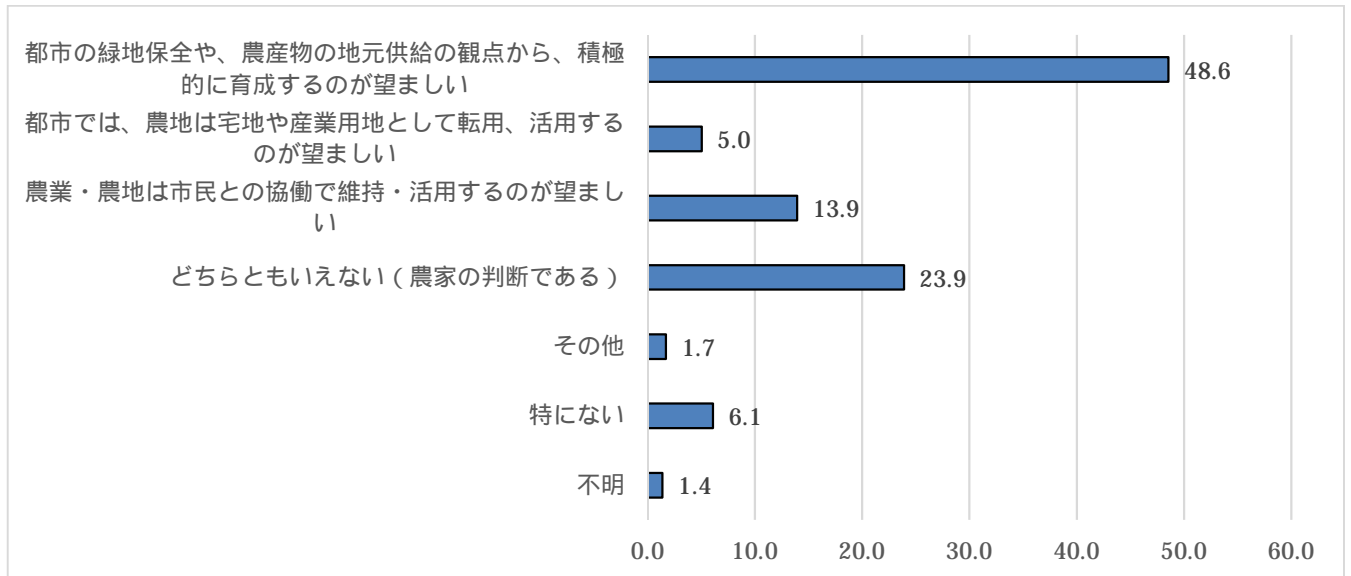
(%)

	安全性に不安があるので、店頭の商品の表示には細かく気をつかう	気にはなるが店頭での食品購入には価格その他の項目を優先しがち	国や行政がチェックしてくれるはずなので、あまり気にしない	その他	気にしない	無回答
第 16 回(H30)	42.3	40.9	10.2	0.9	4.9	1.3
第 15 回(H26)	44.6	35.2	11.5	1.0	3.8	3.8
第 14 回(H22)	48.2	38.6	7.6	1.1	3.0	1.5

(3) 国立に望ましい農業

安全農作物の価格について意見を伺ったところ、「安全が保障されれば、ある程度の価格アップは我慢できる」という意見が60.3%と最も高く、「安全農産物といえども、価格は実勢平均価格以下にすべきである」との意見は28.2%であった。

問 22 国立に望ましい農業(N=933)



第15回調査と比較するとあまり変化はみられなかった。

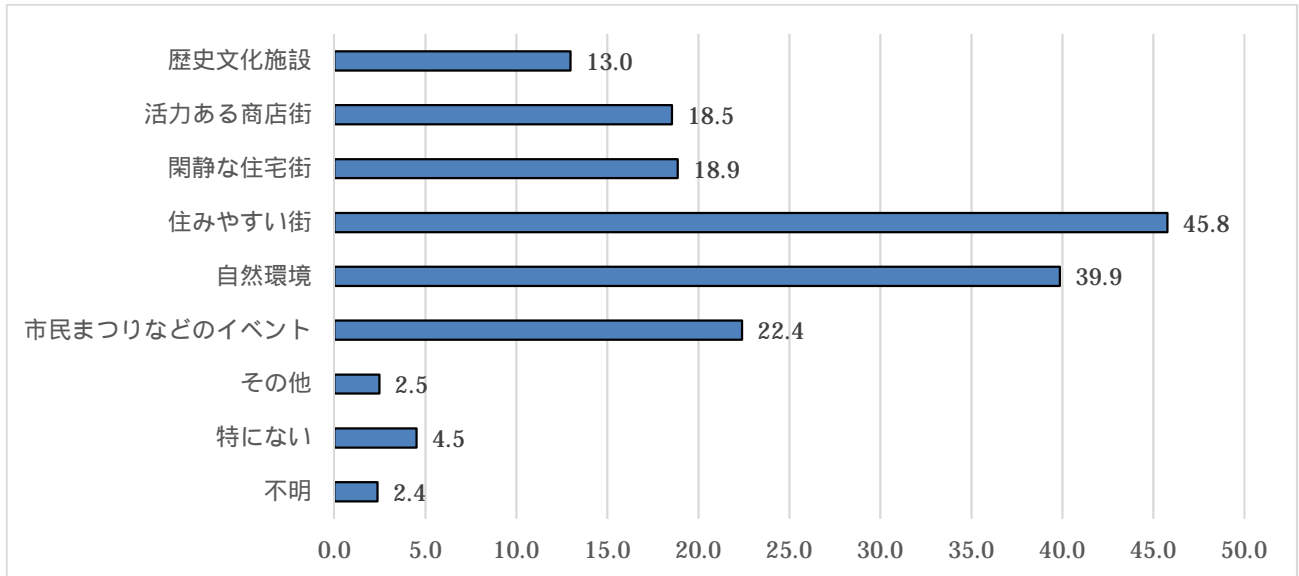
(%)

	都市の緑地保全や、農産物の地元供給の観点から、積極的に育成するのが望ましい	都市では、農地は宅地や産業用地として転用、活用するのが望ましい	農業・農地は市民との協働で維持・活用するのが望ましい	どちらともいえない(農家の判断である)	その他	特にない	無回答
第16回(H30)	48.6	5.0	13.9	23.9	1.7	6.1	1.4
第15回(H26)	48.0	4.2	14.4	21.6	0.8	7.0	4.0
第14回(H22)	48.3	3.0	19.2	20.8	1.0	5.0	2.6

(4) 国立らしい観光のあり方

国立らしい観光のあり方について意見を伺ったところ、「住みやすい町」との意見が45.8%で最も多く、次いで「自然環境」との意見が39.9%であった。

問23 国立らしい観光のあり方(N=933)



第15回調査と比較すると、「自然環境」が第15回調査では43.4%であったのに対して第16回調査では39.9%と3.5%減少している。

(%)

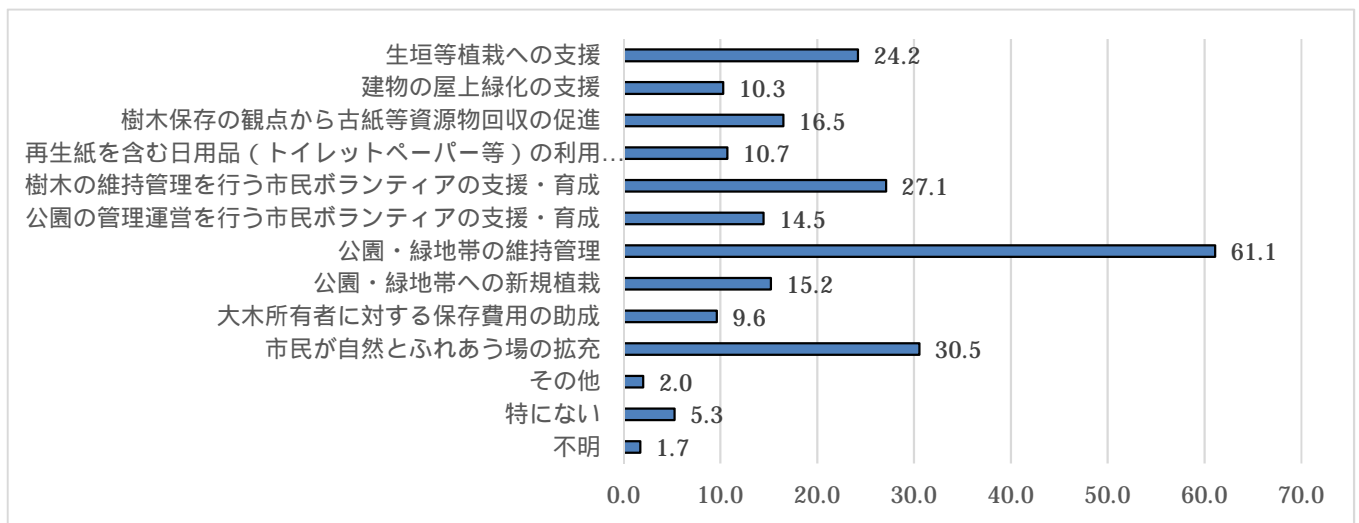
	歴史文化施設	活力ある商店街	閑静な住宅街	住みやすい街	自然環境	市民まつりなどのイベント	その他	特にない	不明
第16回(H30)	13.0	18.5	18.9	45.8	39.9	22.4	2.5	4.5	2.4
第15回(H26)	12.4	16.2	19.9	42.3	43.4	20.3	2.5	3.9	3.0

9. 環境（水・緑）

（1）みどりの保全と復元、創出のために市に望む施策

みどりの保全と復元、創出のために市が取り組むべきこととしては、「公園・緑地帯の維持管理」が61.1%で最も多く、以下「市民が自然とふれあう場の拡充」が30.5%、「樹木の維持管理を行う市民ボランティアの支援・育成」が27.1%でつづいている。

問 24 みどりの保全と復元、創出のために市に望む施策(N=933)



第 15 回調査と比較すると、項目が増えたため単純な比較はできないが、「市民が自然とふれあう場の拡充」が第 15 回調査では 40.5%であったのに対して第 16 回調査では 30.5%と 10.0%減少している。

(%)

	生垣等植栽への支援	建物の屋上緑化の支援	古紙等資源物回収の促進	再生紙を含む日用品（トイレtpーパー等）の利用促進	樹木の維持管理を行う市民ボランティアの支援・育成	公園の管理運営を行う市民ボランティアの支援・育成	公園・緑地帯の維持管理
第 16 回 (H30)	24.2	10.3	16.5	10.7	27.1	14.5	61.1
第 15 回 (H26)	20.9	15.0	-	-	35.5	22.9	59.3

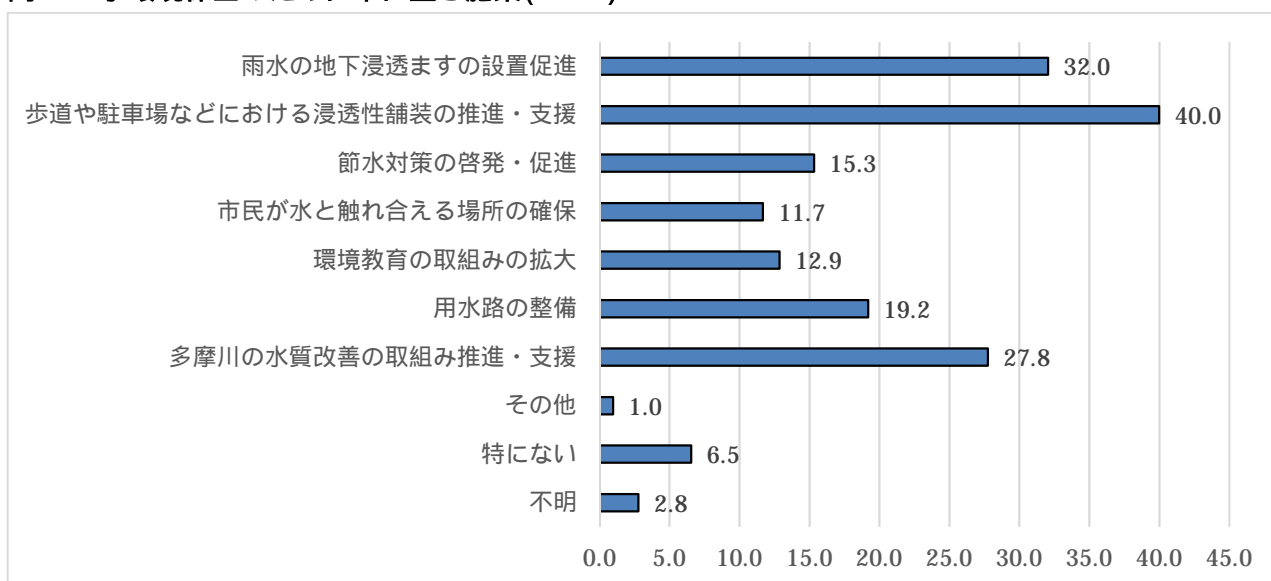
	公園・緑地帯への新規植栽	大木所有者に対する保存費用の助成	市民が自然とふれあう場の拡充	その他	特にない	不明
第 16 回 (H30)	15.2	9.6	30.5	2.0	5.3	1.7
第 15 回 (H26)	14.6	13.0	40.5	2.7	4.5	3.3

「樹木保存の観点から古紙等資源物回収の促進」、「再生紙を含む日用品（トイレットペーパー等）の利用促進」は30年度調査から追加

(2) 水環境保全のために市に望む施策

水環境の保全のため、市が取り組むべきこととしては、「歩道や駐車場などにおける浸透性舗装の推進・支援」が40.0%と最も多く、ついで「雨水の地下浸透ますの設置促進」が32.0%、「多摩川の水質改善の取組み推進・支援」が27.8%でつづいている。

問25 水環境保全のために市に望む施策(N=933)



第15回調査と比較するとあまり変化はみられない。

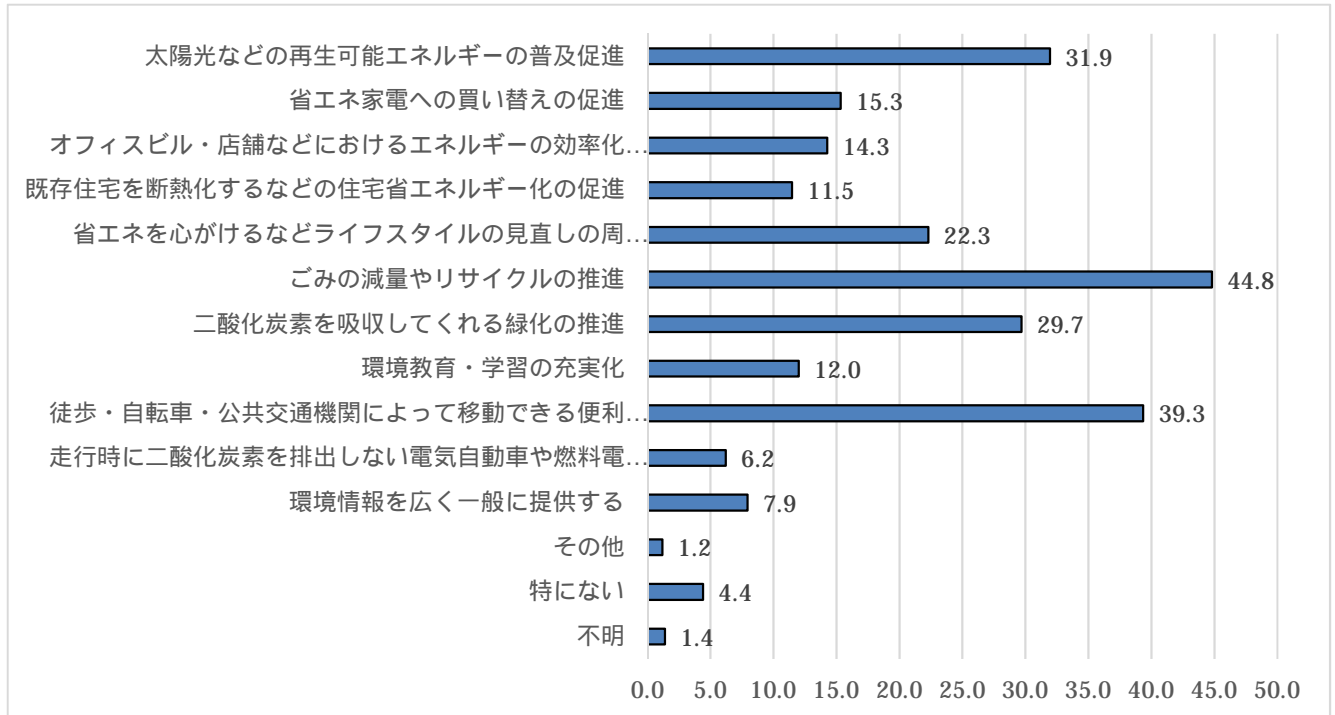
(%)

	雨水の地下浸透ますの設置促進	歩道や駐車場などにおける浸透性舗装の推進・支援	節水対策の啓発・促進	市民が水と触れ合える場所の確保	環境教育の取組みの拡大	用水路の整備	多摩川の水質改善の取組み推進・支援	その他	特にない	不明
第16回(H30)	32.0	40.0	15.3	11.7	12.9	19.2	27.8	1.0	6.5	2.8
第15回(H26)	30.8	43.8	14.6	13.4	13.6	15.4	29.0	2.5	6.7	3.3

(3) 持続可能な社会の構築のために市に望む温暖化対策

持続可能な社会の構築のため、市が取り組むべきこととしては、「ごみの減量やりサイクルの推進」が44.8%と最も多く、ついで「徒歩・自転車・公共交通機関によって移動できる便利なまちづくりの整備」が39.3%、「太陽光などの再生可能エネルギーの普及推進」が31.9%でつづいている。

問 26 持続可能な社会の構築のために市に望む温暖化対策 (N=933)

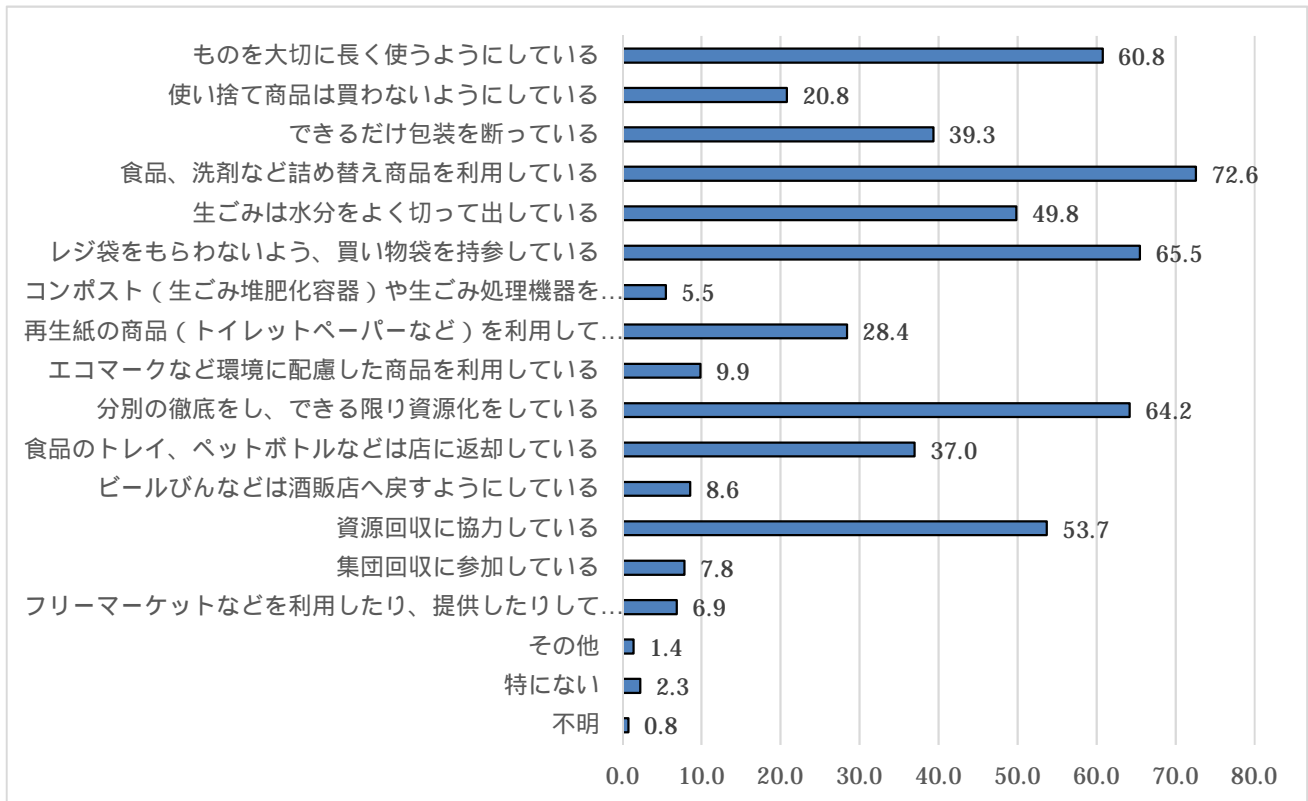


10. 環境（ごみとリサイクル）

（1）循環型社会を形成するために取り組んでいること

循環型社会を形成するために取り組んでいることをみると、「食品、洗剤など詰め替え商品を利用している」が72.6%で最も多く、以下「レジ袋をもらわないよう、買い物袋を持参している」が65.5%、「分別の徹底をし、できる限り資源化をしている」が64.2%でつづいている。

問 27 循環型社会を形成するために取り組んでいること(N=933)



第15回調査と比較すると、「レジ袋をもらわないよう、買い物袋を持参している」が第15回調査では59.3%であったのに対して第16回調査では65.5%と6.2%増加している。

(%)

	食品、洗剤など詰め替え商品を利用している	ものを大切に長く使うようにしている	分別の徹底をし、資源化、できる限り資源化している	レジ袋をもらわないよう、買い物袋を持参している	資源回収に協力している	生ごみは水分をよく切って出している	できるだけ包装を断っている	再生紙の商品（トイレットペーパーなど）を利用している	食品のトレイ、ペットボトルなどは店に返却している
第16回(H30)	72.6	60.8	64.2	65.5	53.7	49.8	39.3	28.4	37.0
第15回(H26)	73.1	61.2	60.2	59.3	56.6	51.8	36.2	30.3	29.7
第14回(H22)	74.7	66.3	61.8	59.4	61.0	53.3	42.4	37.9	30.8

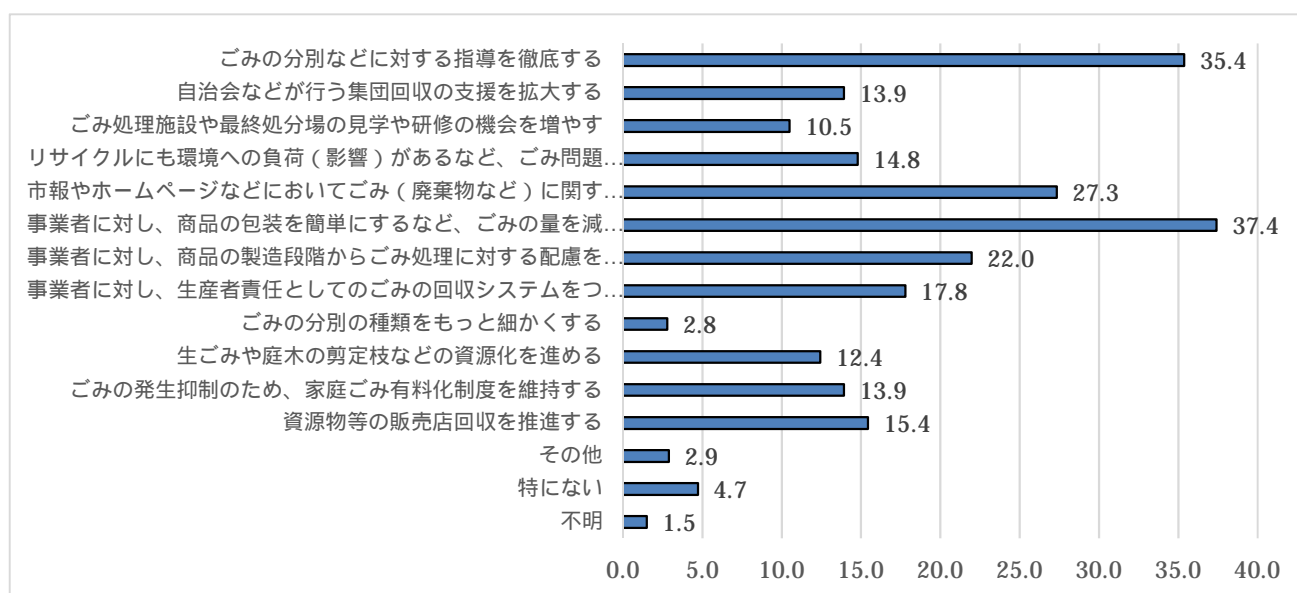
(%)

	い 使 わ ない 捨 て よ う に し て 買 い 戻 す よ う に し て	境 に 配 慮 し た 商 品 を 利 用 し て い る	エ コ マ ー ク な ど 環 境 に 配 慮 し た 商 品 を 利 用 し て い る	集 団 回 収 に 参 加 し て い る	酒 販 店 へ 戻 す よ う に し て い る	ビ ール び ん な ど は 酒 販 店 へ 戻 す よ う に し て い る	フ リ ー マ ー ケ ッ ト な ど を 利 用 し た り 、 提 供 し た り し て い る	生 ご み 処 理 機 を 使 っ て い る	コ ン ポ ス ト （ 生 ご み 堆 肥 化 容 器 ） や 生 ご み 処 理 機 を 使 っ て い る	そ の 他	特 に な い	不 明
第 16 回 (H30)	20.8	9.9	7.8	8.6	6.9	5.5	1.4	2.3	0.8			
第 15 回 (H26)	20.7	12.6	8.8	8.0	7.6	4.3	1.8	1.8	5.1			
第 14 回 (H22)	21.5	14.0	9.9	10.0	9.8	5.0	1.3	1.7	1.4			

(2) 循環型社会の形成のために行政がすべきこと

今後、循環型社会の形成のために行政がすべきこととしては、「ごみの分別などに対する指導を徹底する」(37.5%)、「市報においてごみ(廃棄物等)に関する情報をより詳しく提供する」(36.5%)、「事業者に対し、商品の包装を簡単にする等、ごみの量を減らす販売方法等を指導する」(31.8%)の3つが30%台で上位にあげられている。

問 28 循環型社会の形成のために行政がすべきこと (N=933)



第 15 回調査と比較すると、「事業者に対し、商品の包装を簡単にする等、ごみの量を減らす販売方法等を指導する」が第 15 回調査では 31.8%であったのに対して第 16 回調査では 37.4%と 5.6%増加している。

(%)

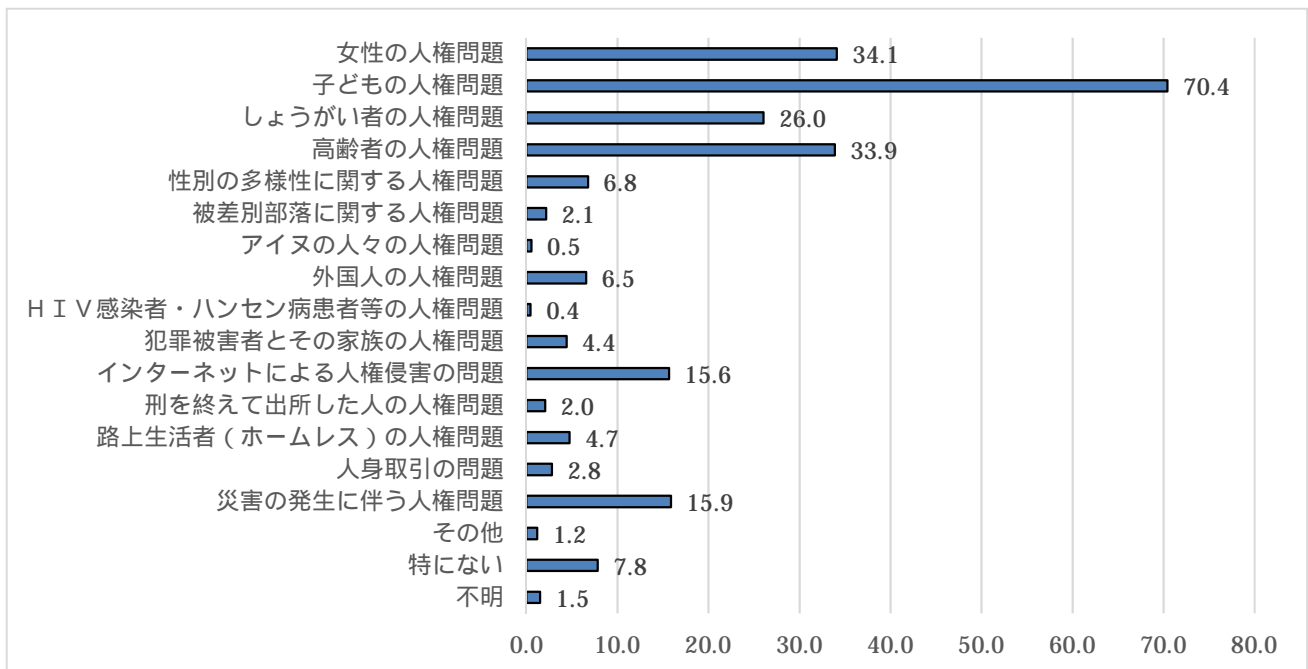
	ごみの分別などに対する指導を徹底する	市報においてごみ(廃棄物等)に関する情報をより詳しく提供する	事業者に対し、商品の包装を簡単にする等、ごみの量を減らす販売方法等を指導する	リサイクルにも環境への負荷(影響)がある等、ごみ問題について学べる機会を増やす	事業者に対し商品の製造段階からごみ処理に対する配慮をするように指導する	事業者に対し生産者責任としてのごみの回収システムをつくるよう指導する	自治会などが行う集団回収の支援を拡大する	生ごみや庭木の剪定枝などの資源化を進める	清掃工場や埋立地見学や研修の機会を増やす	ごみの発生抑制のため、家庭ごみの有料化を進める	ごみの分別の種類をもっと細かくする	資源物等の販売店回収を推進する	その他	特になし	無回答
第 16 回(H30)	35.4	27.3	37.4	14.8	17.8	22.0	13.9	12.4	10.5	13.9	2.8	15.4	2.9	4.7	1.5
第 15 回(H26)	37.5	36.5	31.8	21.1	20.0	18.4	16.7	14.9	7.8	6.6	4.7	-	2.3	4.4	6.0
第 14 回(H22)	36.5	37.3	44.8	17.2	29.1	24.0	15.8	14.4	6.0	5.4	4.0	-	2.6	3.5	2.6

1.1. 平和・男女平等・プライバシー

(1) 人権課題に対する市への要望

人権課題に対する市への要望をみると、「子どもの人権問題」をあげる人が70.4%と過半数を超え、ついで「女性の人権問題」が34.1%と多くなっている。

問29 人権課題に対する市への要望(N=933)



前回調査と比較すると、「子どもの人権問題」が第15回調査では58.8%であったのに対して第16回調査では70.4%と11.6%、「女性の人権問題」が第15回調査では20.6%であったのに対して第16回調査では34.1%と13.5%と大きく増加しており、逆に「災害の発生に伴う人権問題」が第15回調査では22.2%であったのに対して第16回調査では15.9%と6.3%減少している。

(%)

	女性の人権問題	子どもの人権問題	しょうがい者の人権問題	高齢者の人権問題	性別の多様性に関する人権問題	被差別部落に関する人権問題	アイヌの人々の人権問題	外国人の人権問題	HIV感染者・ハンセン病患者等の人権問題
第16回(H30)	34.1	70.4	26.0	33.9	6.8	2.1	0.5	6.5	0.4
第15回(H26)	20.6	58.8	17.7	33.8	2.5	-	1.1	5.8	1.6

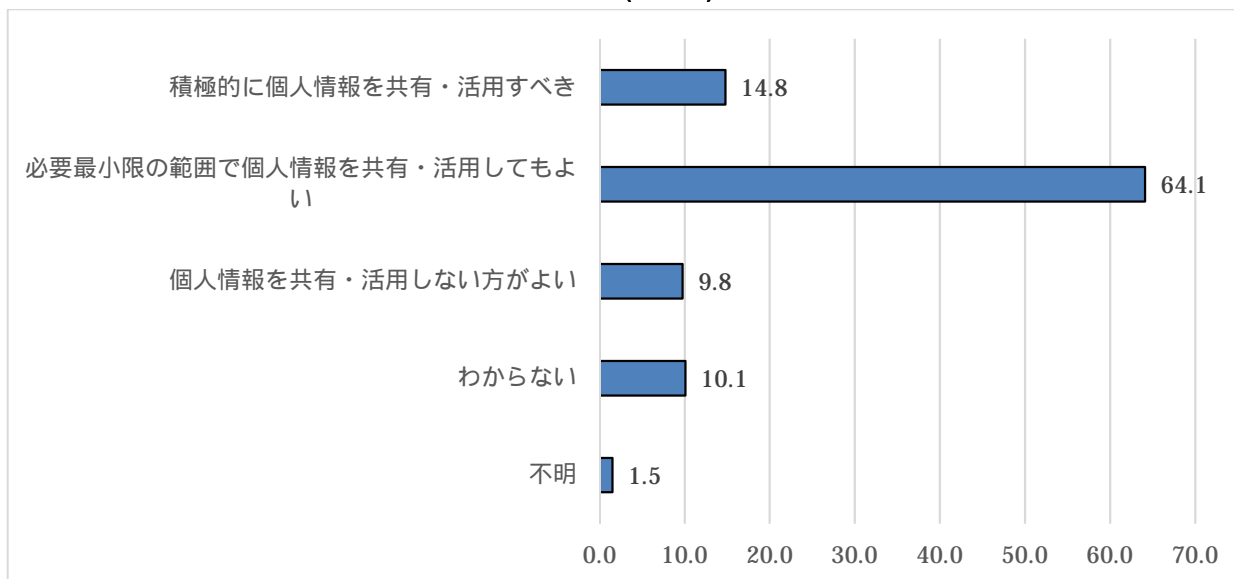
	権問題 犯罪被害者とその家族の人	侵害の問題 インターネットによる人権	権問題 刑を終えて出所した人の人	人権問題 路上生活者（ホームレス）の	人身取引の問題	災害の発生に伴う人権問題	その他	特にな	不明
第16回(H30)	4.4	15.6	2.0	4.7	2.8	15.9	1.2	7.8	1.5
第15回(H26)	5.5	19.0	1.4	4.0	1.4	22.2	2.9	9.3	7.0

(2) 高齢者やしょうがい者の個人情報の共有について

個人情報の保護に関連して、市が保有する高齢者やしょうがい者の情報を、防災のために他の部局や自主防災組織といった関係団体と共有することについては、「必要最小限の範囲で個人情報を共有・活用してもよい」とする人が64.1%を占めている。

「積極的に個人情報を共有・活用すべき」とする人は14.8%にとどまり、「個人情報を共有・活用しない方がよい」とする人は9.8%と少ない。

問30 高齢者やしょうがい者の個人情報の共有 (N=933)



第 15 回調査と比較するとあまり変化はみられないが、「必要最小限の範囲で個人情報を共有・活用してもよい」が 4.4%増加している。

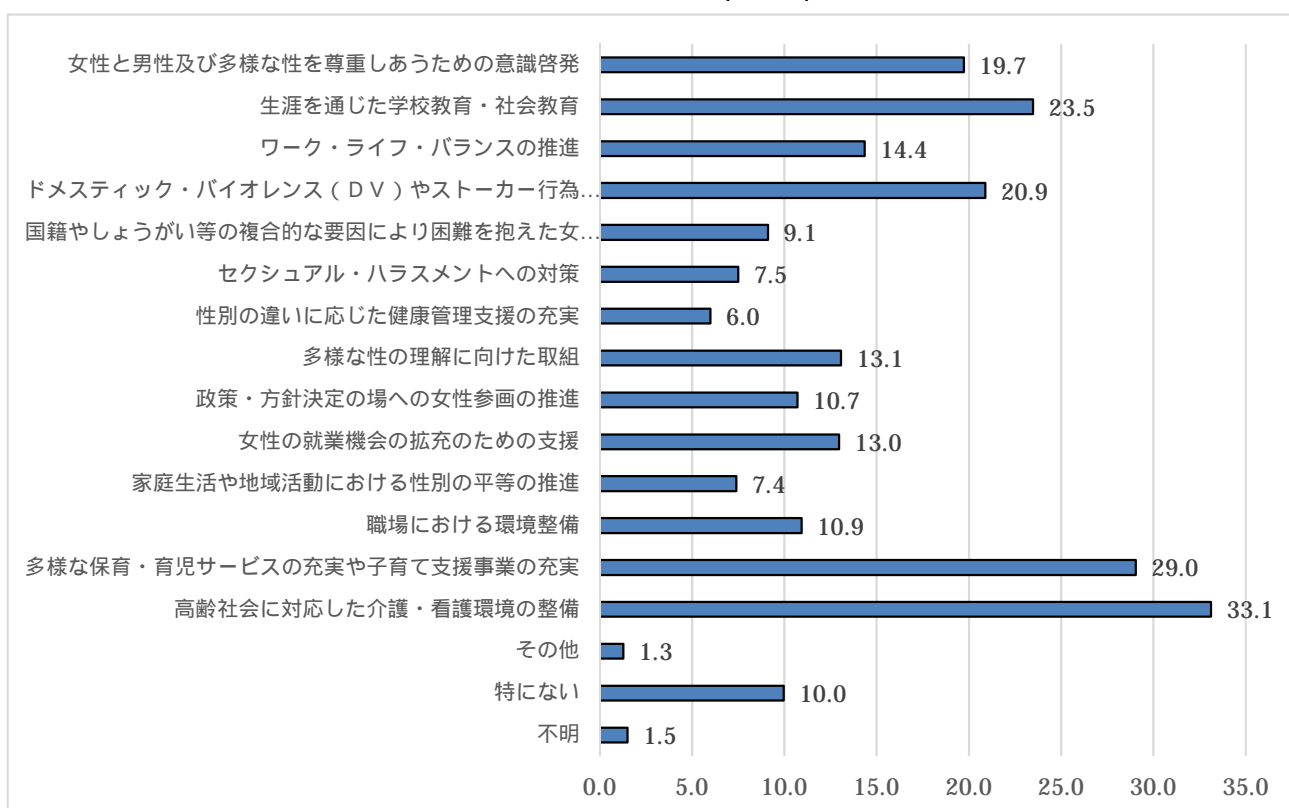
(%)

	積極的に個人情報を共有・活用すべき	必要最小限の範囲で個人情報を共有・活用してもよい	個人情報を共有・活用しない方がよい	わからない	不明
第 16 回(H30)	14.8	64.1	9.8	10.1	1.5
第 15 回(H26)	15.7	59.7	8.8	9.3	6.5

(3) 男女共同参画を進めるために充実させるべき施策

男女共同参画を推進するために充実すべき施策としては、「高齢社会に対応した介護・看護環境の整備充実」とする人が 33.1%で最も多く、ついで「多様な保育・育児サービスの充実や家庭・地域における子育て支援事業の充実」が 29.0%、「生涯を通じた学校教育・社会教育」が 23.5%でつづいている。

問 31 男女共同参画を進めるために充実させるべき施策(N=933)



前回調査と比較すると、「生涯を通じた学校教育・社会教育」が第15回調査では14.7%であったのに対して第16回調査では23.5%と8.8%、「女性と男性及び多様な性を尊重しあうための意識啓発」が第15回調査では14.9%であったのに対して第16回調査では19.7%と4.8%増加している。

(%)

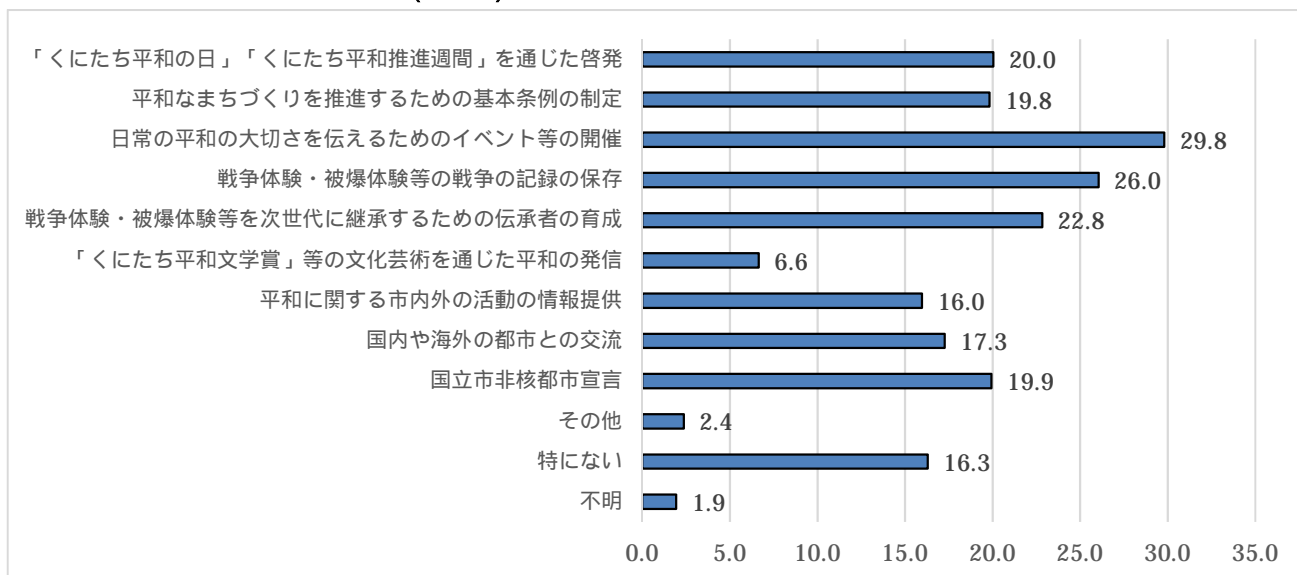
	女性と男性及び多様な性を尊重し	生涯を通じた学校教育・社会教育	ワーク・ライフ・バランスの推進	ドメスティック・バイオレンス(D	国籍やしょうがい等の複合的な要	セクシュアル・ハラスメントへの対	性別の違いに応じた健康管理支援	多様な性の理解に向けた取組	政策・方針決定の場への女性参画の	女性の就業機会の拡充のための支	家庭生活や地域活動における性別	職場における環境整備	多様な保育・育児サービスの充実や	高齢社会に対応した介護・看護環境	その他	特にな	不明
第16回 (H30)	19.7	23.5	14.4	20.9	9.1	7.5	6.0	13.1	10.7	13.0	7.4	10.9	29.0	33.1	1.3	10.0	1.5
第15回 (H26)	14.9	14.7	-	16.2	-	-	-	-	6.0	21.7	9.5	16.1	27.9	32.6	2.2	7.7	6.1
第14回 (H22)	13.6	15.4	-	18.6	-	-	-	-	5.6	21.5	9.0	13.2	24.2	33.6	2.3	7.2	4.0

「ワーク・ライフ・バランスの推進」、「国籍やしょうがい等の複合的な要因により困難を抱えた女性等が安心して暮らせる環境の整備」、「セクシュアル・ハラスメントへの対策」、「性別の違いに応じた健康管理支援の充実」、「多様な性の理解に向けた取組」は30年度調査から追加。

(4) 市に望む平和施策

今後市が進めるべき平和施策としては、「日常の平和の大切さを伝えるためのイベント等の開催」(29.8%)が最も多く、ついで「戦争体験・被爆体験等の戦争の記録の保存」が29.8%、「戦争体験・被爆体験等を次世代に継承するための伝承者の育成」が22.8%とつづいている。

問32 市が進めるべき平和施策(N=933)



前回調査と比較すると、「日常の平和の大切さを伝えるためのイベント等の開催」が7.3%、「戦争体験・被爆体験等の戦争の記録の保存」が7.6%減少している。

(%)

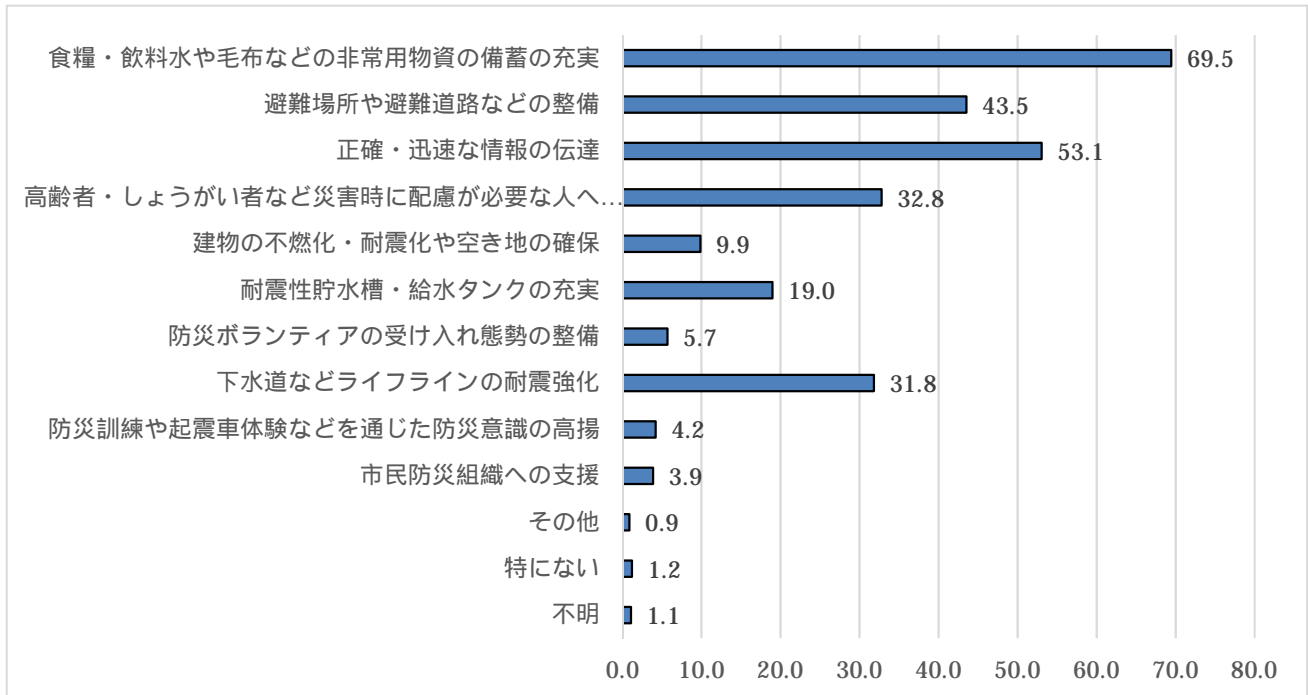
	「くにたち平和の日」「くにたち平和推進週間」を通じた啓発	平和なまちづくりを推進するための基本条例の制定	日常の平和の大切さを伝えるためのイベント等の開催	戦争体験・被爆体験等の戦争の記録の保存	戦争体験・被爆体験等を次世代に継承するための伝承者の育成	「くにたち平和文字賞」等の文化芸術を通じた平和の発信	平和に関する市内外の活動の情報提供	国内や海外の都市との交流	国立市非核都市宣言	その他	特になし	不明
第16回(H30)	20.0	19.8	29.8	26.0	22.8	6.6	16.0	17.3	19.9	2.4	16.3	1.9
第15回(H26)	-	-	37.1	33.6	-	-	28.8	-	-	2.9	17.6	6.6
第14回(H22)	-	-	37.5	32.7	-	-	27.9	-	-	4.3	18.1	5.0

12. 防災対策について

(1) 市に望む防災対策

大規模地震等の自然災害に備えるための防災対策としては、「食糧・飲料水や毛布などの非常用物資の備蓄の充実」(69.5%)と「正確・迅速な情報の伝達」(53.1%)の2つが過半数を超え、以下「避難場所や避難道路などの整備」が43.5%、「高齢者・しょうがい者など災害時に配慮が必要な人への対策」が31.8%でつづいている。

問33 市に望む防災対策(N=933)



第15回調査と比較すると、「下水道などライフラインの耐震強化」が8.3%増加している。

(%)

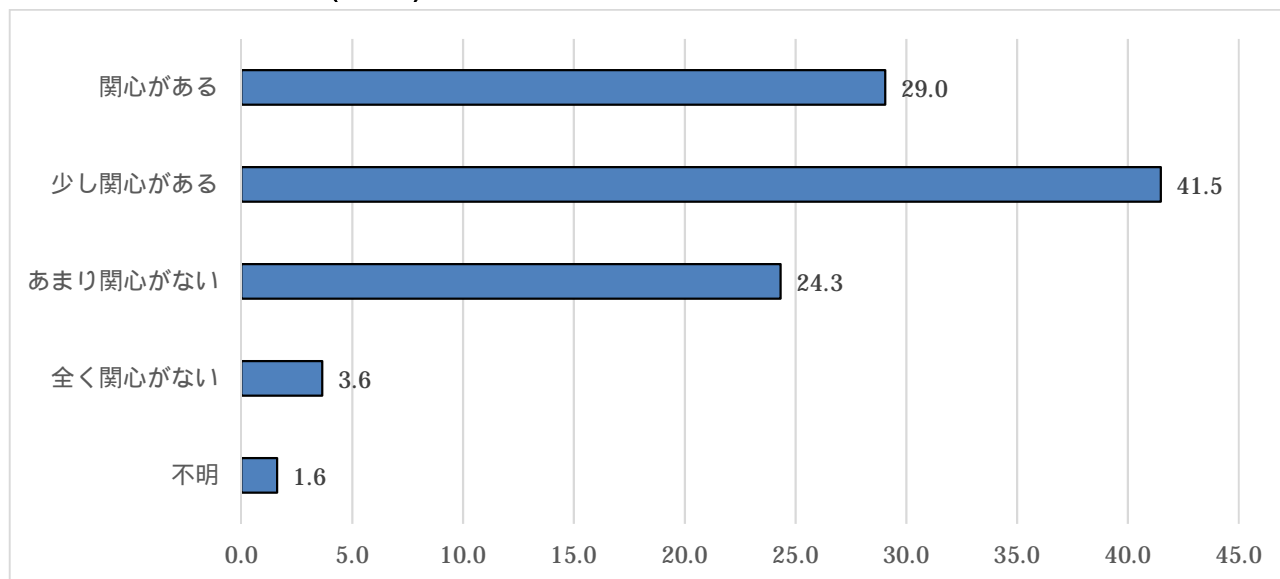
	食糧・飲料水や毛布などの非常用物資の備蓄の充実	避難場所や避難道路などの整備	正確・迅速な情報の伝達	高齢者・しょうがい者など災害時に配慮が必要な人への対策	建物の不燃化・耐震化や空き地の確保	耐震性貯水槽・給水タンクの充実	防災ボランティアの受け入れ態勢の整備	下水道などライフラインの耐震強化	意識の高揚	防災訓練や起震車体験などを通じた防災	市民防災組織への支援	その他	特にない	不明
第16回(H30)	69.5	43.5	53.1	32.8	9.9	19.0	5.7	31.8	4.2	3.9	0.9	1.2	1.1	
第15回(H26)	69.0	42.9	55.9	32.7	11.5	15.2	6.1	23.5	5.2	5.3	2.3	1.2	3.8	

13. 市政への関心

(1) 国立市政への関心

市政への関心については、「関心がある」(29.0%)、「少し関心がある」(41.5%)を合わせると70.5%と高い関心が示されている。

問34 国立市政への関心(N=933)



第15回調査と比較すると、大きな変化はみられない。

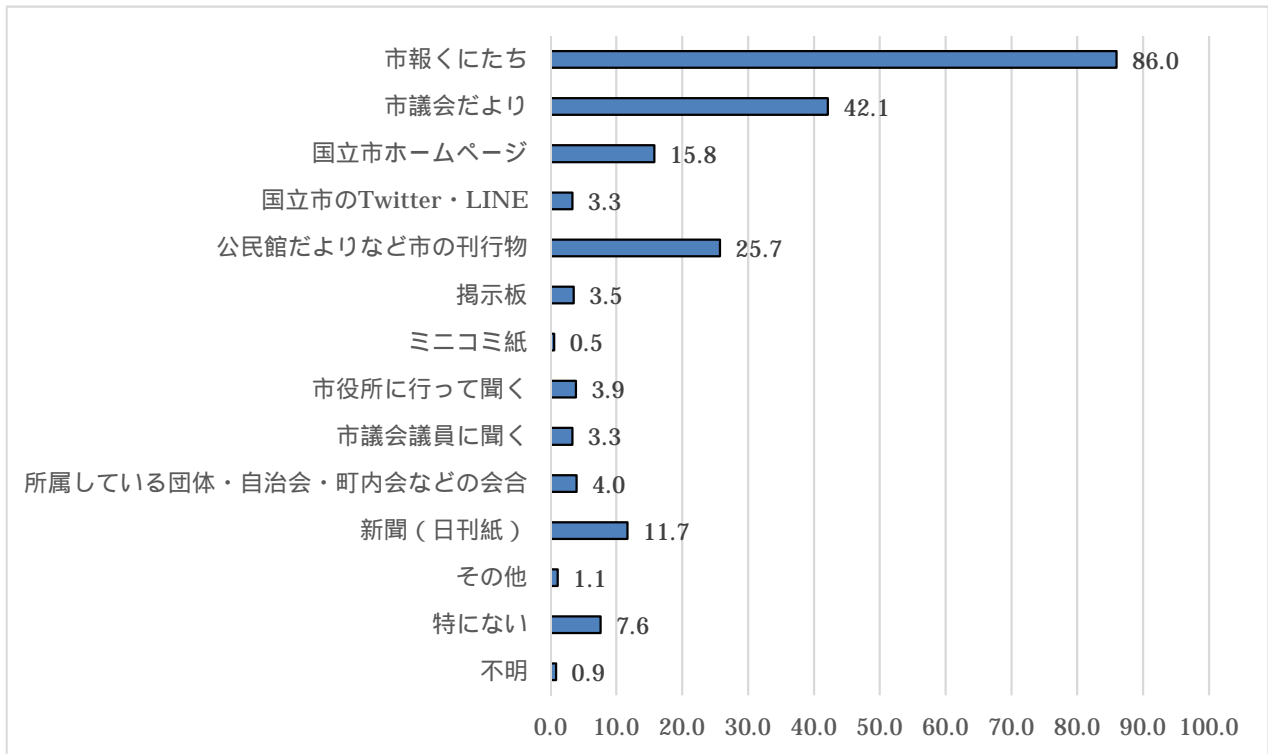
(%)

	関心がある	少し関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
第16回(H30)	29.0	41.5	24.3	3.6	1.6
第15回(H26)	29.2	41.4	20.3	1.9	7.3
第14回(H22)	36.5	40.0	16.9	1.7	5.0

(2) 市の仕事・問題の認知手段

市で行っている仕事の内容や市が抱える問題を知る手段については、「市報くにたち」が86.0%と最も多く、次いで「市議会だより」42.1%となっている。

問 35 市の仕事・問題の認知手段(N=933)



第 15 回調査と比較すると、大きな変化はみられない。

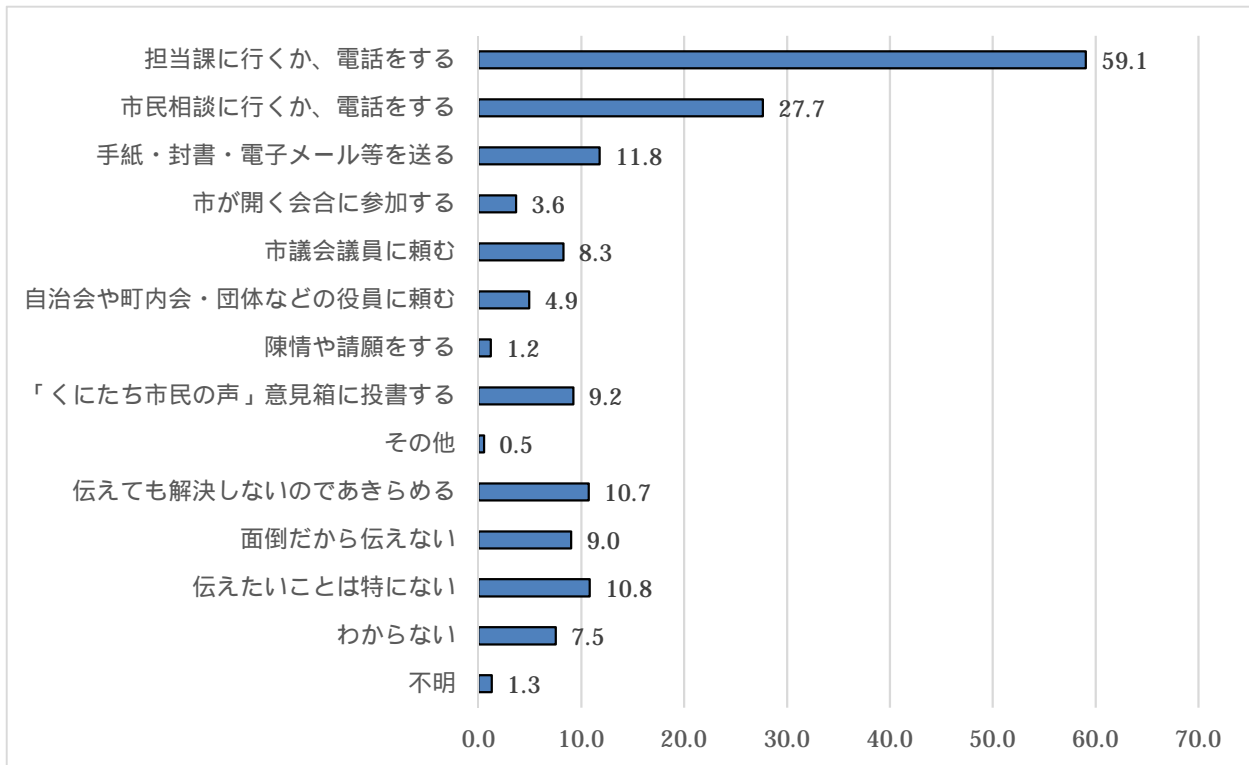
(%)

	市報くにたち	市議会だより	公民館だよりなど市の刊行物	国立市ホームページ	新聞(日刊紙)	所属している団体・自治会・町内会などの会合	掲示板	市役所に行って聞く	市議会議員に聞く	ミニコミ紙	国立市のTwitter・LINE	その他	特にない	無回答
第 16 回(H30)	86.0	42.1	25.7	15.8	11.7	4.0	3.5	3.9	3.3	0.5	3.3	1.1	7.6	0.9
第 15 回(H26)	85.7	42.6	21.7	15.5	12.5	5.5	5.2	3.4	4.1	1.6	-	1.3	3.8	5.5
第 14 回(H22)	88.0	40.8	23.9	13.0	18.3	4.8	4.6	4.2	3.6	2.8	-	1.8	3.9	1.6

(3) 市への意見・要望・苦情の伝達方法

市への意見・要望・苦情の伝達方法としては、「市役所の担当課に行くか、電話をする」が59.1%と過半数を超え、ついで「市役所の市民相談に行くか、電話をする」が27.7%でつづいている。

問 36 市への意見・要望・苦情の伝達方法(N=933)



第15回調査と比較するとあまり変化はみられなかった。

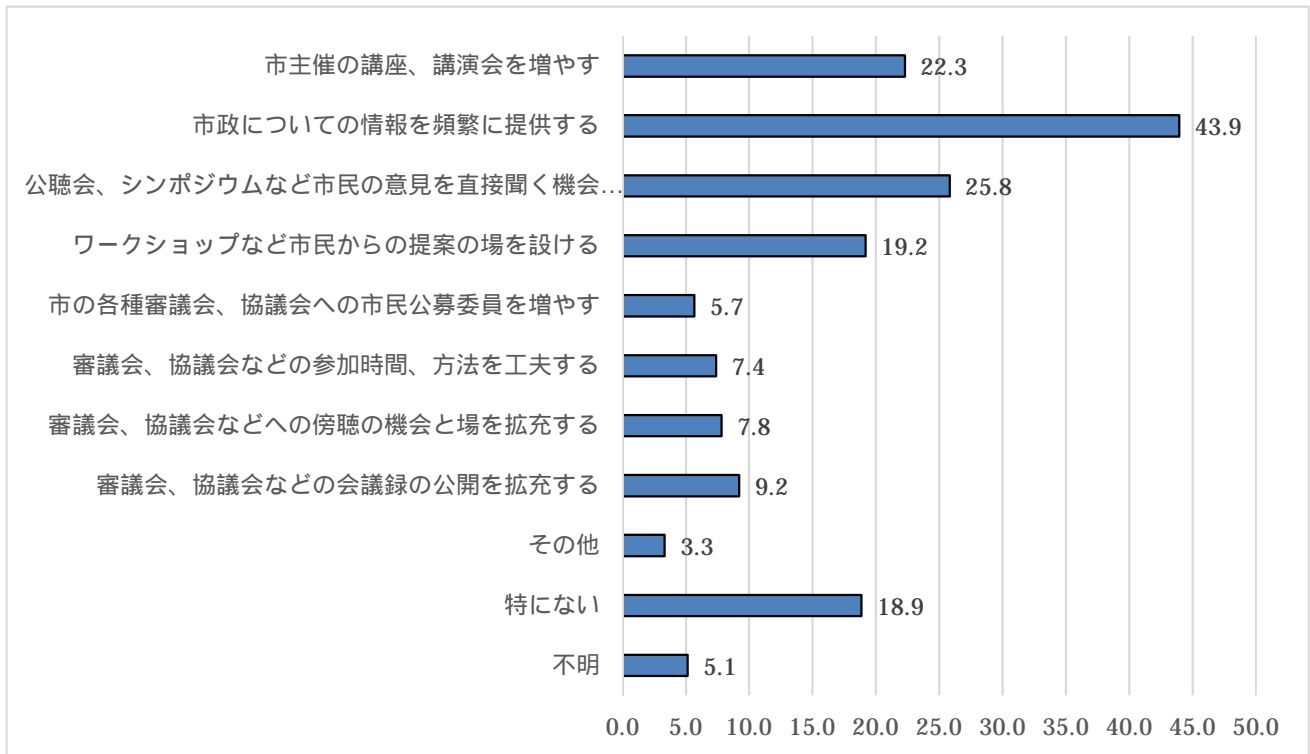
(%)

	市役所の担当課に行くか、電話をする	市役所の市民相談に行くか、電話をする	国立市に手紙・封書・電子メール等を送る	「くにたち市民の声」意見箱に投書する	市議会議員に頼む	自治会や町内会・団体などの役員に頼む	市が開く会合に参加する	陳情や請願をする	その他	伝えたいことは特にない	伝えても解決しないのであきらめる	面倒だから伝えない	わからない	無回答
第16回(H30)	59.1	27.7	11.8	9.2	8.3	4.9	3.6	1.2	0.5	10.8	10.7	9.0	7.5	1.3
第15回(H26)	56.0	26.9	12.1	7.8	7.5	6.2	2.1	2.0	0.9	13.0	10.7	8.8	5.2	5.9
第14回(H22)	60.5	29.8	9.4	6.3	6.5	4.6	2.4	2.2	0.8	9.8	5.4	3.1	4.7	2.3

(4) 市民参画を進めるために行うべき施策

市政への市民参画を進めるために行うべき施策としては、「市政についての情報を頻繁に提供する」が43.9%と最も多く、以下「公聴会、シンポジウムなど市民の意見を直接聞く機会を増やす」が23.0%、「市主催の講座、講演会を増やす」が22.3%、「ワークショップなど市民からの提案の場を設ける」が19.2%でつづいている。

問 37 市民参画を進めるために行うべき施策(N=933)



第15回調査と比較するとあまり変化はみられない。

(%)

	市政についての情報を頻繁に提供する	公聴会、シンポジウムなど市民の意見を直接聞く機会を増やす	市主催の講座、講演会を増やす	ワークショップなど市民からの提案の場を設ける	審議会、協議会などの会議録の公開を拡充する	審議会、協議会などの参加時間、方法を工夫する	市の各種審議会、協議会への市民公募委員を増やす	審議会、協議会などへの傍聴の機会と場を拡充する	その他	特にない	不明
第16回(H30)	43.9	25.8	22.3	19.2	7.8	7.4	5.7	9.2	3.3	18.9	5.1
第15回(H26)	45.6	23.0	20.6	18.1	9.4	8.0	7.2	6.5	3.7	16.8	10.1
第14回(H22)	47.0	26.6	19.6	16.7	11.6	7.7	7.9	9.8	3.1	16.0	5.7

(5) 国立らしさのイメージ

有効回収数 933 件中 497 件の意見が寄せられ、主な意見としては「大学通り」「桜並木」「自然が多い」「緑豊か」「文教都市・学園都市」「きれいな街並み」「市民の意識が高い」等があげられている。

(6) 国立市政についての意見

有効回収数 933 件中 328 件の意見が寄せられ、主に「市政のあり方に関する意見」「国立駅周辺整備に関する意見」「財政の健全化に関する意見」をはじめ多様な意見が寄せられた。

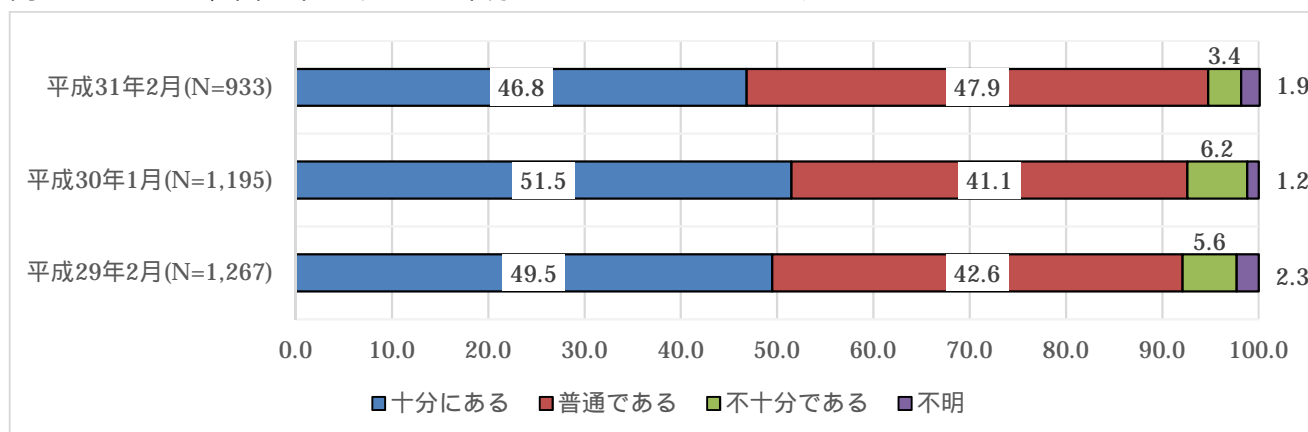
．第 1 1 回国立市市民意識調査結果

1．国立市全体や市民の皆様が住んでいる地域について

(1) みどり

国立市はみどりが十分にあるまちだと思える市民の割合は、第11回が46.8%であり、第10回の51.5%と比べると4.7%減少している。また、第9回の49.5%と比べても2.7%減少している。

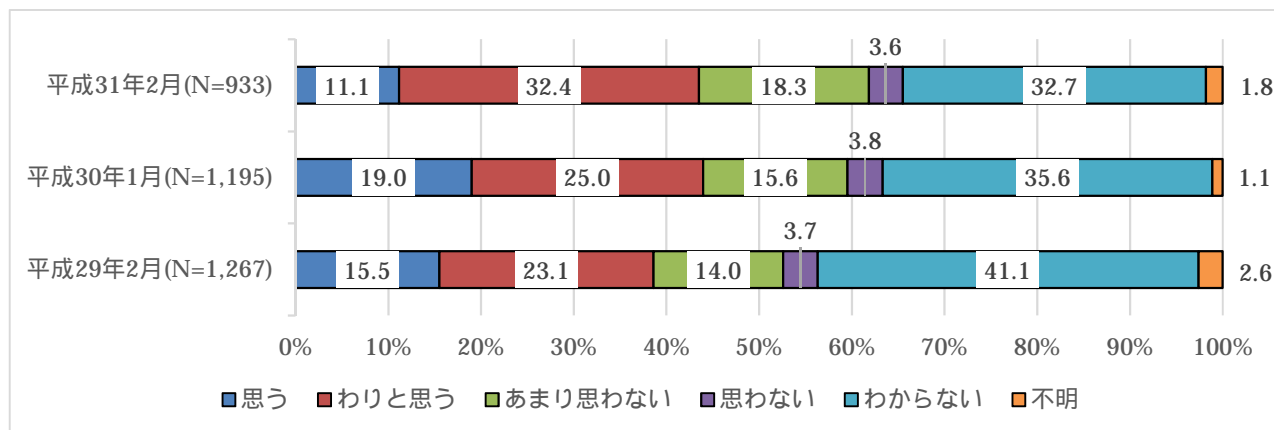
問 1 あなたは、国立市はみどりが十分にあるまちだと思いますか？



(2) 子育て

子育てのしやすい環境が整っていると思う市民の割合(「思う」及び「わりと思う」の合計)は、第11回が43.5%であり、第10回の44.0%と比べると0.5%減少している。また、第9回の38.6%と比べるとあまり変化はみられなかった。

問 2 あなたは、子育てのしやすい環境が整っていると思いますか？

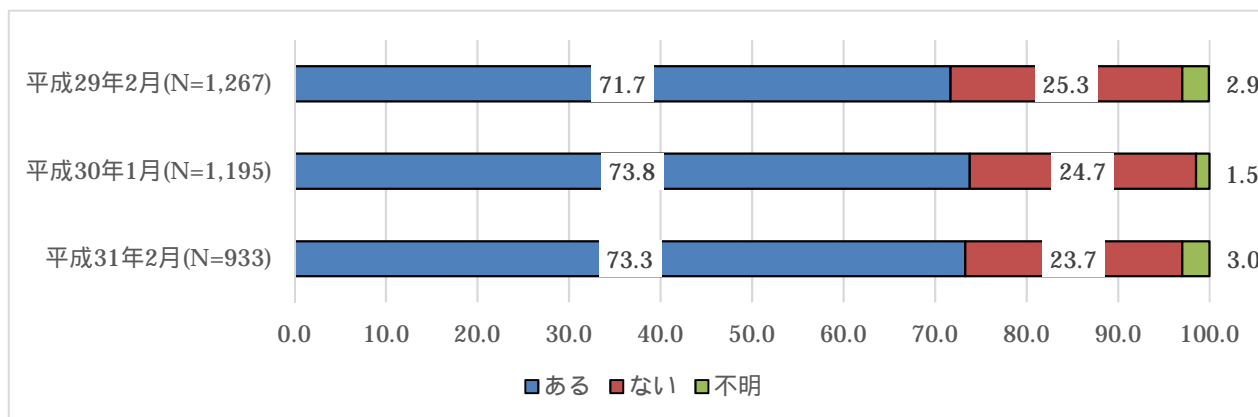


(3) 医療機関の有無

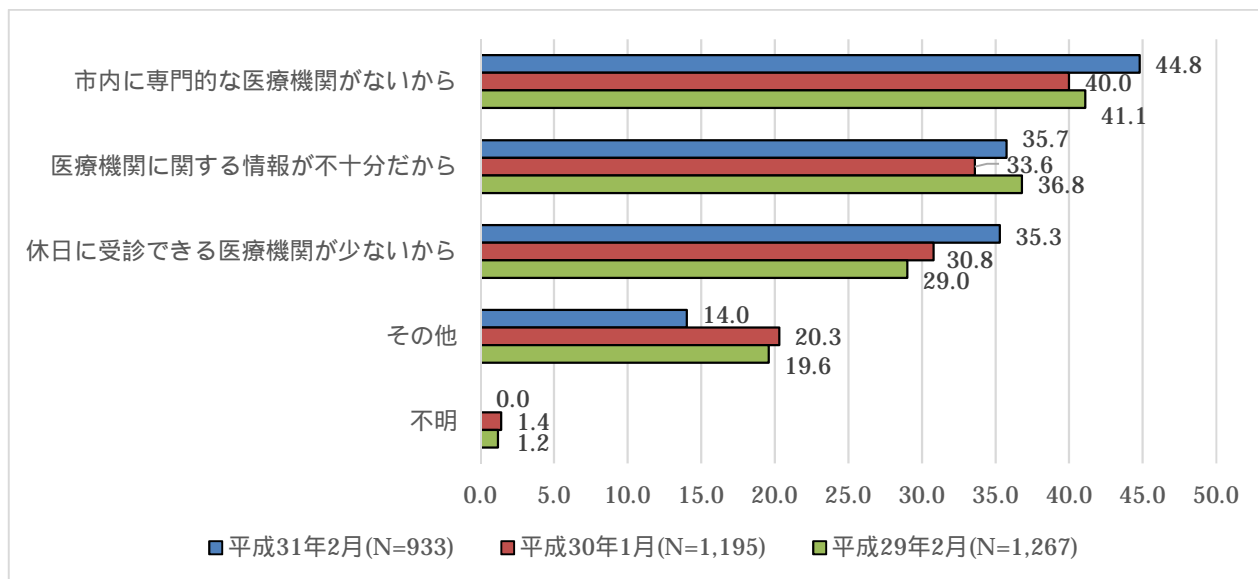
近くに安心してかかることができる医療機関がある市民の割合は、第11回が73.3%であり、第10回の73.8%と比べるとあまり変化はみられなかった。また、第9回の71.7%と1.7%増加している。

次に、近くに安心してかかることができる医療機関がない市民が、そう思う理由は、「市内に専門的な医療機関がないから」44.8%（第10回40.0%）、「医療機関に関する情報が不十分だから」35.7%（第10回33.6%）、「休日に受診できる医療機関が少ないから」35.3%（第10回30.8%）となっている。

問3 あなたは、近くに安心してかかることができる医療機関がありますか？



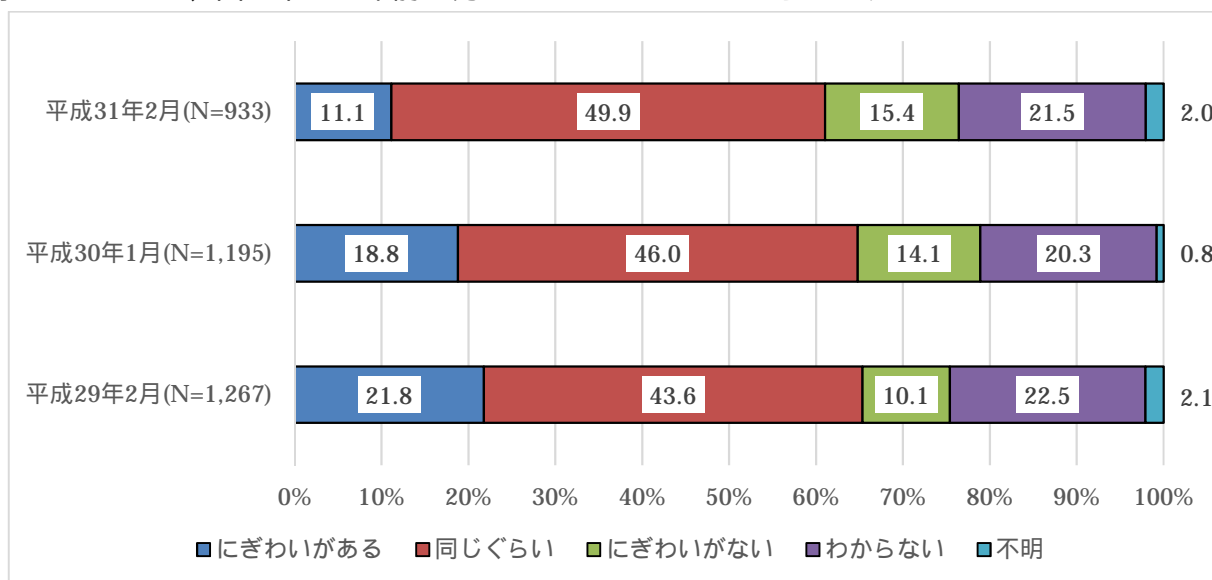
問4 問3で「ない」と答えた方に伺います。その理由は何ですか？



(4) 国立市のにぎわい

国立市は3年前と比べてにぎわいがあると思う市民の割合は、第11回(平成31年2月)が11.1%であり、第10回(平成30年1月)の18.8%と比べると7.7%減少している。3年前と比べてにぎわいがないと思う市民の割合は、第11回(平成31年2月)が15.4%であり、第10回(平成30年1月)の14.1%と比べるとあまり変化はみられなかった。また、3年前と同じくらいと思う市民の割合は、第11回(平成31年2月)が49.9%であり、第10回(平成30年1月)の46.0%と比べると3.9%増加している。

問5 あなたは、国立市は3年前と比べてにぎわいがあると思いますか？

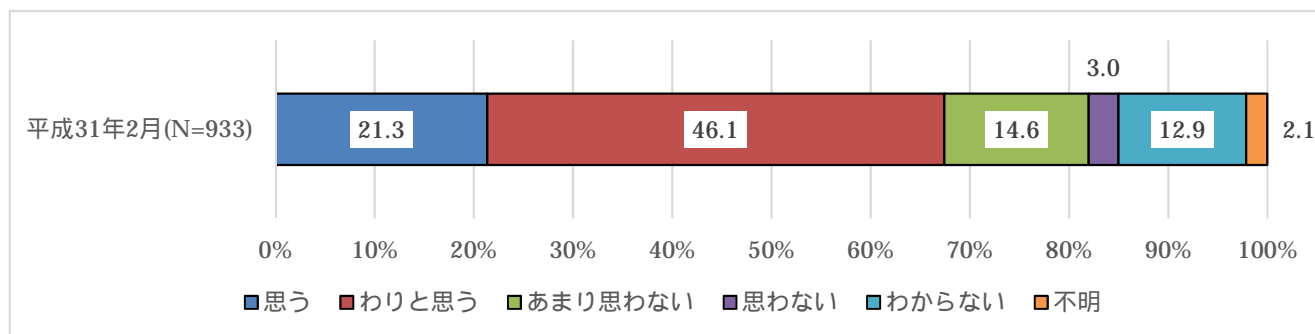


(5) 文化的なまち

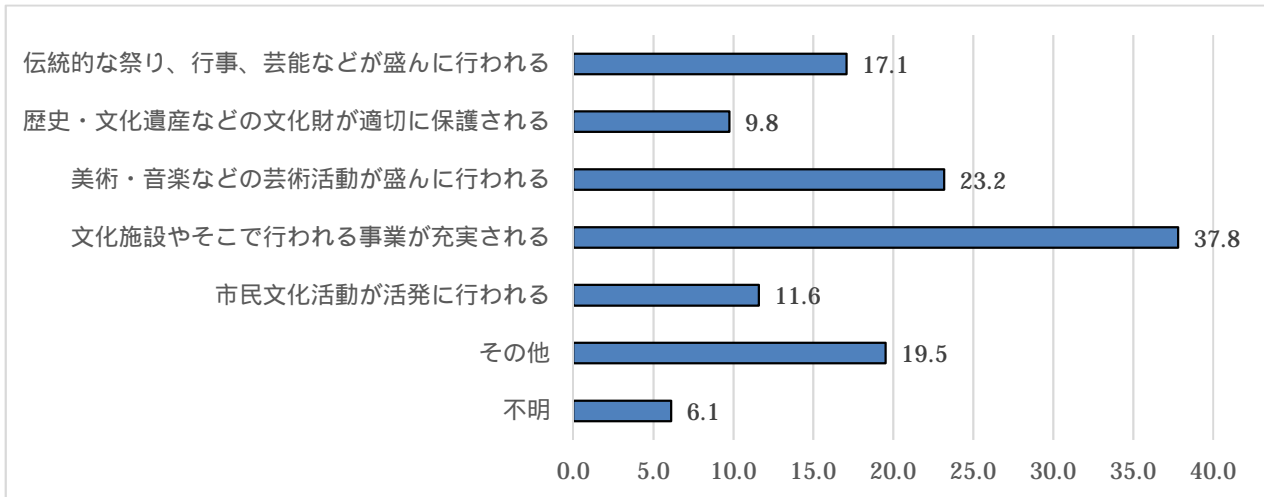
国立市は文化的なまちであると思う、わりと思う市民の割合は61.4%(思う21.3%、わりと思う46.1%)となり、過半数を超える結果となった。

次に、文化的なまちであると思わない、わりと思わない市民が、どのようにしたら文化的なまちになると思うか質問をしたところ、「文化施設やそこで行われる事業が充実される」37.8%、「美術・音楽などの芸術活動が盛んに行われる」23.2%となっている。

問6 あなたは、国立市が「文化的なまち」だと思いますか？



問7 どのようにしたら国立市が「文化的なまち」になると思いますか



2. 日常生活における活動や意識について

(1) 福祉活動への取り組み

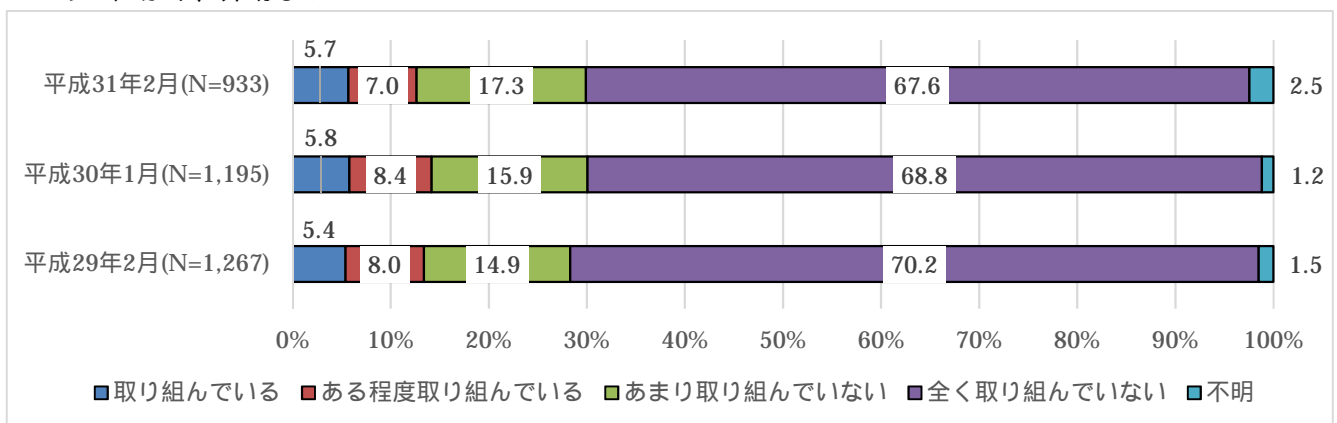
何らかの福祉活動に取り組んでいる市民の割合（「取り組んでいる」及び「ある程度取り組んでいる」の合計）は、第11回が12.7%であり、第10回（平成31年2月）の14.2%と比べるとあまり増減はない。また、全く取り組んでいない市民の割合についても、第11回（平成31年2月）が67.6%であり、第10回（平成30年1月）の68.8%と比べ増減はしてない。

次に、国立市が福祉的な困りごとの相談や支援を十分に行っていると思う市民の割合（「思う」及び「わりと思う」の合計）は、第11回（平成31年2月）が26.0%であり、第10回（平成30年1月）の28.4%と比べると2.4%減少している。

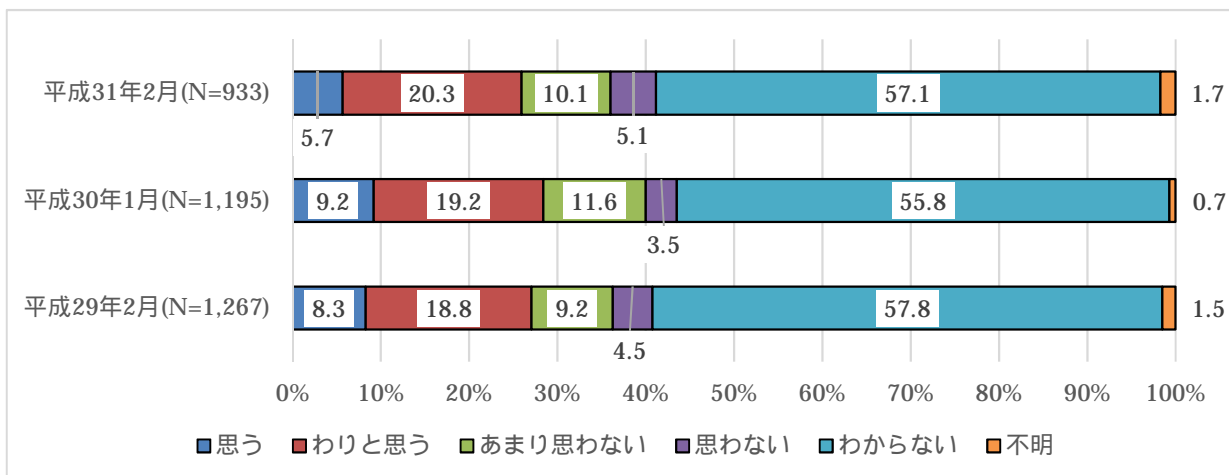
最後に、国立市が高齢者の相談や支援を十分に行っていると思う市民の割合（「思う」及び「わりと思う」の合計）は、第11回（平成31年2月）が25.5%であり、第10回（平成30年1月）の23.1%と比べると2.4%増加している。

問8 あなたは、何らかの福祉活動に取り組んでいますか？

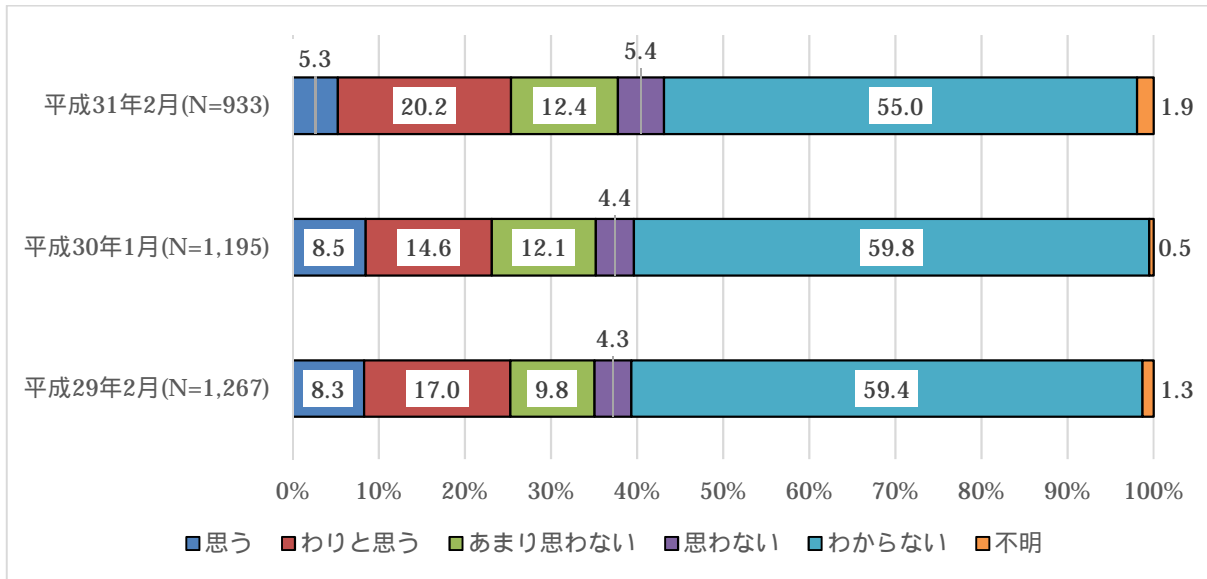
「福祉活動」とは、福祉ボランティア活動、福祉関連イベントへの実行委員会としての参加、日々の見守り・声かけ、介助など



問9 あなたは、国立市が福祉的な困りごとの相談や支援を十分に行っていると思いますか？



問10 あなたは、国立市が高齢者の相談や支援を十分に行っていると思いますか？

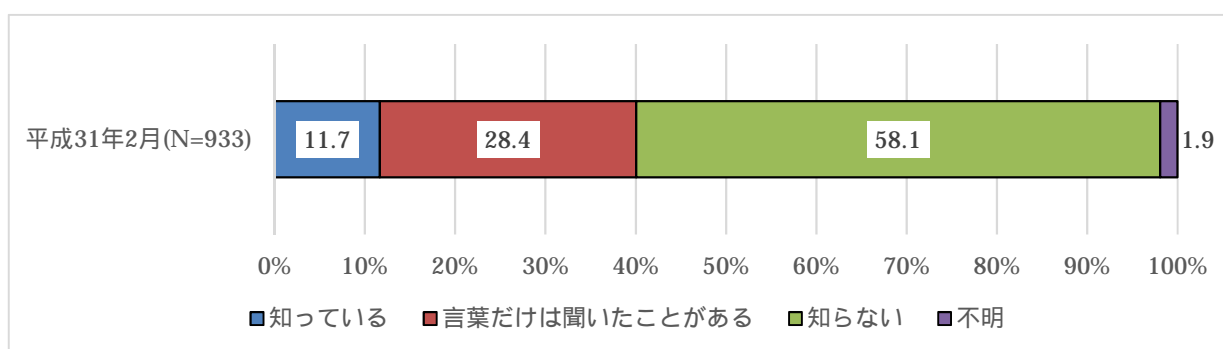


(2) 共生社会

全ての人を社会的孤立や排除から守り、社会の一員として包み支えあう「ソーシャルインクルージョン」という考え方を知っている市民の割合は、第11回（平成31年2月）では11.7%、言葉だけは聞いたことがある市民の割合は28.4%となっており、「ソーシャルインクルージョン」という考え方の認知度は高くない。

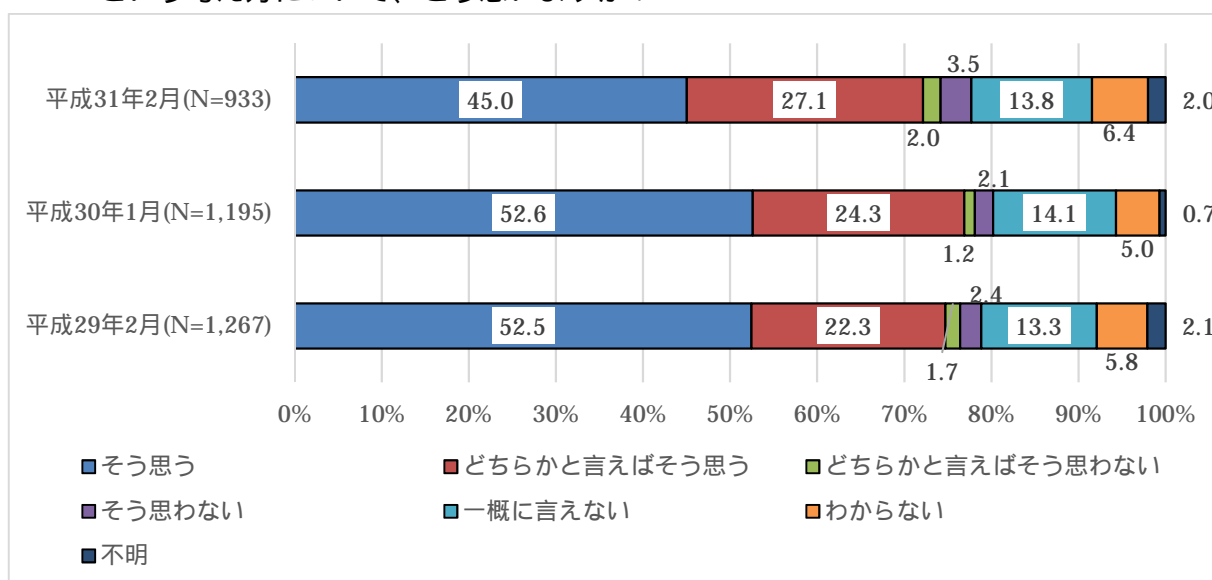
次に、「しょうがい（障害）がある人が身近でふつうに生活していることがあたりまえだ」と思う市民の割合（「そう思う」及び「どちらかと言えばそう思う」の合計）は、第11回（平成31年2月）が72.1%であり、第10回（平成30年1月）の76.9%と比べると4.8%減少している。また、第9回（平成29年2月）の74.8%と比べてみても2.7%減少している。

問 1 1 あなたは、全ての人を社会的孤立や排除から守り、社会の一員として包み支えあう「ソーシャルインクルージョン」という考え方を知っていますか？



平成30年度より新設された設問

問 1 2 あなたは、「しょうがい（障害）がある人が身近でふつうに生活していることがあたりまえだ」という考え方について、どう思いますか？

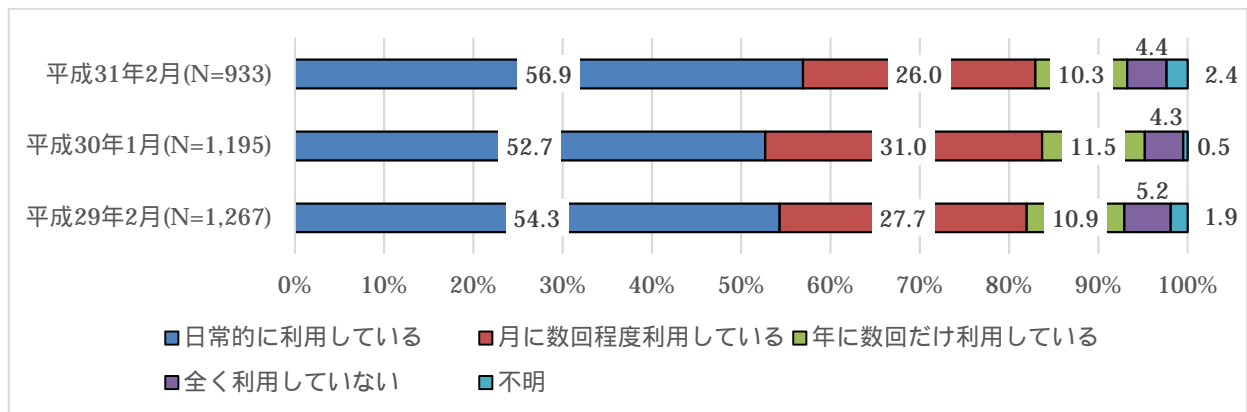


(3) 公共交通機関の利用

公共交通の利用頻度は、「日常的に利用している」56.9%（第10回52.7%）、「月に数回程度利用している」26.0%（第10回31.0%）、「年に数回だけ利用している」10.3%（第10回11.5%）、「全く利用していない」4.4%（第10回4.3%）となっており、大きな変化はみられない。

次に、公共交通機関を利用している市民が、公共交通機関を使った通勤・通学・昼間の移動が便利だと思う割合は、第11回（平成31年2月）が【市内】66.3%・【市外】79.0%であり、第10回（平成30年1月）の【市内】65.6%・【市外】79.4%と比べると、市内・市外ともに大きな変化はみられない。

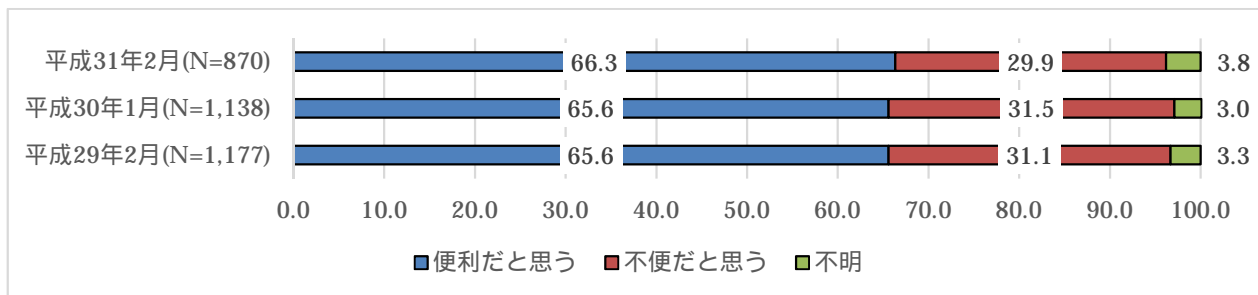
問13 あなたは、どの程度公共交通機関（バス、電車）を利用していますか？



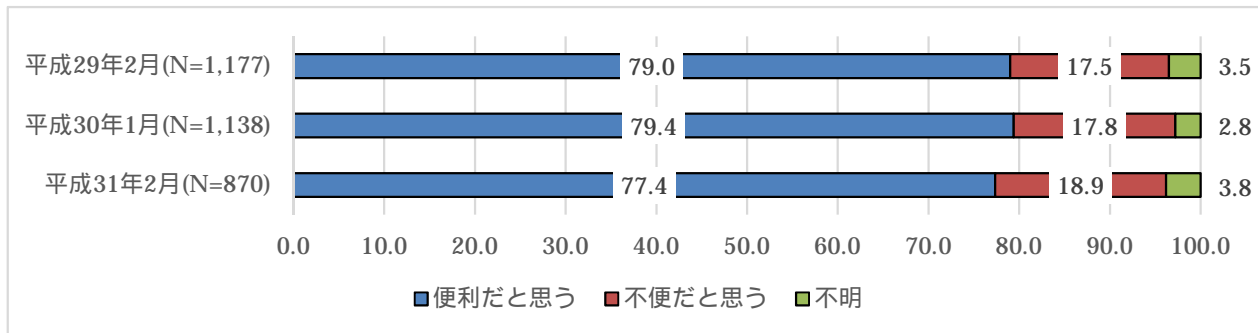
問14 問13で「全く利用していない」以外と答えた方に伺います。

あなたは、公共交通機関を使った通勤・通学・昼間の移動が便利だと思いますか？

【市内の移動に関して】



【市外への移動に関して】

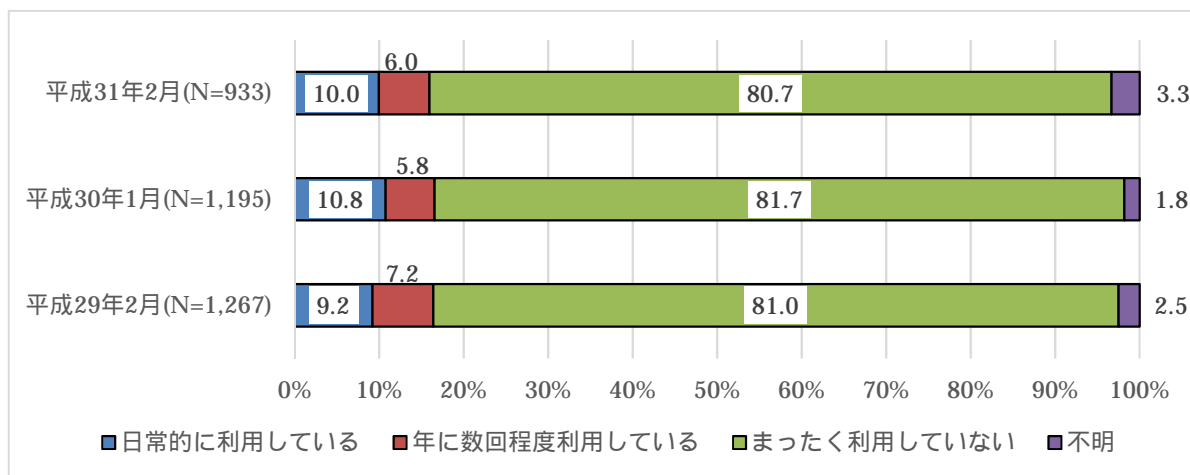


(4) 福祉的な交通の利用

福祉的な交通の利用頻度は、「日常的に利用している」10.0%（第10回10.8%）、「年に数回程度利用している」6.0%（第10回5.8%）となっており、大きな変化はみられなかった。

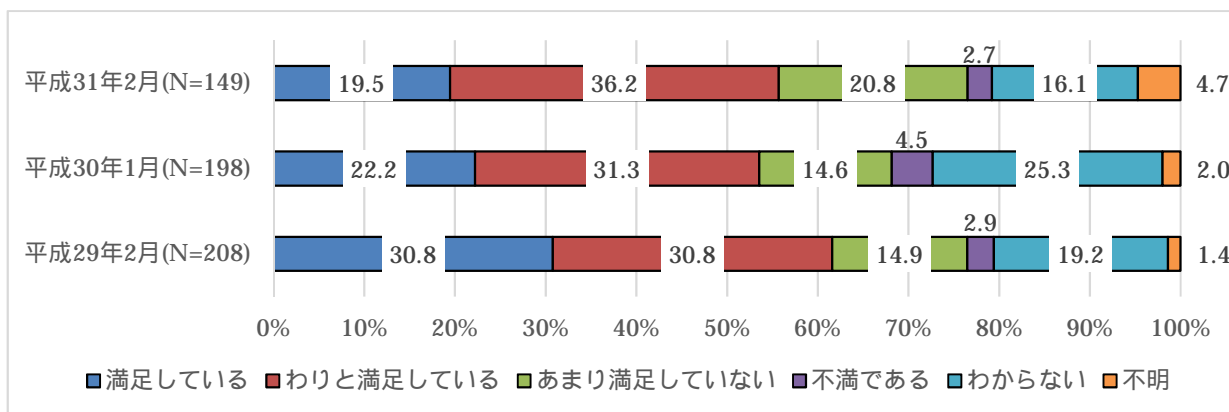
次に、福祉的な交通機関を利用している市民の、国立市の福祉的な交通施策に満足している市民の割合（「満足している」及び「わりと満足している」の合計）は、第11回（平成31年2月）が55.7%であり、第10回（平成30年1月）の53.5%と比べると大きな変化はみられなかった。逆に、不満と感じている市民の割合（「あまり満足していない」及び「不満である」の合計）は、第11回（平成31年2月）が23.5%であり、第10回（平成30年1月）の19.1%と比べると4.4%増加している。

問15 あなた又はあなたの家族が福祉的な交通をどの程度利用しますか？



問16 問15で「日常的に利用している」、「年に数回程度利用している」と答えた方に伺います。あなたは、国立市の福祉的な交通施策に満足していますか？

福祉的な交通施策とは、65歳以上の高齢者やしょうがいしゃ、要介護者・要支援者・妊産婦などの移動制約者を対象に行う、生活支援や介護予防のための移動手段の確保を目的とした施策を指します。



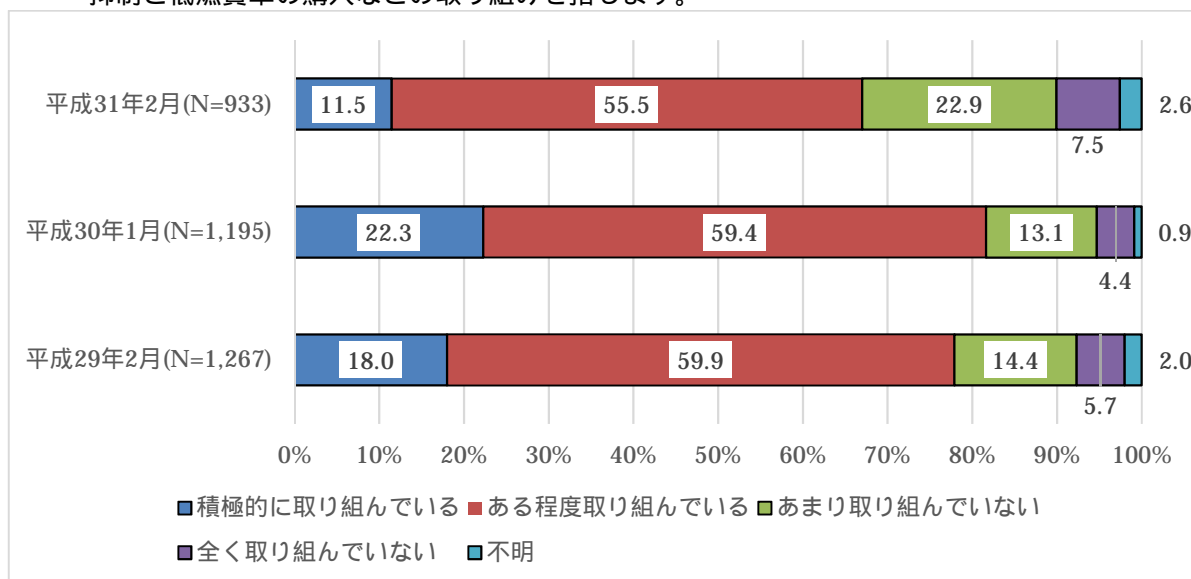
(5) 環境に配慮した取り組み

環境に配慮した取り組みを行っている市民の割合（「積極的に取り組んでいる」及び「ある程度取り組んでいる」の合計）は、第11回（平成31年2月）が67.0%であり、第10回（平成30年1月）の81.7%と比べると14.7%減少している。また、第9回（平成29年2月）の77.9%と比べても10.9%減少している。

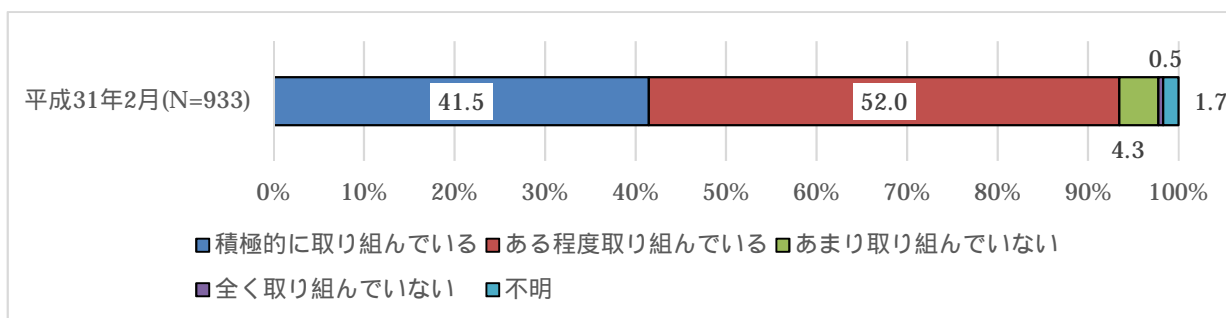
ごみの減量や分別に取り組んでいる市民の割合（「積極的に取り組んでいる」及び「ある程度取り組んでいる」の合計）は93.5%となった。

問17 あなたは、環境に配慮した取り組みを行っていますか？

「環境に配慮した取り組み」とは、ごみの発生抑制と分別、光熱水量の節減、緑化の推進、自動車利用の抑制と低燃費車の購入などの取り組みを指します。



問18 あなたは、ごみの減量や分別に取り組んでいますか？

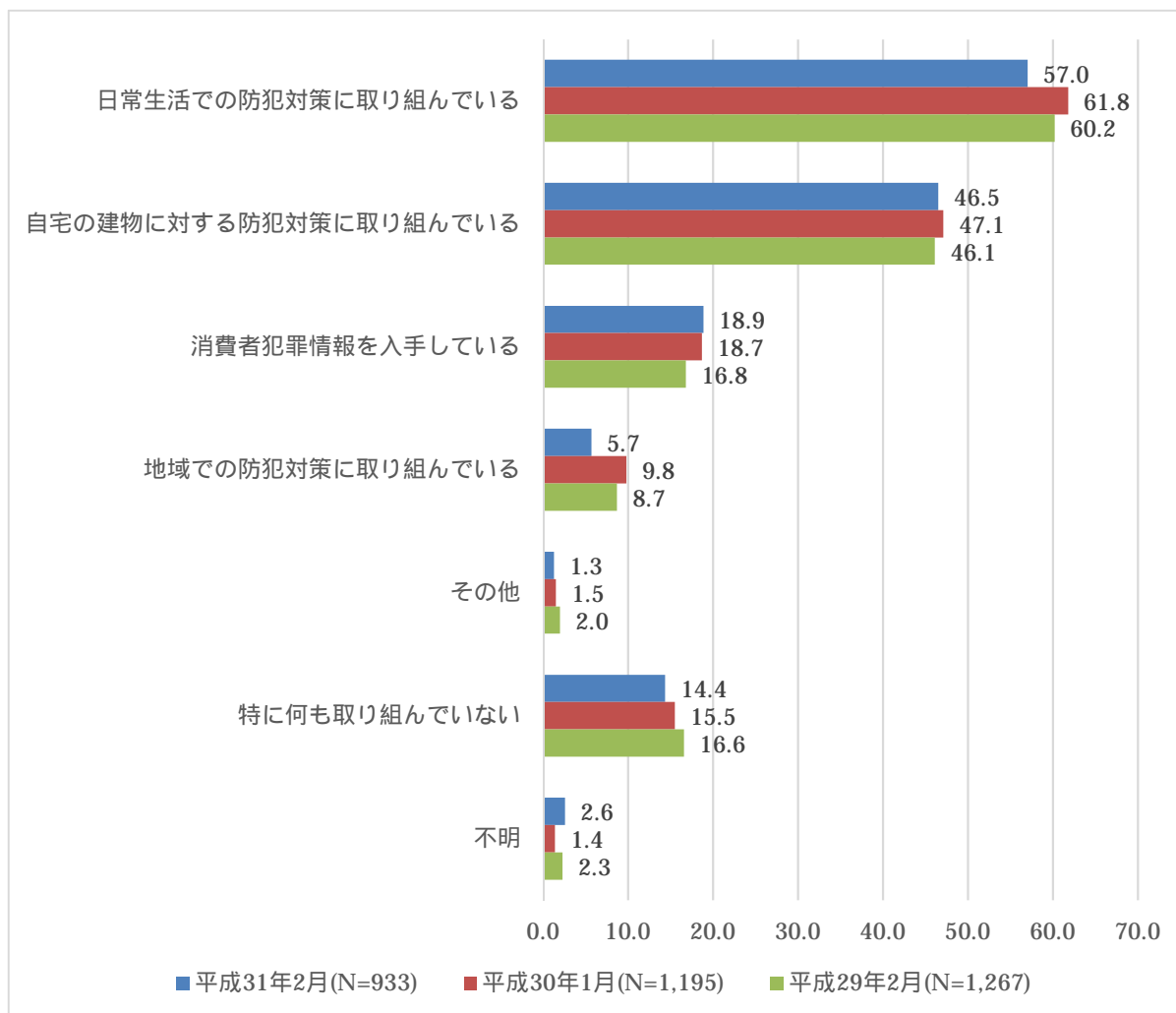


30年度調査より追加された設問

(6) 防犯

市民が行っている防犯対策は、「日常生活での防犯対策に取り組んでいる」57.0%（第10回61.8%）、「自宅の建物に対する防犯対策に取り組んでいる」46.5%（第10回47.1%）が上位に挙げられた。一方、防犯対策を行っていない（「特に何も取り組んでいない」）市民の割合は、第11回（平成31年2月）が14.4%であり、第10回（平成30年1月）の15.5%と比べると1.1%減少している。また、第9回（平成29年2月）の16.6%と比べると2.2%減少しており減少傾向にある。

問19 あなたやあなたの世帯では、以下に掲げるような何らかの防犯対策を行っていますか？（複数選択可）



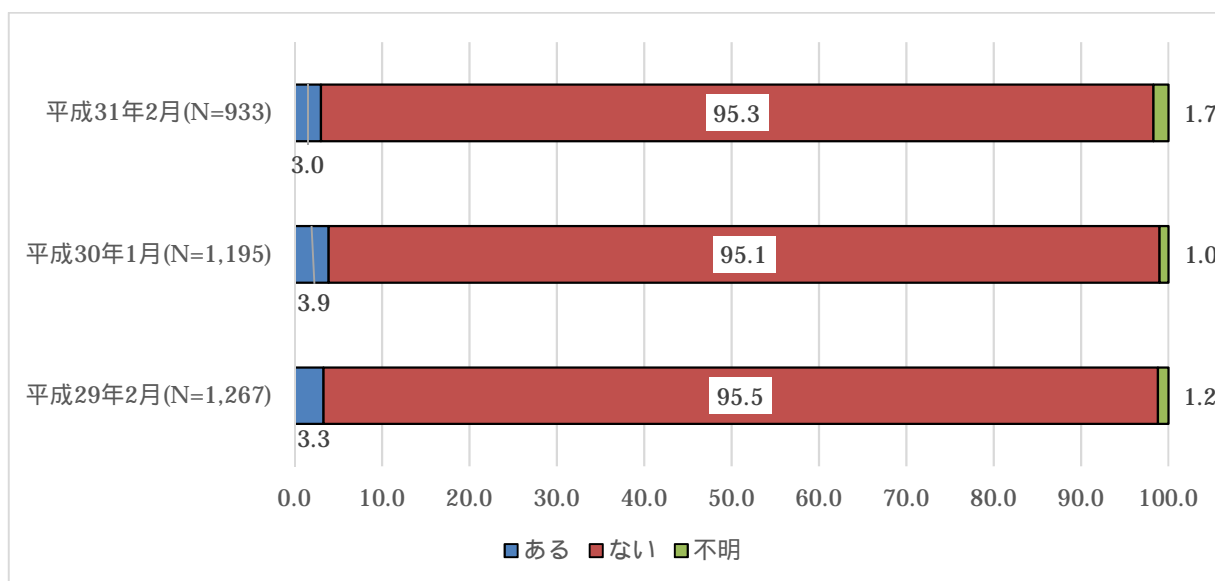
(7) 消費生活

過去1年間で消費生活に関する被害にあったことがある市民の割合は、第11回(平成31年2月)が3.0%であり、第10回(平成30年1月)の3.9%と比べるとあまり変化はみられなかった。また、第9回(平成29年2月)の3.3%と比べてもあまり変化はみられなかった。

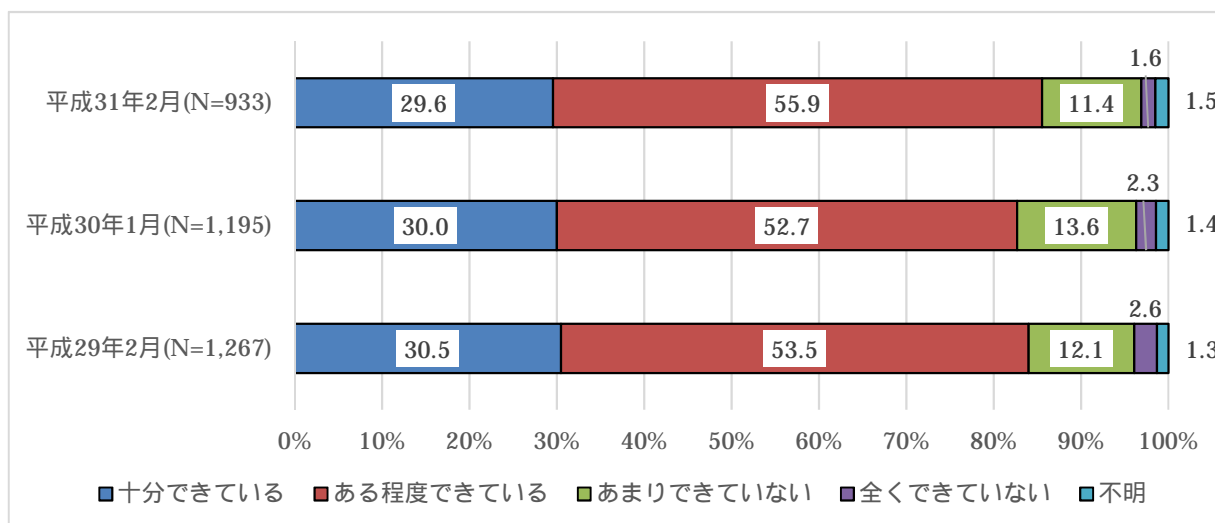
次に、消費生活に関する情報を身近に聞く・触れることができている市民の割合(「十分できている」及び「ある程度できている」の合計)は、第11回(平成31年2月)が85.5%であり、第10回(平成30年1月)の82.7%と比べると2.8%増加している。

問20 あなたは、過去1年間で消費生活に関する被害にあったことがありますか？

「消費生活に関する被害」とはキャッチセールス、振り込め詐欺、解約に係るトラブル、架空請求などの被害を指します。



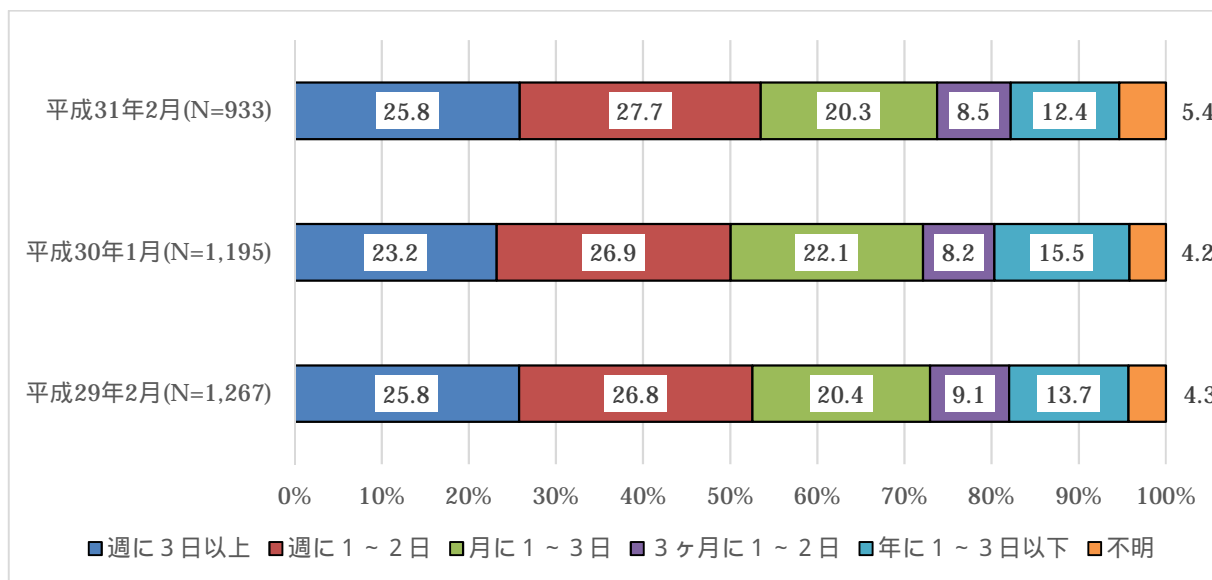
問21 あなたは、消費生活に関する情報をテレビ、新聞、広報誌等で身近に聞く・触れることができますか？



(8) スポーツ・レクリエーション

日常的にスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合(「週に3日以上」及び「週に1～2日」の合計)は、第11回(平成30年1月)が53.5%であり、第10回(平成30年1月)の50.1%と比べると3.4%増加している。

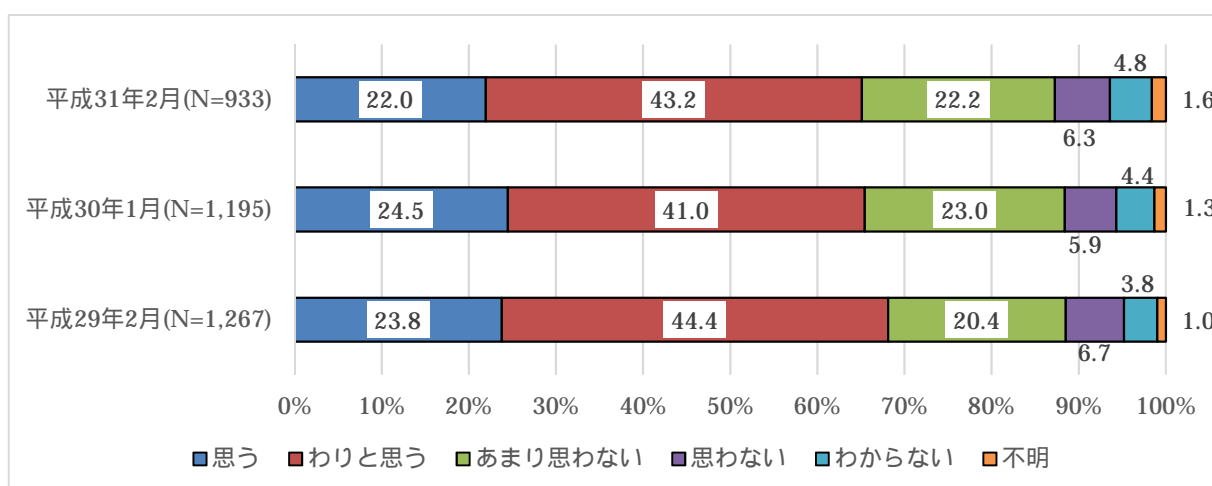
問2 2 あなたは、どの程度スポーツ・レクリエーション(ウォーキングなど軽い運動も含む)を行っていますか？



(9) 健康

自分が健康だと思う市民の割合(「思う」及び「わりと思う」の合計)は、第11回(平成31年2月)が65.2%であり、第10回(平成30年1月)の65.5%と比べるとあまり変化はみられなかった。

問2 1 あなたは、自分が健康だと思いますか？



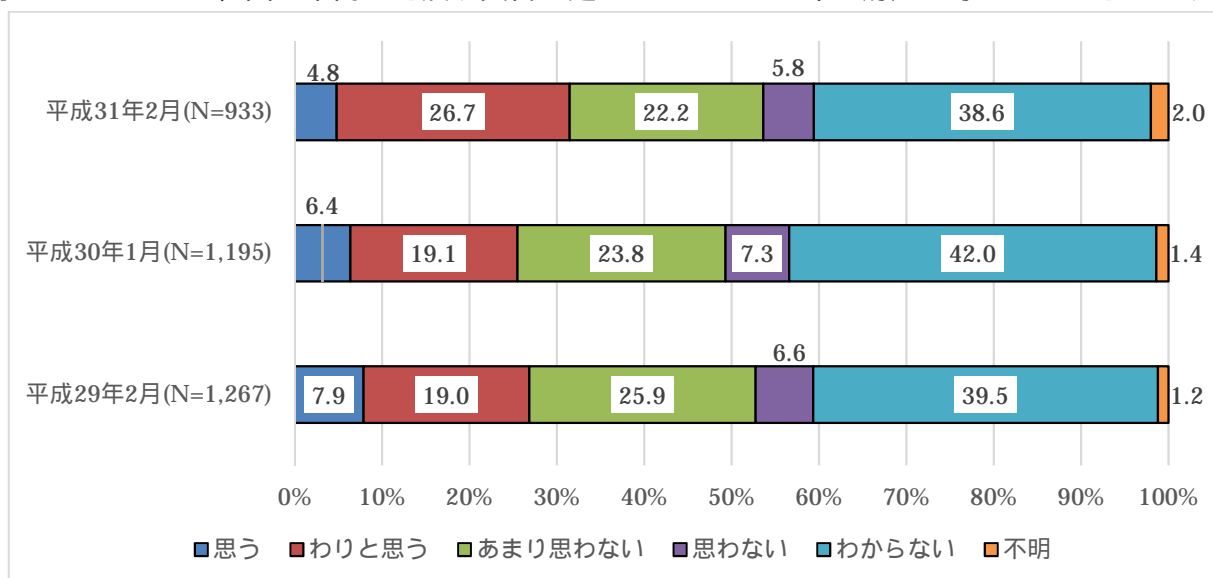
(10) 災害

国立市内で地震や災害が起こったときに生命・財産が守られると思う市民の割合（「思う」及び「わりと思う」の合計）は、第11回（平成31年2月）が31.5%であり、第10回（平成30年1月）の25.5%と比べると6.0%増加している。

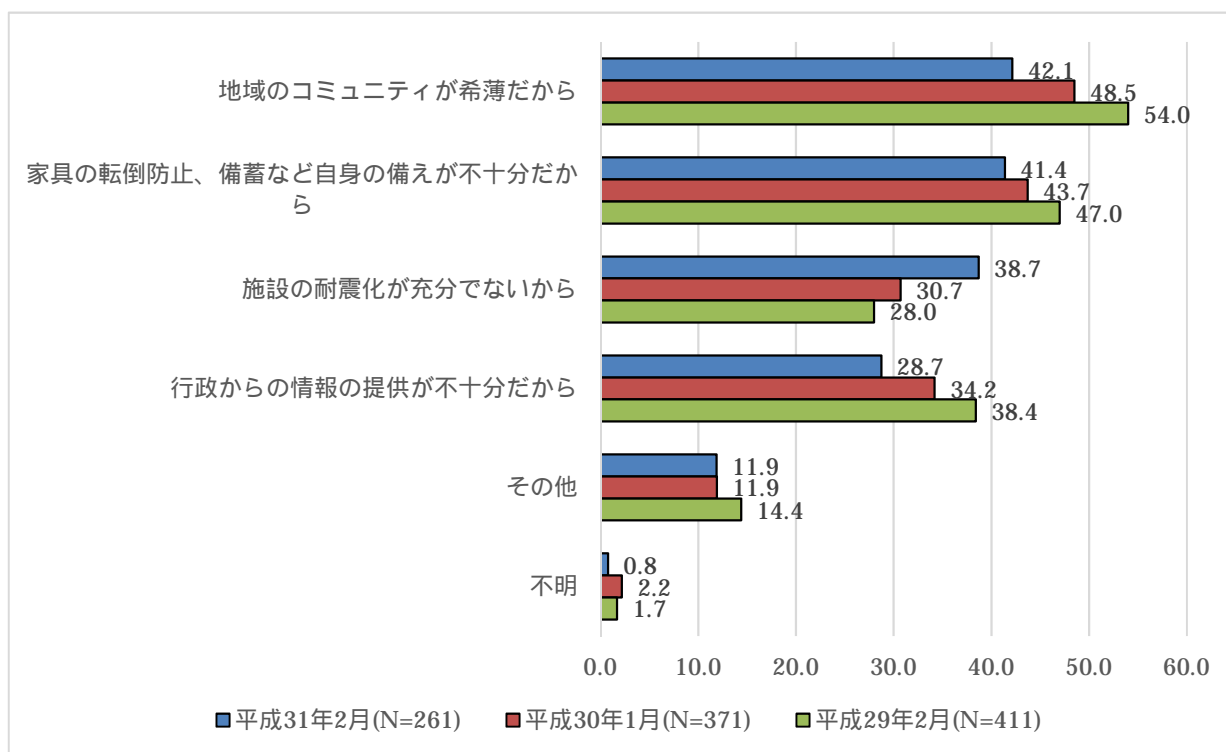
次に、生命・財産が守られると思わない市民（「あまり思わない」及び「思わない」の合計）が、そう思う理由は、「地域のコミュニティが希薄だから」42.1%（第10回48.5%）、「家具の転倒防止、備蓄など自身の備えが不十分だから」41.4%（第10回43.7%）、「施設の耐震化が充分でないから」38.7%（第10回30.7%）、「行政からの情報の提供が不十分だから」28.7%（第10回34.2%）となっている。

最後に、市民が行っている防災対策としては、「備蓄などを行っている」50.3%（第10回45.2%）、「避難場所等の確認をしている」46.0%（第10回47.4%）、「家具に転倒防止器具を設置している」36.4%（第10回35.6%）が上位に挙げられた。一方、「特にしていない」と答えた市民の割合は、第11回（平成31年2月）が21.4%であり、第10回（平成30年1月）の22.9%と比べると1.5%減少している。

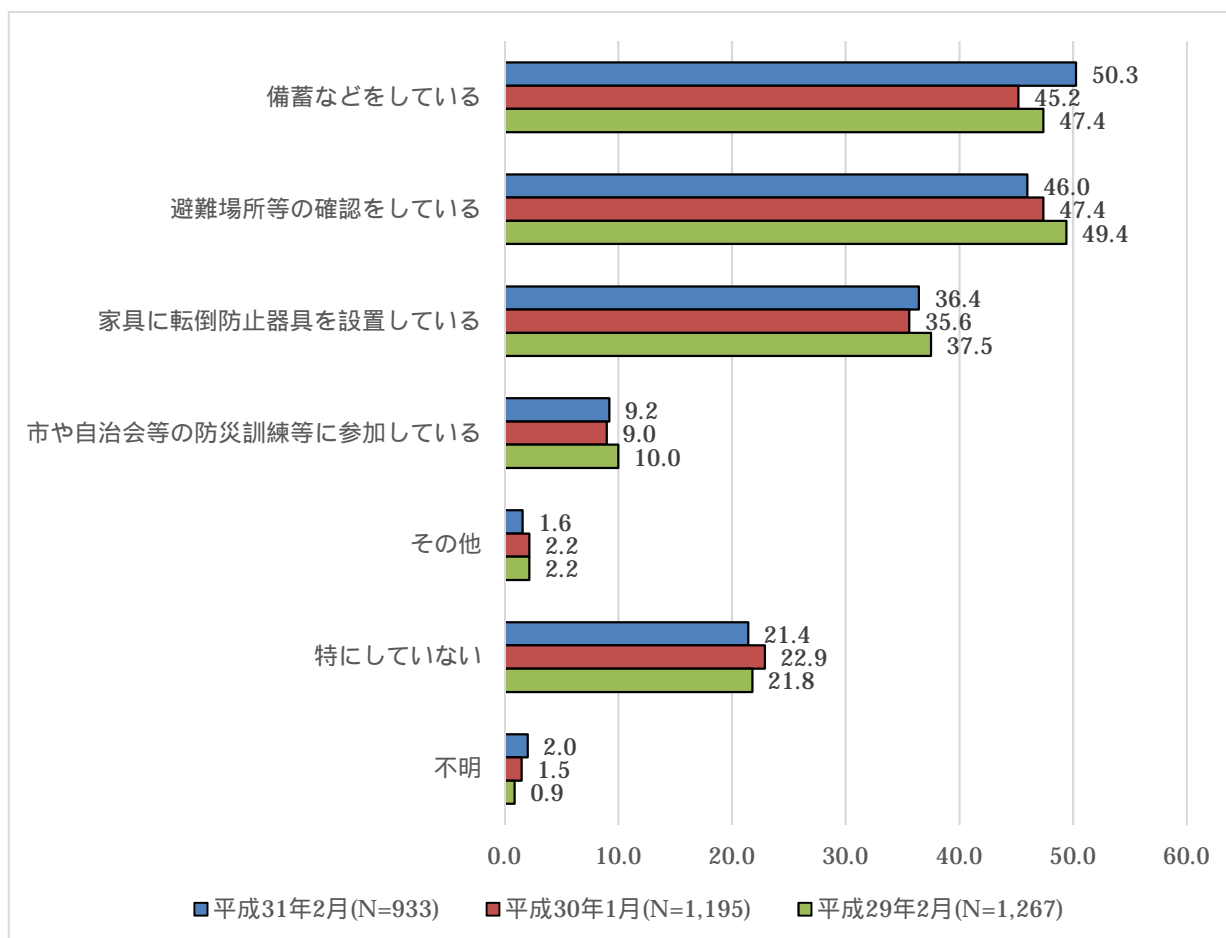
問24 あなたは、国立市内で地震や災害が起こったときに生命・財産が守られると思いますか？



問25 問24で「あまり思わない」、「思わない」と答えた方に伺います。
それはなぜですか？（複数選択可）



問26 あなたは、ご自身で何か防災対策を行っていますか？（複数選択可）



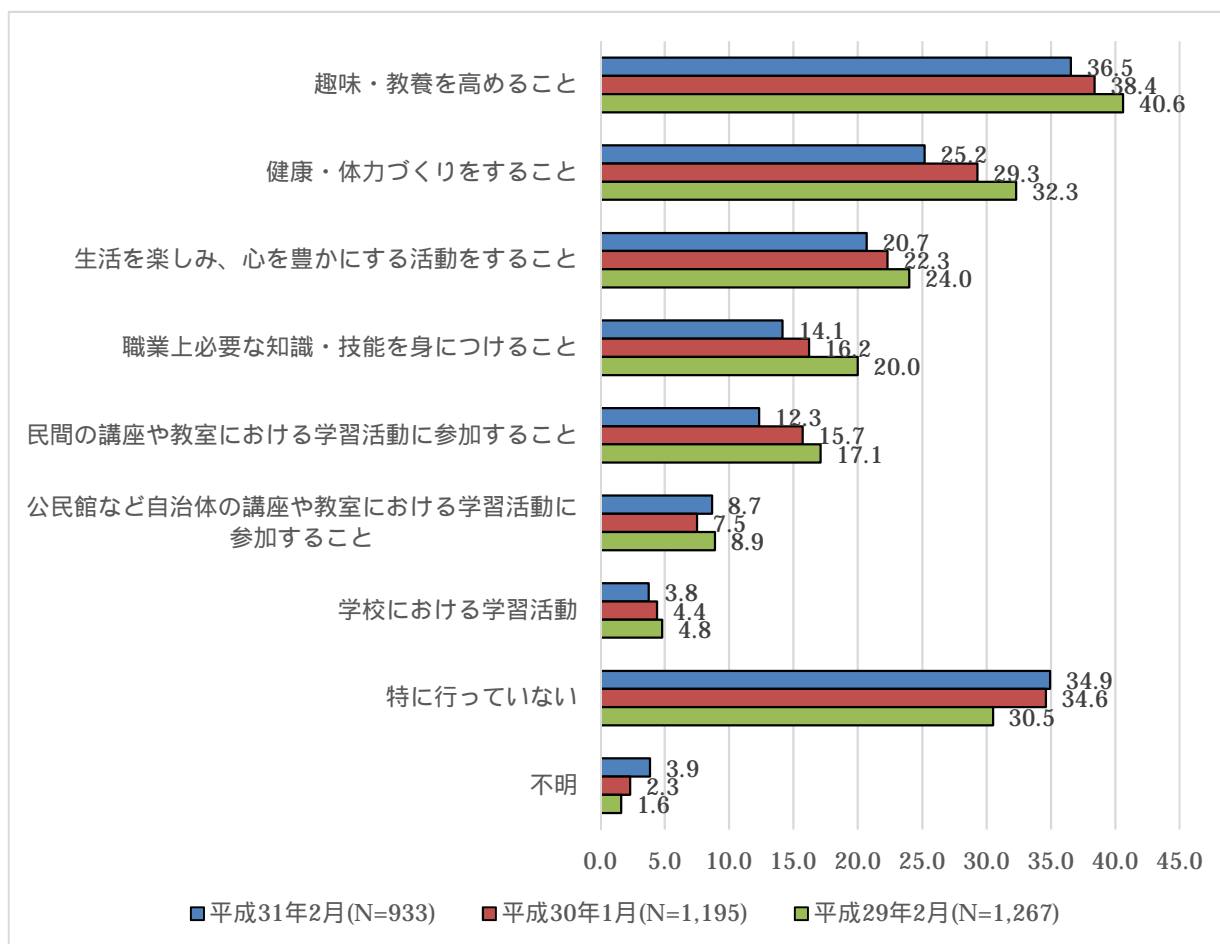
(11) 生涯学習活動

市民が過去1年間に行った生涯学習活動は、「趣味・教養を高めること(図書館の利用等)」36.5%(第10回38.4%)、「健康・体力づくりをすること」25.2%(第10回29.3%)、「生活を楽しみ、心を豊かにする活動をする事」20.7%(第10回29.3%)が上位に挙げられた。一方、生涯学習活動を特に行っていない市民の割合は、第11回(平成31年2月)が34.9%であり、第10回(平成30年1月)の34.6%と比べるとあまり変化はみられなかった。

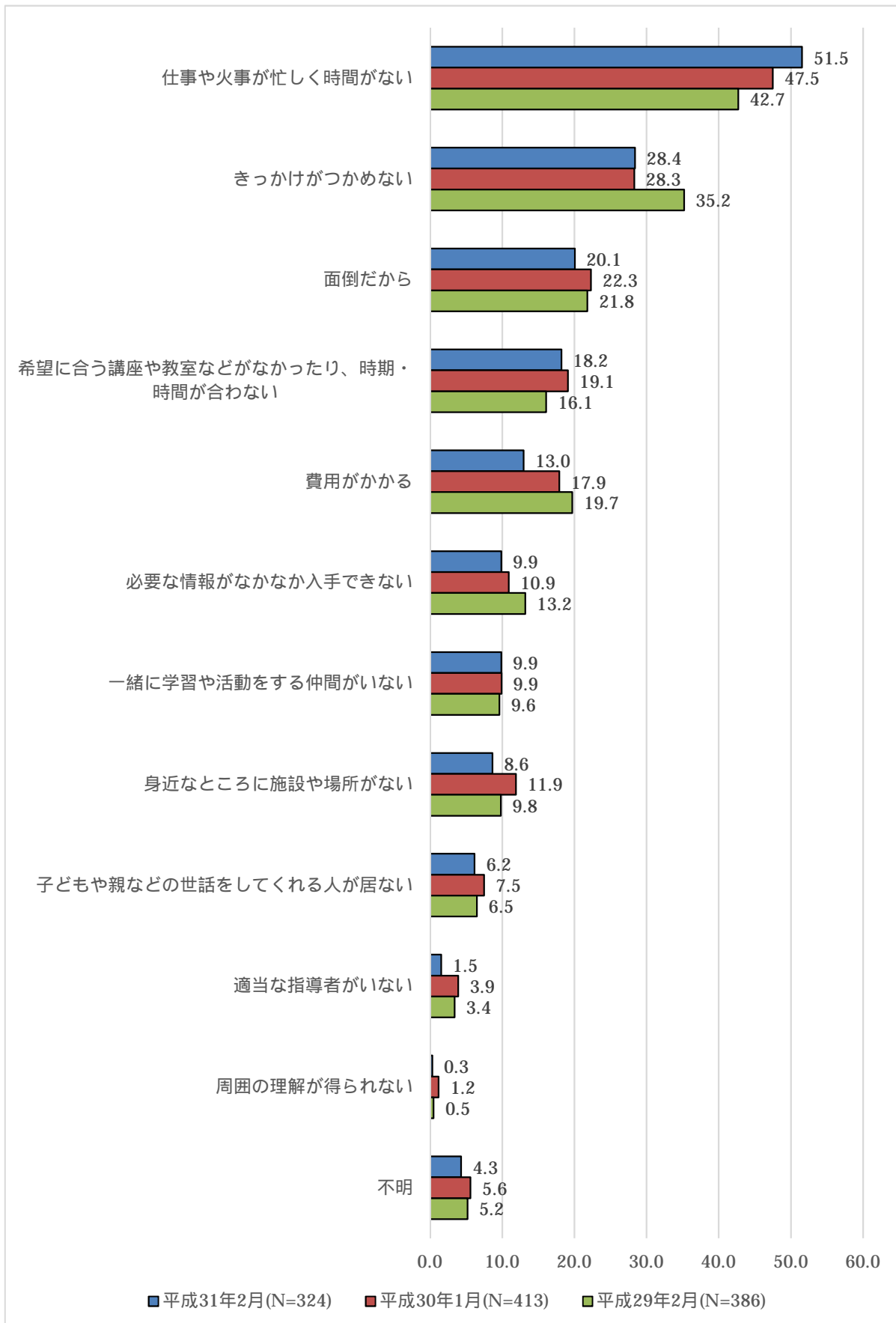
次に、生涯学習活動を特に行っていない市民が、活動を行っていない理由は、「仕事や家事が忙しくて時間がない」51.5%(第10回47.5%)、「きっかけがつかめない」28.4%(第10回28.3%)、「面倒だから」20.1%(第10回22.3%)が上位に挙げられた。

さらに、生涯学習を行っている市民が、学習で身につけた知識や技術をどのように生かしているかは、「発表会や展示会の参加」12.0%(第10回13.6%)、「地域の活動(自治会や青少年団体、老人クラブ等)」8.4%(第10回7.0%)が上位に挙げられた。一方、「特にない」と答えた市民の割合は、第11回(平成31年2月)が64.2%であり、第10回(平成30年1月)の61.9%と比べると2.3%増加している。

問27 あなたは、過去1年間に以下のような生涯学習活動をしたことがありますか？

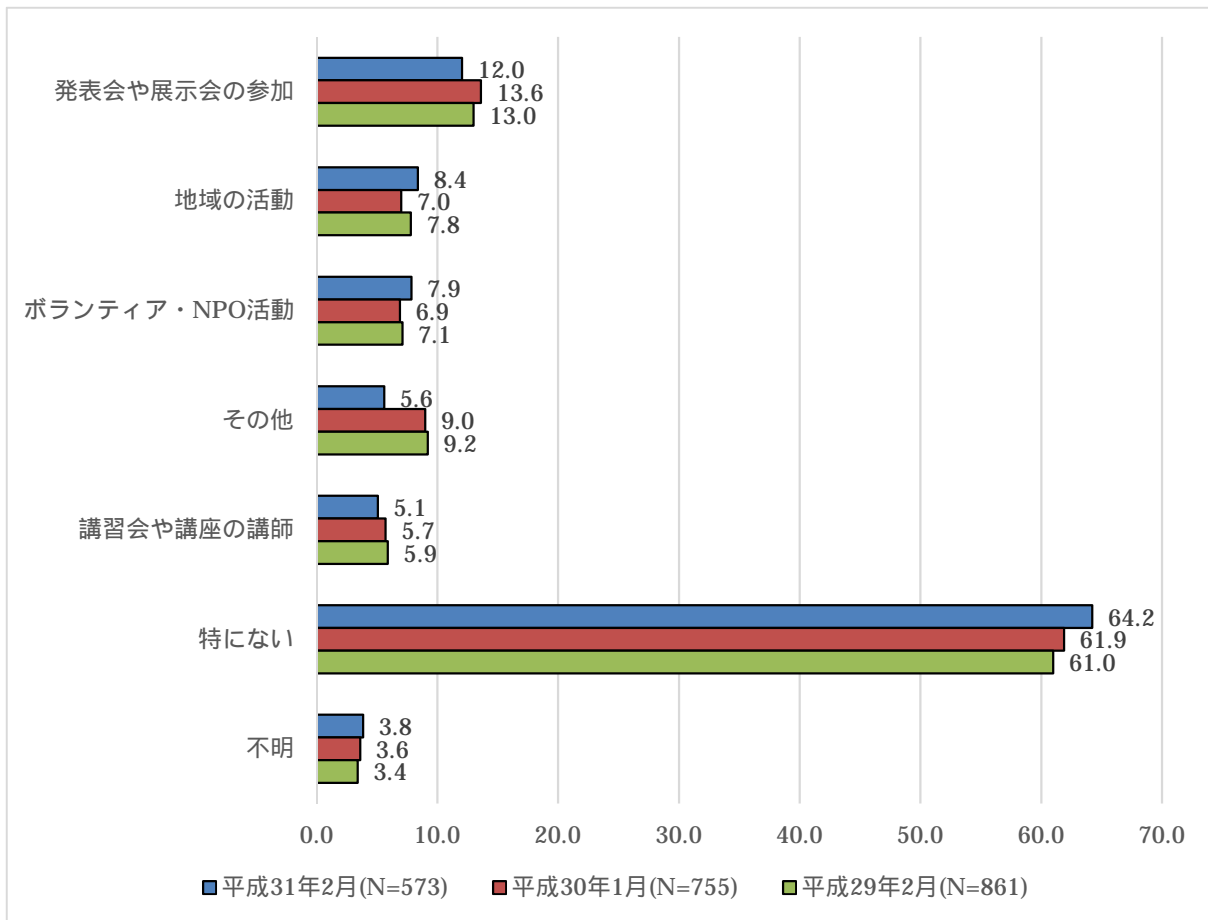


問28 問27で「特に行っていない」と答えた方に伺います。
それはどうしてでしょうか。



問29 問27で「特に行っていない」以外を選択した方に伺います。

学習で身につけた知識や技術を地域や社会にどのように生かしていますか？



(12) 文化・芸術活動

過去1年間に文化・芸術活動を鑑賞した市民の割合(「相当ある」及び「まあまあある」の合計)は、第11回(平成31年2月)が50.4%であり、第10回(平成30年1月)の47.6%と比べると2.8%増加している。

次に、過去1年間に文化・芸術活動を鑑賞した市民が、主に市外で文化・芸術活動を鑑賞した割合は84.8%(第10回80.4%)となっており、主に市内で文化・芸術活動を鑑賞した割合の14.7%(第10回18.1%)を大きく上回っている。

さらに、過去1年間に文化・芸術活動を全く鑑賞していない市民が、関心がある割合(「関心はある」及び「まあまあ関心がある」の合計)は、第11回(平成31年2月)が46.8%であり、第10回(平成30年1月)の50.6%と比べると3.8%減少している。

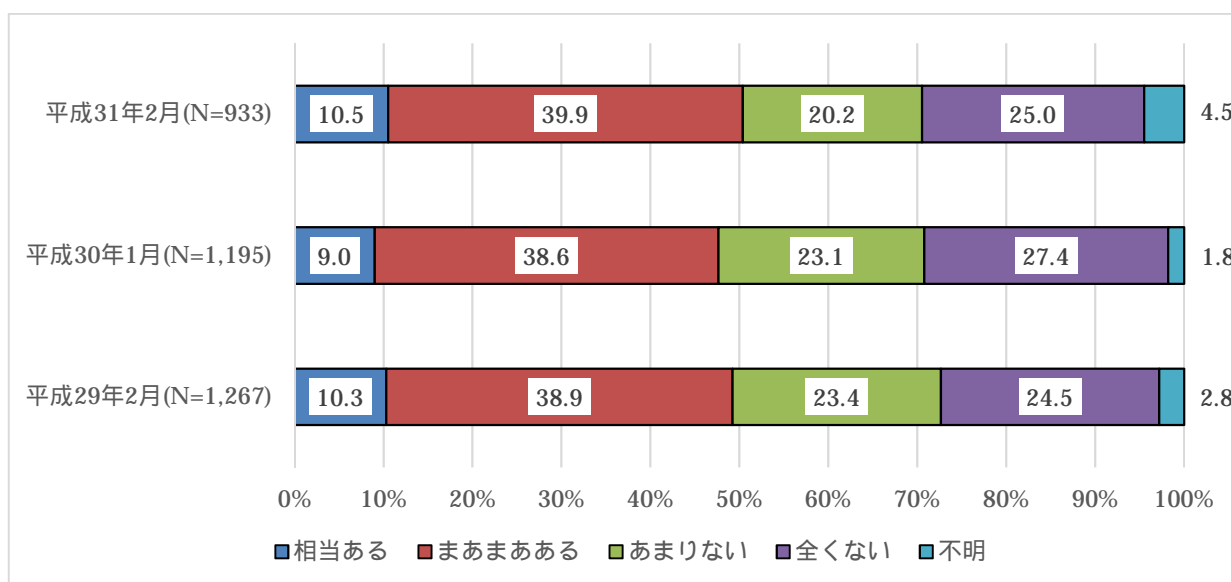
過去1年間に文化・芸術活動を行った市民の割合は、第11回(平成31年2月)が22.1%であり、第10回(平成30年1月)の22.7%と比べるとあまり変化はみられなかった。

過去1年間に文化・芸術活動を行った市民が、主に市外で文化・芸術活動を行った割合は66.5%(第10回62.0%)となっており、主に市内で文化・芸術活動を行った割合の35.0%(第10回37.3%)を上回っている。

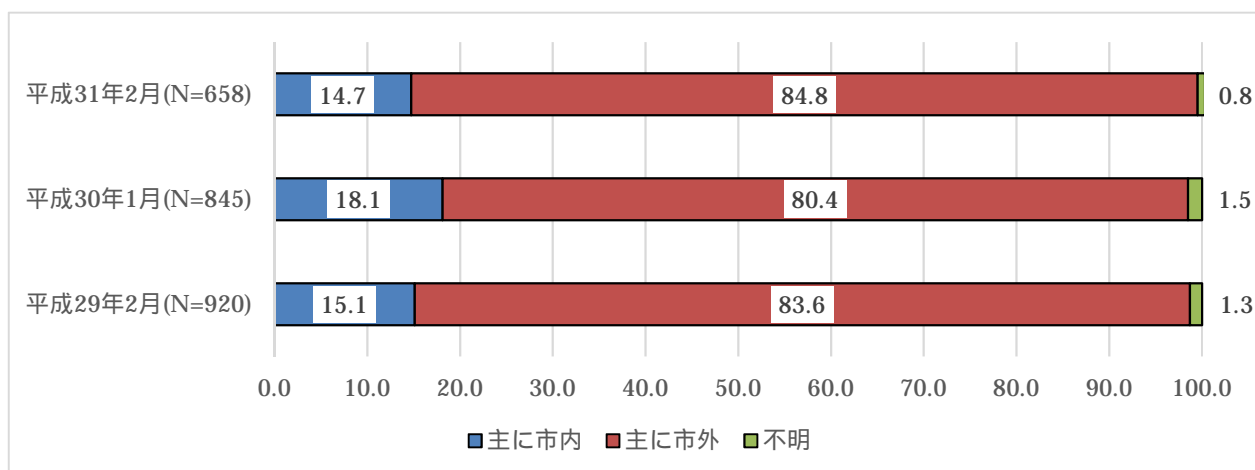
過去1年間に文化・芸術活動を行っていない市民が、関心がある割合(「関心はある」及び「まあまあ関心がある」の合計)は、第11回(平成31年2月)が46.3%であり、第10回(平成30年1月)の47.5%と比べると1.2%減少している。

問30 あなたは、文化・芸術活動を過去1年間にどの程度鑑賞しましたか？

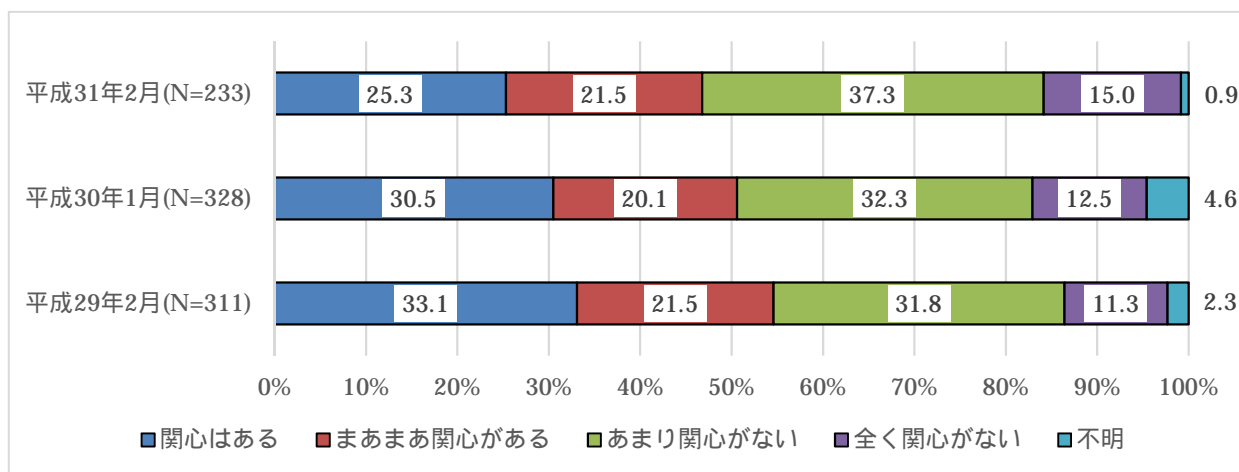
文化・芸術活動...音楽、演劇・演芸、舞踊、美術、文芸、生活文化(生け花、茶道、ファッション、人形、盆栽、園芸、囲碁、将棋など)、映画など



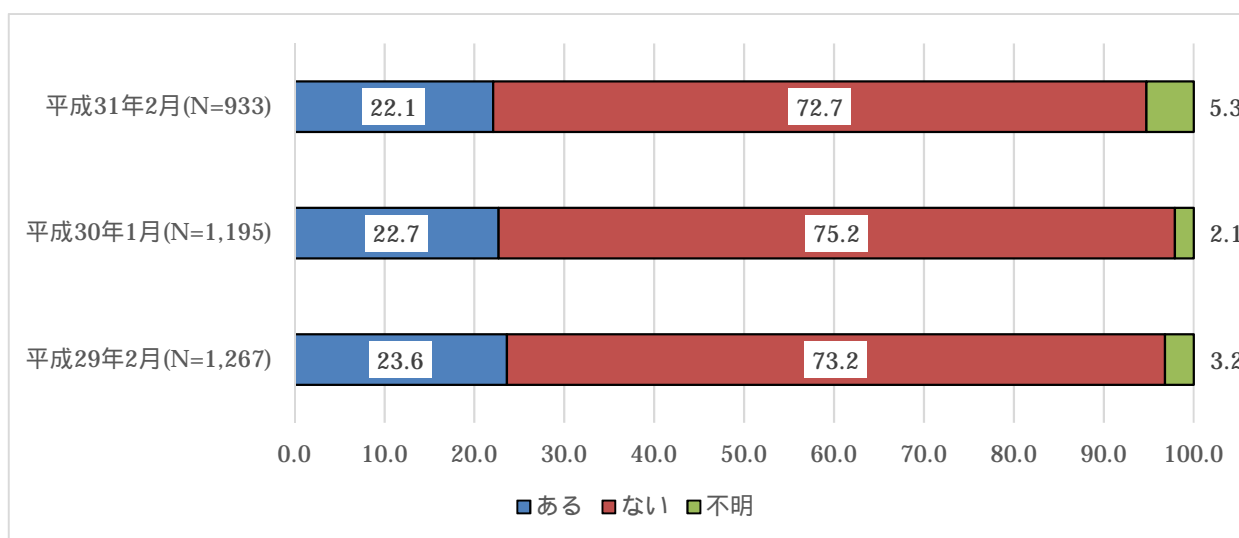
問3 1 問3 0で「全くない」以外と答えた方に伺います。
主にどこで文化・芸術活動を鑑賞しましたか？



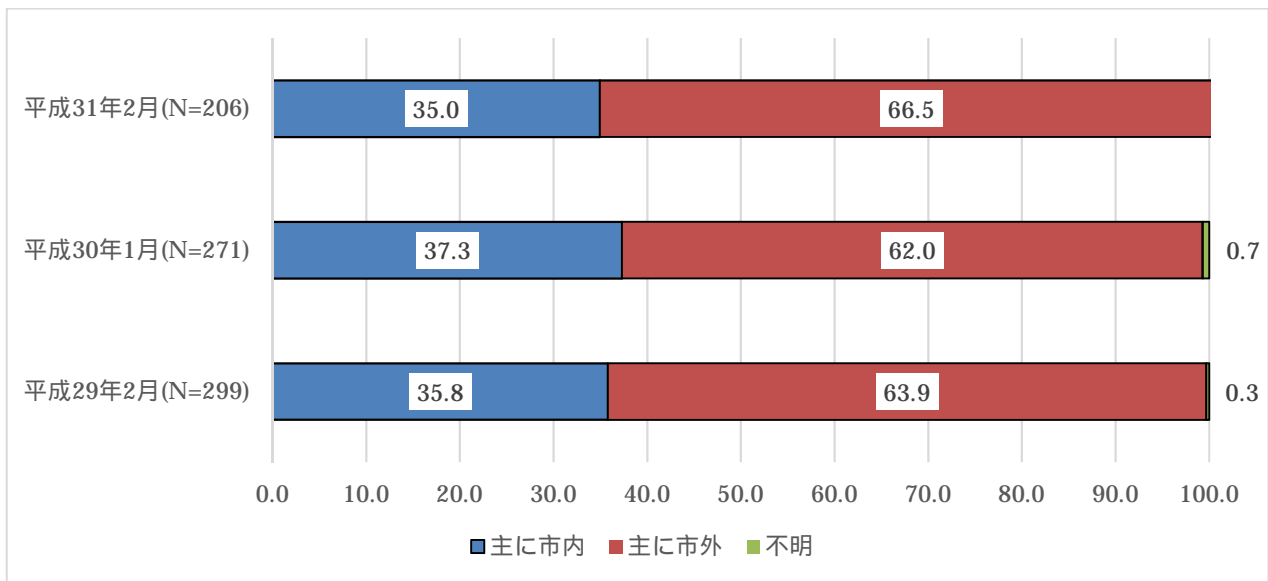
問3 2 問3 0で「全くない」と答えた方に伺います。
関心はありますか？



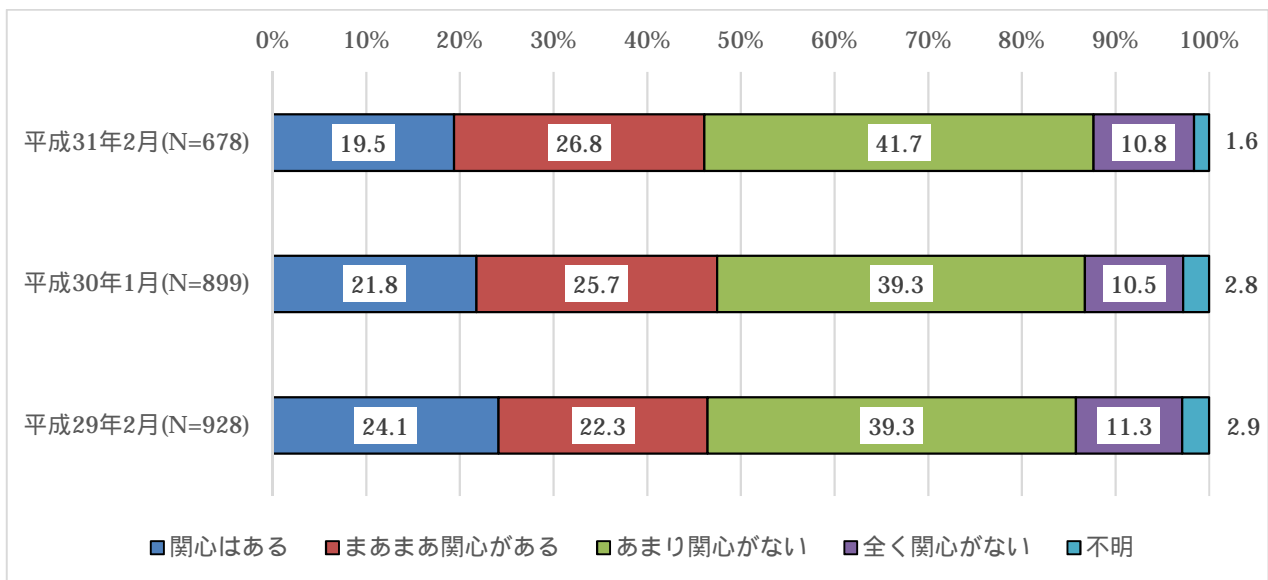
問3 3 あなたは、文化・芸術活動を過去1年間にご自分で行ったことがありますか？



問3 4 問3 3で「ある」と答えた方に伺います。
主にどこで文化・芸術活動を行いましたか？



問3 5 問3 3で「ない」と答えた方に伺います。
関心はありますか？



(13) 歴史・文化遺産

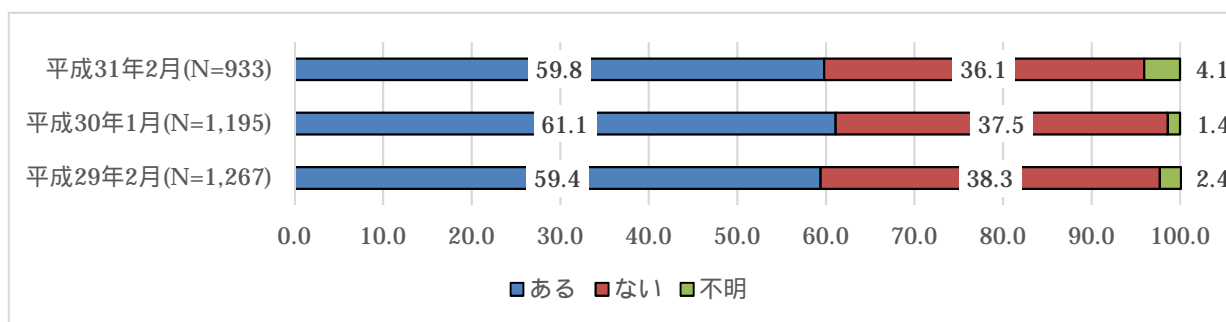
過去1年間で市内の歴史・文化遺産を訪れたことがある市民の割合は、第11回(平成31年2月)が59.8%であり、第10回(平成30年1月)の61.1%と比べると1.3%増加している。

次に、過去1年間で市内の歴史・文化遺産を訪れたことがない市民が、訪れなかった理由は、「過去に既に訪れたから」30.9%(第10回31.3%)、「興味が無いから」28.2%(第10回27.2%)、「訪れたいが時間がないから」26.4%(第10回22.1%)、「歴史・文化遺産があることを知らないから」12.5%(第10回14.7%)となっている。

さらに、市内の歴史・文化遺産が地域で活用されていると思う市民の割合(「思う」及び「わりと思う」の合計)は、第11回(平成31年2月)が28.2%であり、第10回(平成30年1月)の25.8%と比べると2.4%減少している。

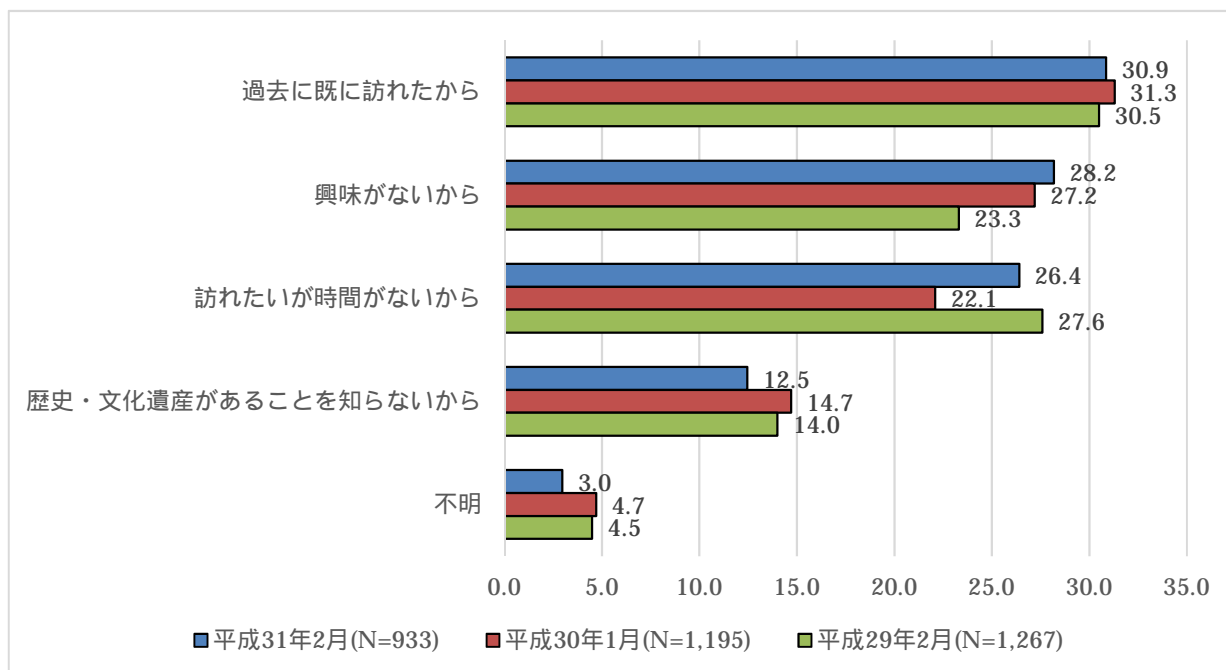
問36 あなたは、過去1年間で市内の歴史・文化遺産を訪れたことがありますか？

歴史・文化遺産...谷保天満宮、古民家、南養寺、四軒在家遺跡、滝乃川学園、下谷保一号墳、ママ下湧水など

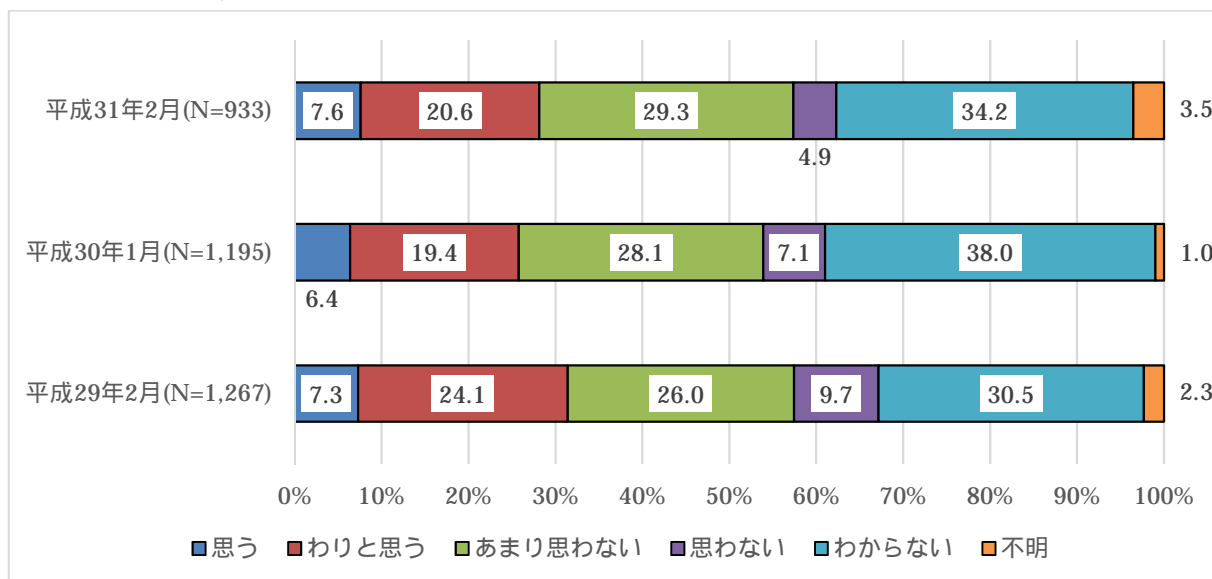


問37 問36で「ない」と答えた方に伺います。

それはなぜでしょうか？



問38 あなたは、市内の歴史・文化遺産が地域で活用されていると思いますか？

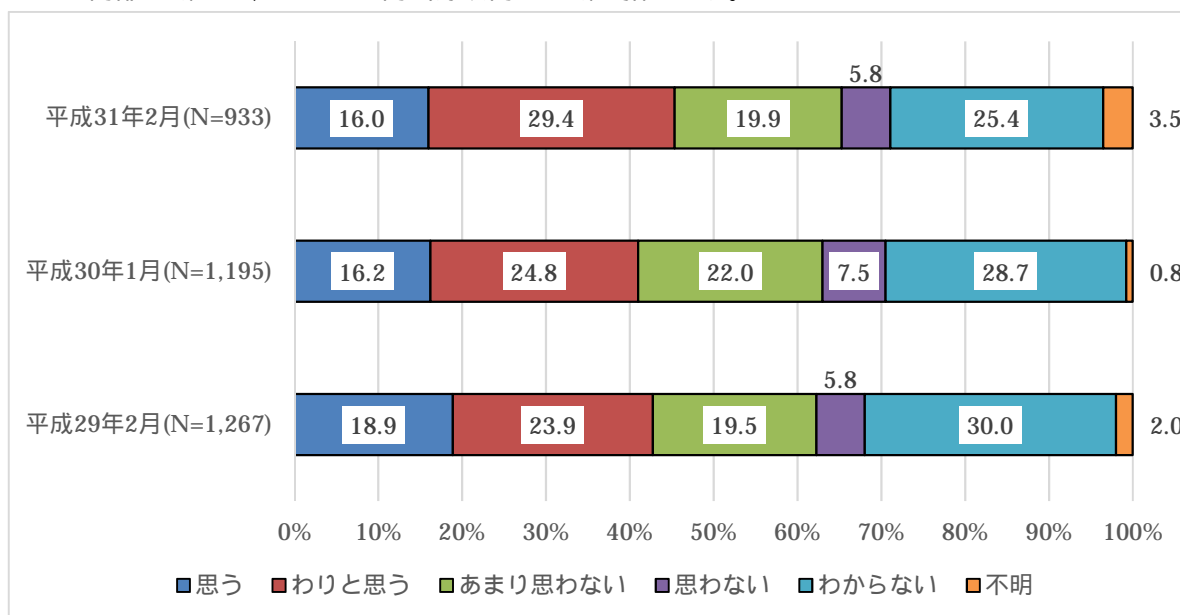


(14) 南部地域の魅力

南部地域が「歴史・文化・自然環境」の観点から魅力があると思う市民の割合(「思う」及び「わりと思う」の合計)は、第11回(平成31年2月)が45.3%であり、第10回(平成30年1月)の41.0%と比べると4.3%増加している。

問39 あなたは、国立市の南部地域が「歴史・文化・自然環境」の観点から魅力があると思いますか？

南部地域とは、主にJR南武線以南の地域を指します。



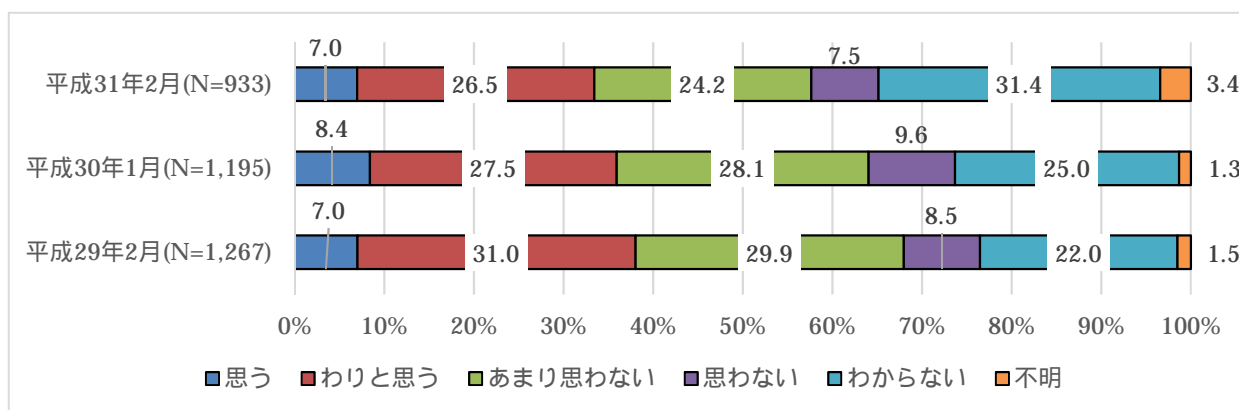
(15) 男女平等

男女の役割が平等になっていると思う市民の割合（「思う」及び「わりと思う」の合計）は、第11回（平成31年2月）が33.4%であり、第10回（平成30年1月）の35.9%と比べると2.5%減少している。

次に、平等になっていないと思う市民が、そう思った場面は、「家庭」47.0%（第10回49.0%）、「職場」45.6%（第10回51.0%）、「その他日常生活」41.2%（第10回43.0%）が上位に挙げられた。

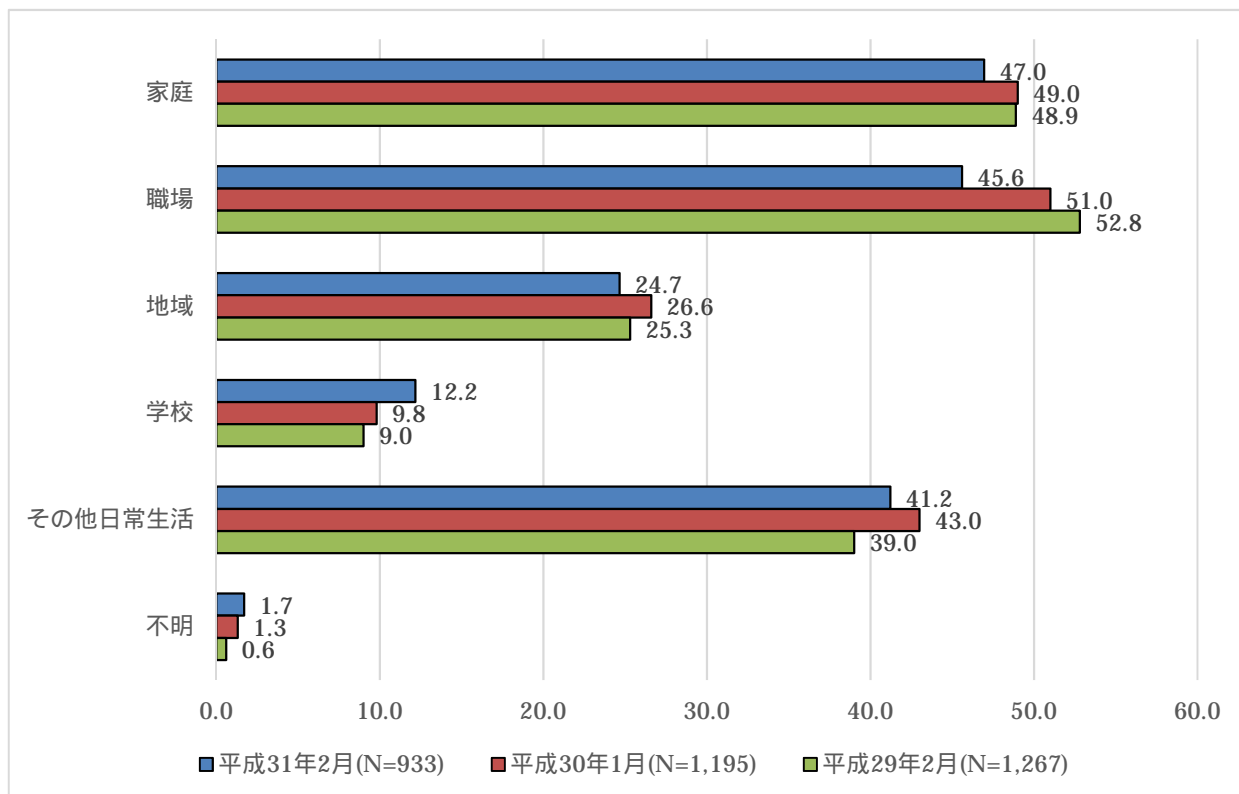
さらに、様々な社会参画の機会において男女の比率が適切になっていると思う市民の割合（「適切だと思う」及び「ある程度適切だと思う」の合計）は、第10回（平成30年1月）が28.9%であり、第9回（平成29年2月）の29.4%と比べるとあまり増減はない。また、第8回（平成28年2月）の28.7%と比べるとあまり増減はない。

問40 あなたは、男女の役割が平等になっていると思いますか？

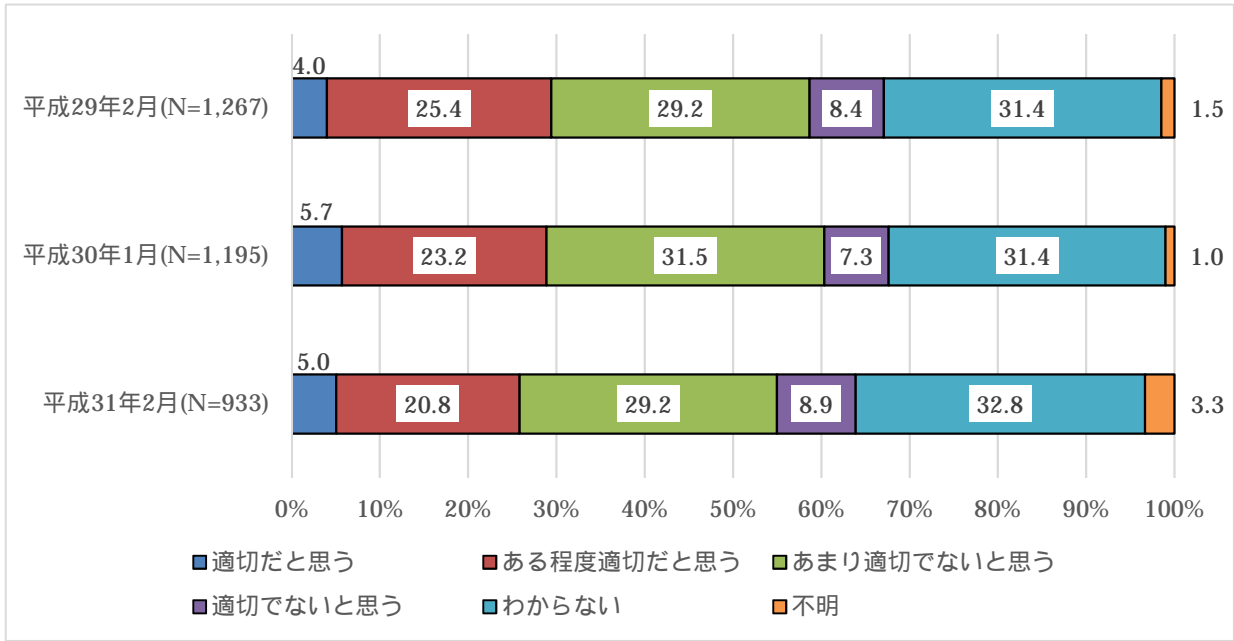


問41 問39で「あまり思わない」、「思わない」と答えた方に伺います。

それはどのような場面でそう思われますか？（複数選択可）



問42 あなたは、様々な社会参画の機会において男女の比率が適切になっていると思いますか？



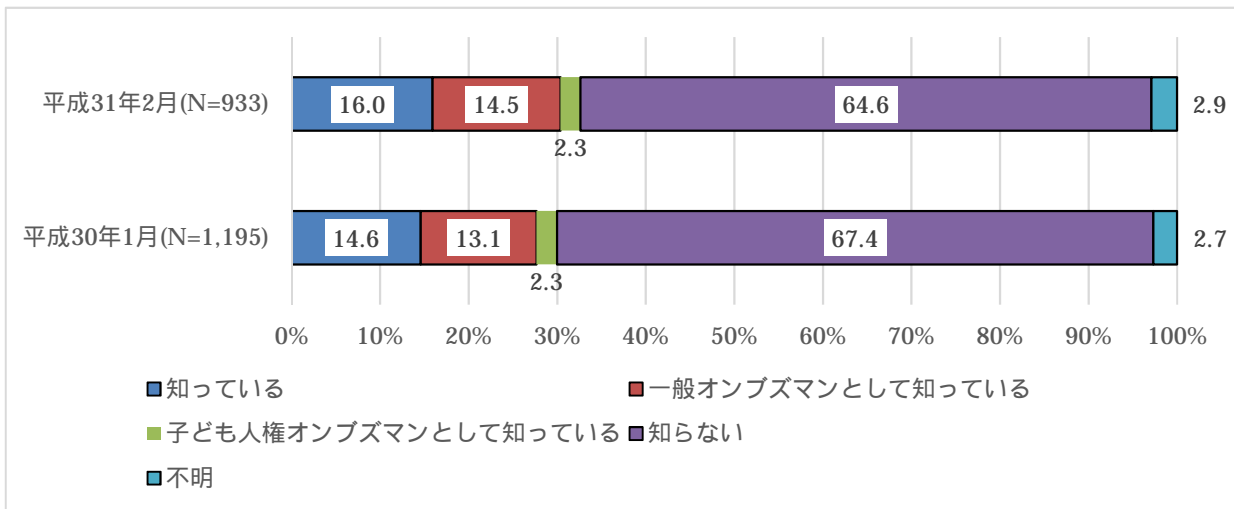
3. 市政について

(1) オンブズマン制度

国立市の総合オンブズマン制度を知っている市民の割合(「知っている」、「一般オンブズマンとして知っている」及び「子ども人権オンブズマンとして知っている」の合計)は、第11回(平成31年2月)が32.7%であり、第10回(平成30年1月)の30.0%と比べると2.7%増加している。

問43 あなたは、国立市の総合オンブズマン制度を知っていますか？

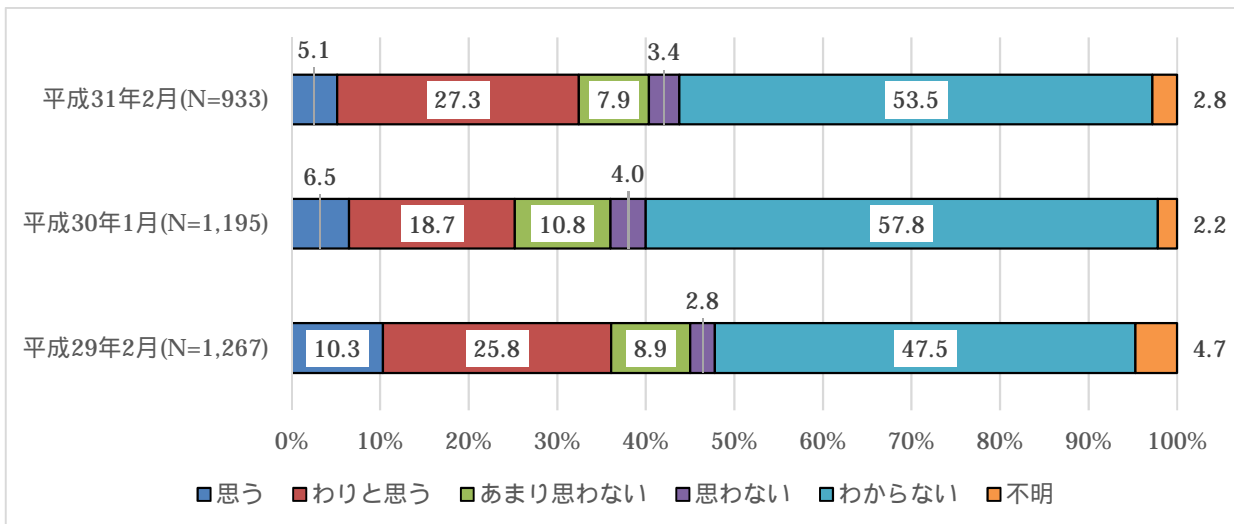
総合オンブズマンとは、市の機関等の苦情処理を行う「一般オンブズマン」と子どもの人権相談・救済を行う「子ども人権オンブズマン」の総称です。



(2) 人権

国立市が人権を尊重した行政活動を行っていると思う市民の割合(「思う」及び「わりと思う」の合計)は、第11回(平成31年2月)が32.5%であり、第10回(平成30年1月)の25.2%と比べると7.3%増加している。

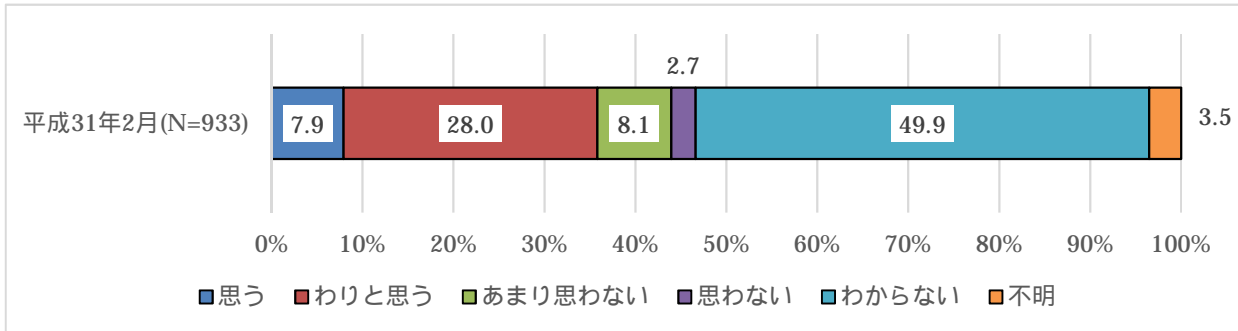
問44 あなたは、国立市が人権を尊重した行政活動を行っていると思いますか？



(3) 平和

国立市が平和を尊重した行政活動を行っていると思う市民の割合(「思う」及び「わりと思う」の合計)は、第11回(平成31年2月)では35.9%となった。

問45 あなたは、国立市が平和を尊重した行政活動を行っていると思いますか？



(4) 市政情報の入手

市民の市政情報の入手手段は、「市報等広報紙」84.1%（第10回83.7%）、「ホームページ」12.4%（第10回11.8%）、「人づて」4.4%（第10回7.5%）が上位に挙げられた。

次に、市政情報を市報等広報紙から入手していると答えた市民の各種広報紙の読み方は、まず市報くにたちでは、「毎号しっかりと読む」42.4%（第10回37.7%）、「めくる程度に確認する」35.8%（第10回34.3%）が上位に挙げられている。

くにたちの教育では、「めくる程度に確認する」29.8%（第10回27.3%）、「あまり読まない」17.5%（第10回20.8%）が上位に挙げられている。

公民館だよりでは、「めくる程度に確認する」29.7%（第10回26.8%）、「必要・興味ある記事のみ読む」26.8%（第10回29.0%）が上位に挙げられている。

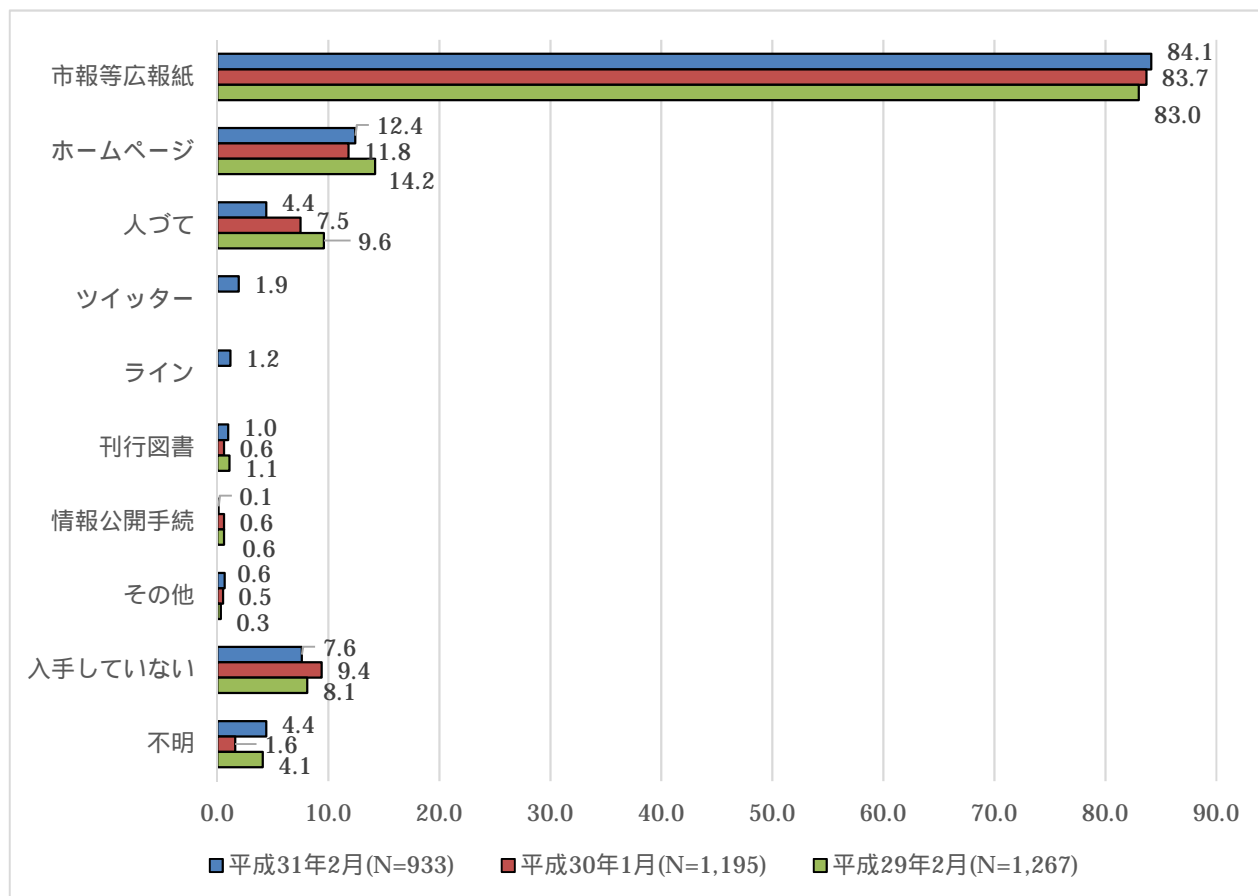
議会だよりでは、「めくる程度に確認する」27.5%（第10回26.2%）、「必要・興味ある記事のみ読む」22.3%（第10回25.3%）が上位に挙げられている。

さらに、どのような広報紙であれば読みたいと思うかは、「興味のある記事やコラムなどの読み物が掲載されている」38.8%（第10回40.0%）、「文字が大きくて見やすい」38.0%（第10回34.2%）、「写真やイラストがたくさん掲載されている」31.4%（第10回30.6%）が上位に挙げられた。

最後に、入手したい市政情報が十分に公開されていると思う市民の割合は、第11回（平成31年2月）が21.2%であり、第10回（平成30年1月）の20.8%と比べるとあまり変化はない。

問46 あなたは、何によって市政情報を得ていますか？（複数選択可）

「市政情報」とは、財政状況、予算・決算、計画書、報告書、会議録、イベント情報など市に係る様々な情報のことを指します。

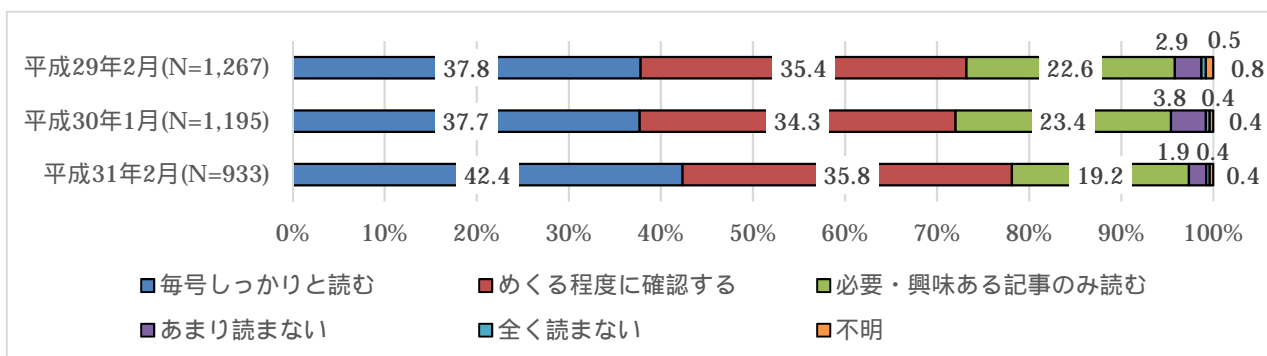


問47 問46で「市報等広報紙」と答えた方に伺います。

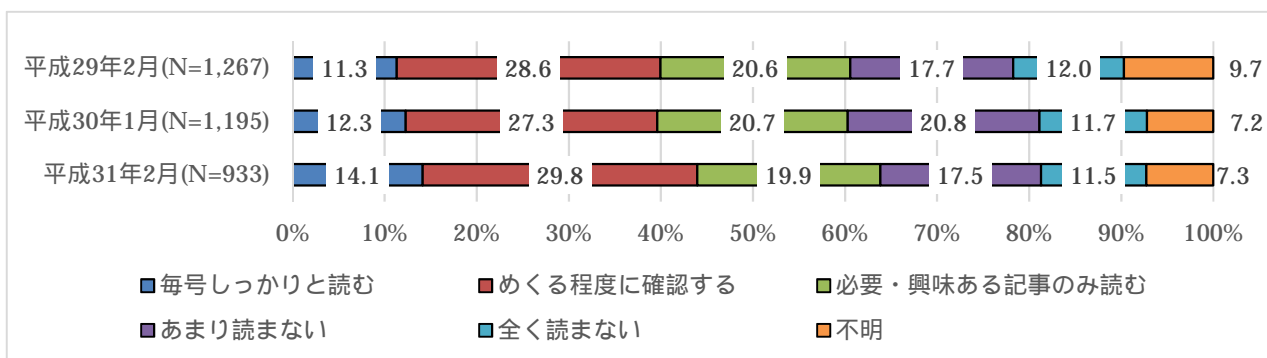
あなたは、次の～の各種広報紙をどの程度読んでいますか？

各広報紙の該当する項目の番号にそれぞれ1つにしてください。

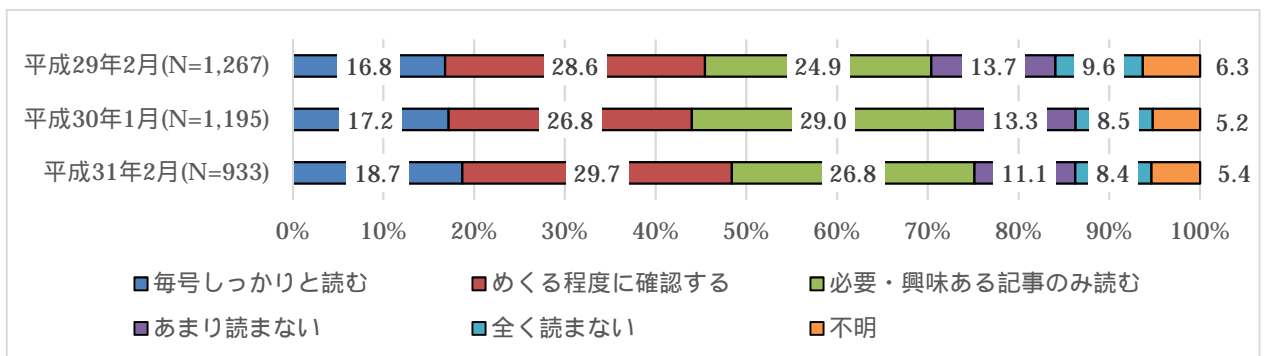
市報くにたち



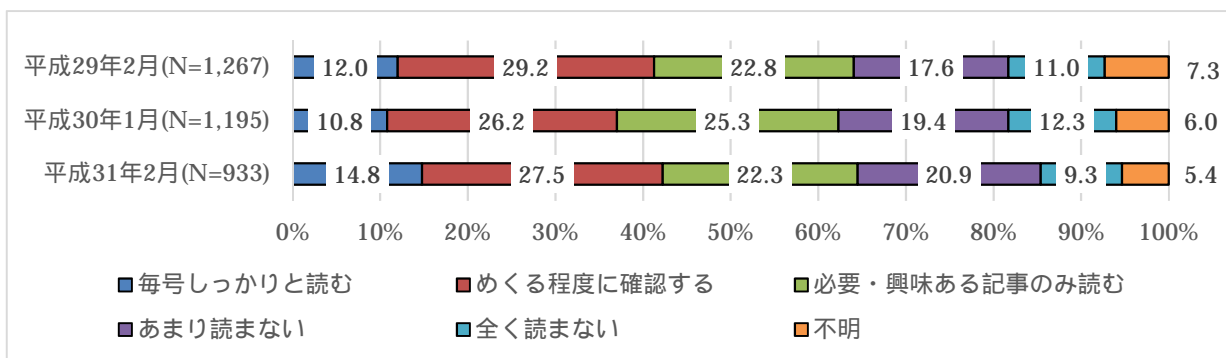
くにたちの教育（教育委員会）



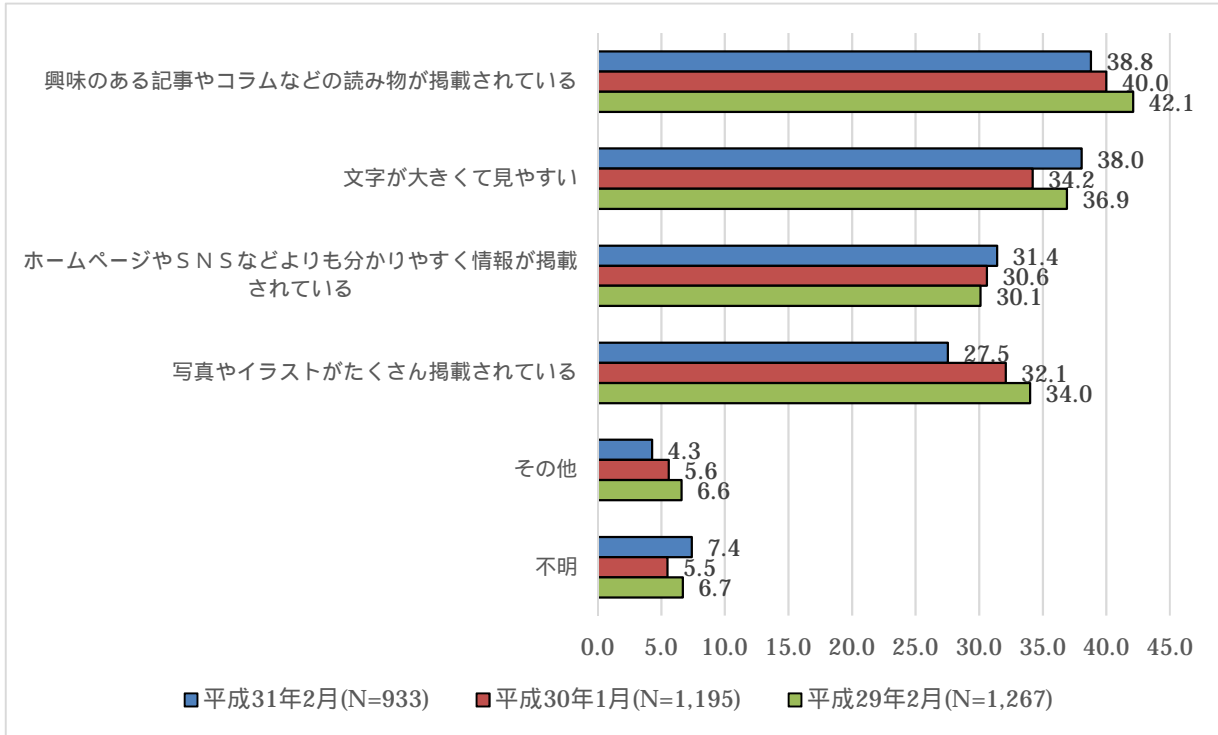
公民館だより（公民館）



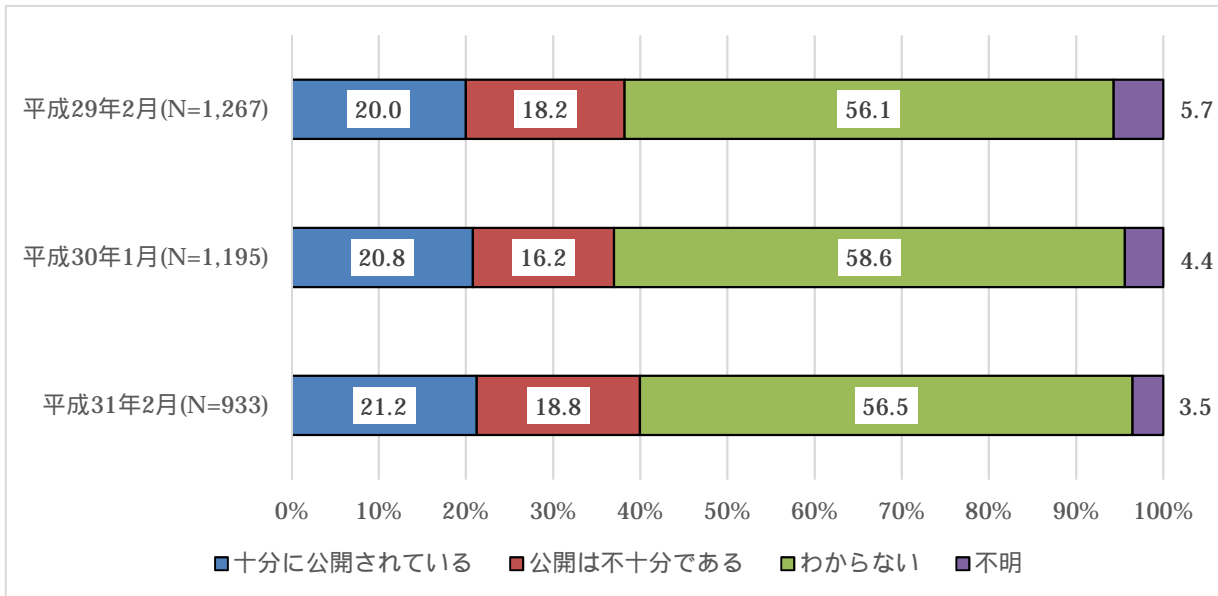
議会だより（市議会）



問48 あなたは、どのような広報紙であれば読みたいと思いますか？（複数選択可）



問49 あなたは、入手したい市政情報が十分に公開されていると思いますか？

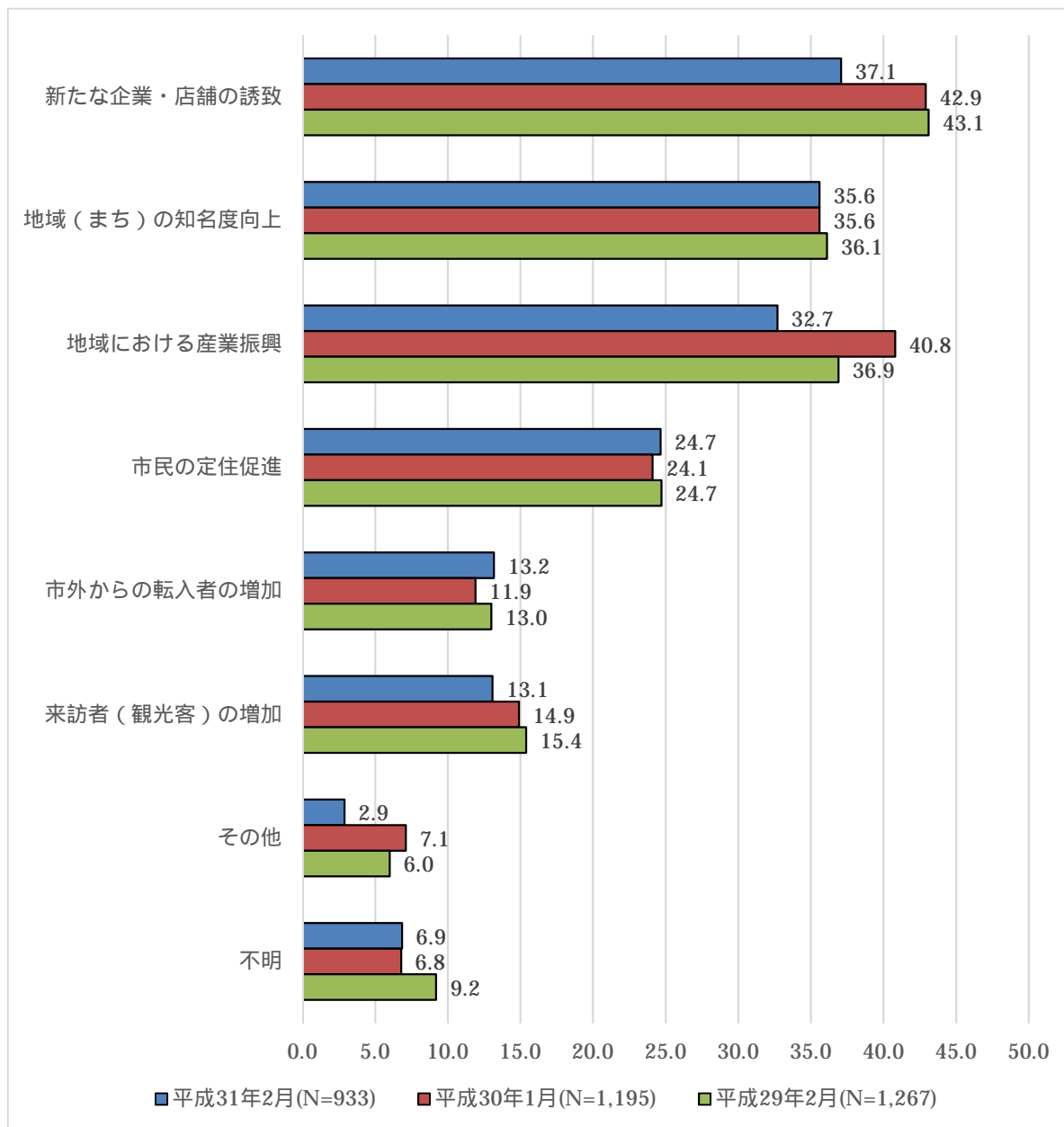


(5) 市の P R 効果

国立市が市を P R するにあたり、どのような効果を期待するかは、「新たな企業・店舗の誘致」37.1% (第10回42.9%)、「地域(まち)の知名度向上」35.6%(第10回35.6%)、「地域における産業振興」32.7%(第10回40.8%)が上位に挙げられた。

問 5 0 あなたは、国立市が市を P R するにあたり、どのような効果を期待しますか？

(複数選択可)

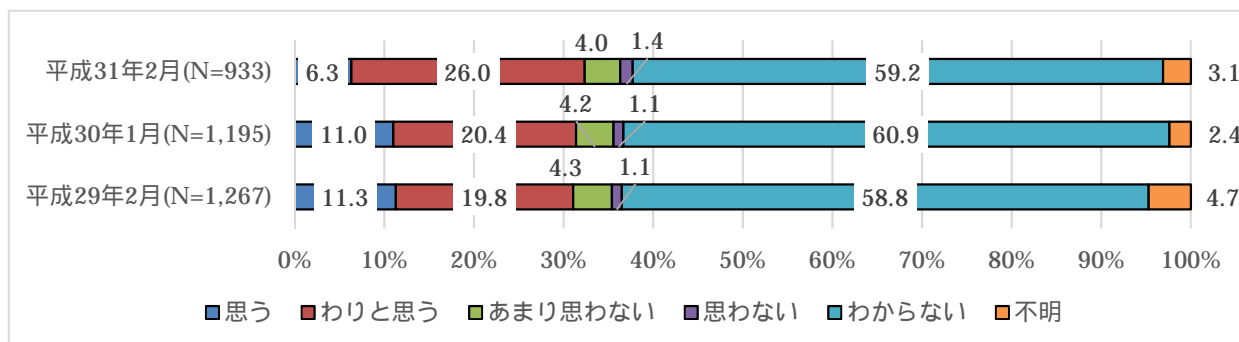


(6) 個人情報保護

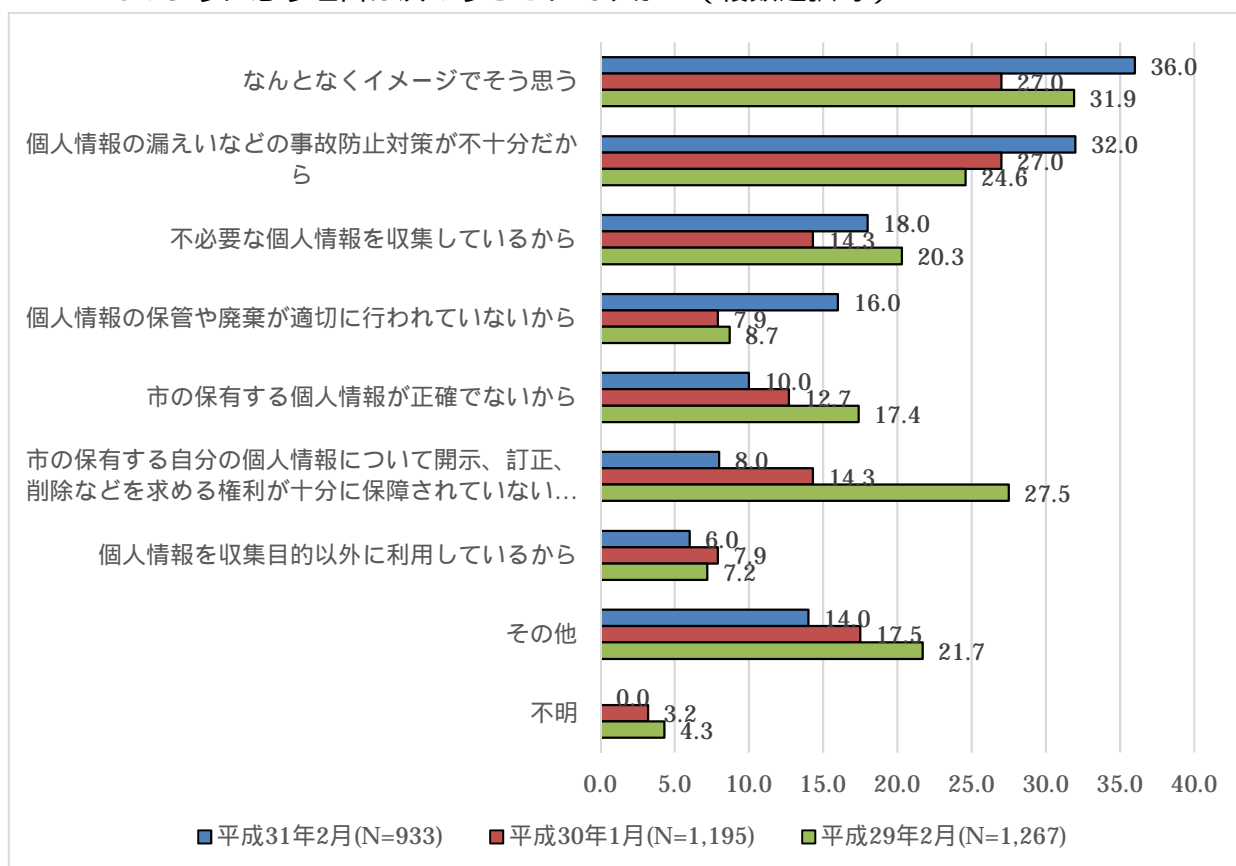
国立市が個人情報の保護を的確に行っていると思う市民の割合(「思う」及び「わりと思う」の合計)は、第11回(平成31年2月)が32.4%であり、第10回(平成30年1月)の31.4%と比べるとあまり変化はみられなかった。

次に、国立市が個人情報の保護を的確に行っていないと思う市民が、そう思う理由は、「なんとなくイメージでそう思う」36.0%(第10回27.0%)、「個人情報の漏えいなどの事故防止対策が不十分だから」32.0%(第10回27.0%)、「不必要な個人情報を収集しているから」18.0%(第10回14.3%)、「個人情報の保管や廃棄が適切に行われていないから」16.0%(第10回7.9%)が上位に挙げられた。

問5 1 あなたは、国立市が個人情報の保護を的確に行っていると思いますか？



問5 2 問5 1で「あまり思わない」、「思わない」と答えた方に伺います。
そのように思う理由は次のうちどれですか？(複数選択可)

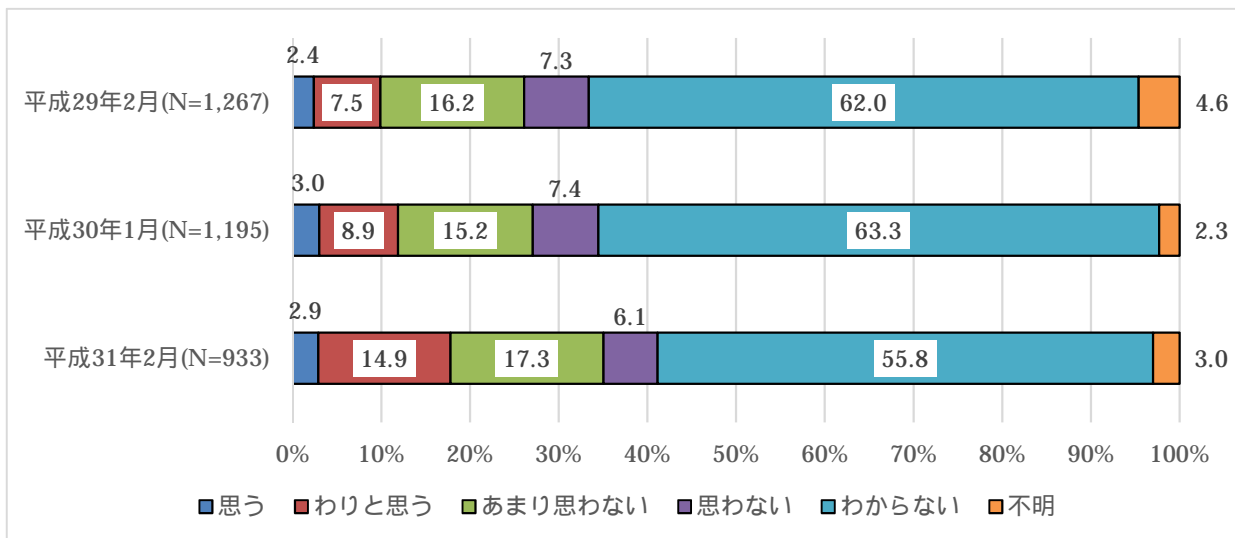


(6) 市のICTサービス

国立市はICTを利用したサービスが充実していると思う市民の割合（「思う」及び「わりと思う」の合計）は、第11回（平成31年2月）が17.8%であり、第10回（平成30年1月）の11.9%と比べると6.9%増加している。

問5 1 あなたは、国立市はICTを利用したサービスが充実していると思いますか？

ICTを利用したサービスとは、スポーツ施設等予約システムや証明書のコンビニ交付、市議会インターネット中継システムなど、コンピュータやインターネット等の情報通信技術を活用したサービスを指します。

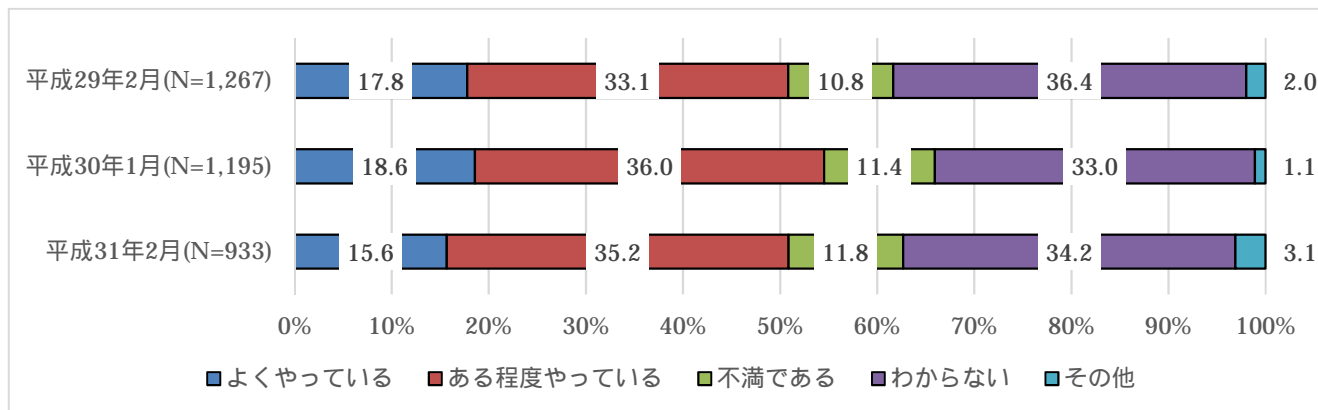


(7) 市の組織運営や職員の仕事ぶり

市の組織運営や職員の仕事ぶりに信頼感を持つ市民の割合（「よくやっている」及び「ある程度やっている」の合計）は、第11回（平成31年2月）が50.8%であり、第10回（平成30年1月）の54.6%と比べると3.8%減少している。

次に、市の組織運営や職員の仕事ぶりが不満である市民が、どのような点でそう感じたかは、「市の職員と接した時の対応が悪かった」63.6%（第10回57.4%）、「たらいまわしにされた」20.0%（第10回23.5%）、「要望を市役所が対応してくれなかった」15.5%（第10回21.3%）が上位に挙げられた。

問5 2 あなたは、市の組織運営や職員の仕事ぶりをどう思いますか？



問5 3 問5 2で「不満である」と答えた方に伺います。

それはどんな点でそう感じますか？（複数選択可）

